

「現行の政令濃度上限値を超える低レベル放射性廃棄物処分の  
基本的考え方について（案）（平成 10 年 5 月 28 日  
原子力委員会原子力バックエンド対策専門部会）」  
に対する意見（寄せられたご意見をそのままタイプしたもの）

番号	No. 1	氏名	一ノ本 肇	年齢	64 才
概要					
安全神話を真話にする努力を要請したい・・・！					
意見					
<p>原子力の平和的な利用が必要である事は、国民の殆どが認めてい る。文化生活を営みながら至便性を求める以上、エネルギー源として の原子力発電に頼らざるを得ない。</p> <p>ただ「動燃」や「核リサイクル」の事故と情報不足が、国民の安全 神話を崩壊して仕舞った。情報公開よりも安全広報だけが一人歩きす るようでは、原子力利用公益行政を甚だしく遅延させるに違いない。 全国民の暮らしを護るために、代替エネルギーが大量的に開発される までは原子力が確実に必要である事を啓蒙しつつ、安全性を信じさせ る不祥事等の速やかな情報公開が望まれよう。隠蔽工作が多ければ多 い程、国民の信頼が益々遠のくであろうと自覚して貰いたい・・・！</p> <p>戦前や戦中の耐乏生活に戻る気ならいざ知らず、理想的で豊かな暮 らしのためには原発が絶対に要る事を再確認させるべきである！</p> <p>当然ながら安全性の確保が肝要なのは、言うまでもない・・・。</p>					

番号	No. 2	氏名	岡本 忠雄	年齢	61 才
概要					
(1) 行政、地元住民によって組織する管理、監視機構をつくり、放射性物 質の漏出のキャッチをはかり、地下水の利用を上水道に全面切りかえた い。又海外での再処理について海上輸送の安全性を重視したい。					
意見					
<p>低レベル放射性廃棄物処分について、現在は埋設処分（廃棄物をセメ ントやアスファルトで固めてドラム缶に詰めて密閉する。）の型をとっ ています。ところが、今、青森県六ヶ所村に低レベル放射性廃棄物埋設セ ンターに20万本のドラム缶を埋設し、将来的には300万本埋設する計画 となっていますが、管理が粗ざでドラム缶が破損し、物質が漏出し、 地下水に放射性物質が混じり、管理や監視に問題になる可能性があるか もしれません。</p> <p>そこで提案したいのは！！</p> <p>(1) 通産省、日本原燃、青森県、六ヶ所村役場などの行政に住民代表 を加えた管理、監視機構をつくり、放射性物質の漏出をキャッチ し、地下水汚染を地域住民に知らせるという方式、又地下水利用 (飲料水)をやめて、しっかりした飲料(上水道)施設を完備す ることが必要ではないでしょうか？</p> <p>(2) 低レベルでも、半減期がきわめて長いという低レベル放射性廃液 を海外(イギリスフランス)で再処理し、船で、わが国に返還さ れて、貯蔵されています。</p> <p>核燃料輸送の安全について、IAEA(国際原子力機関)で放射性物 質安全輸送規則を定めて、各国に受け入れを勧告していますが、 公海上でもし船舶が事故にあった時、拡散する低レベル放射性廃 棄物をどうすればよいのか心配です。</p> <p>(3) 商業用に再処理方法の研究もまた必要です。やがてはドラム缶の 埋設が限界いっぱいになった時、どうすればよいのか、商業ベー スで処分ができないのか考えることが必要です。</p>					

番号	No. 3	氏名	松井 和一郎	年齢	68 才
----	-------	----	--------	----	------

概要

放射性廃棄物の効率的な利用方

意見

私達の様な素人には、詳しい事は存じませんが、廃棄物を埋め立てには限度が有り、毎年増加する物をどうして行くのか考えます。

私の提案ですが。

燃える物は高濃度の焼却施設を建設して安全に、焼却すれば増える事は有りませんし、金属物は溶解して再利用すればリサイクルとして効率的であり、言うことがありません。

そうしないと放射性廃棄物は年々増加して、廃棄所が不足して不可能に成りますね。

高濃度で効率的な焼却炉を建設して、解決策を考えなければ、処分場が足らなく成り問題でありますから、今後の原子力行政について深く掘り下げて研究して頂きたく存じます。

番号	No. 4	氏名	高橋 道夫	年齢	59 才
----	-------	----	-------	----	------

概要

原子力施設建設地は、管理期間終了後もとの山林、田野に戻すこと。

意見

一般に、国民は原子力にたいして広島、長崎、チェルノブイリの荒廃した風景をイメージしている。いくら原子力委員会が専門用語を用いて安全性を力説しても、国民は納得しがたいのである。そこで、原子力施設建設地の管理期間が終了してその安全性を保証するのであれば、管理地を施設設置前の山林、田野に戻すのが一番分かり易いと思われる。かっては、鬱蒼とした緑の樹木に覆われ四季毎に山林、田野を楽しんだ土地である。50年から100年後、原子力発電の任務を全うした土地は再び土地の人達の憩いの山林、田野に戻るのである。国民は、春に新緑、花を咲かせ、秋に紅葉する景色に浸って初めて原子力発電の安全性を確認するであろう。

番号	No. 5	氏名	平林 国雄	年齢	66 才
----	-------	----	-------	----	------

概要
①海外の放射性廃棄物処理状況例は原子力発電施設を多く所有する国を取りあげるべき ②将来を見通したうえでの処理施設の深度と安全性確保の説明不足

意見
<p>原子力発電所の運転操業を続ければ、使用済み制御棒や炉内構造物などの放射性廃棄物がでることは当然の理であり、その処分にあたって多角的に検討し、十分な安全の確保ができている案ですが、以下の意見を述べたい</p> <p>処分空洞施設の設置深度について、第1章4 処分施設概念にスウェーデン・フィンランドの例が示され、同章6・1・1では「十分な余裕をもった深度に処分することが必要である」としながらも、東京都における建築物の地下階は99.9%までが地下4階までであり、最も深い国会図書館で地下30m（地下8階）－中略－地下鉄、上下水道などに利用される深度は50m程度以浅であるとし、50～100m程度の深度の地下に処分すれば－中略－人間が廃棄物に接觸する可能性は十分小さくなると考えられる。としている。</p> <p>海外の地下施設を参考するのにアメリカ・フランス・ドイツ・ロシア・カナダ・イギリスなど原子力発電施設を多く所有する国をさけ、上記2国を取りあげ、更に東京の現状説明をしているのは50～100mに処分空洞を設置したいがための三段論法ではないのだろうか。</p> <p>原子力発電あるいは原子力施設を所有する企業にとっては、コストを低くおさえることが必須条件であるが、それ以前に国民に対する被ばく管理を優先した計画が大事であり、地表から50mと100mでは倍の深度になる。50mを除いて「100m程度の深度」に表現を変えられないだろうか。</p> <p>更に、この資料は既設のものにもとづいたものであり科学・文化の進歩の著しい現在、少なくとも100年先を予測し、100年後には人間生活環境はこう変化するだろう。その場合でも、地下利用深度は〇mまでと考えられるので、これだけの処分空洞設置の深度があれば、十分安全が確保できるという将来を展望した論理が、今一つ欠けていると思う。</p>
意見
<p>原子力発電所からの廃棄物、固体状で燃えるものは焼却。燃えない物は圧縮して量を減らす。液体状は水分を蒸発させて量を少なくする。そして固めて（セメント等）貯蔵庫に保管する。数十年間でもとの量の半分以下に減。その後埋設する。埋設する場所の確保。再処理施設での廃棄物と次々処分の深さに頭がいたい所である。多くの人達の技術、安全、必要である事が分る。</p> <p>主婦の立場からの問題意見です。</p> <p>家庭から出る生ゴミ他。廃棄物を喰うバクテリアはないか？。問題のダイオキシン、活火山の火口にダイオキシンと共にに入る。考えられないものかと思う。ゴミ。ゴミ。されどゴミみんなで考えたいものです。</p>

番号	No. 6	氏名	神戸 妙子	年齢	55 才
----	-------	----	-------	----	------

概要
家庭で出るゴミの処理方法案について

意見
<p>原子力発電所からの廃棄物、固体状で燃えるものは焼却。燃えない物は圧縮して量を減らす。液体状は水分を蒸発させて量を少なくする。そして固めて（セメント等）貯蔵庫に保管する。数十年間でもとの量の半分以下に減。その後埋設する。埋設する場所の確保。再処理施設での廃棄物と次々処分の深さに頭がいたい所である。多くの人達の技術、安全、必要である事が分る。</p> <p>主婦の立場からの問題意見です。</p> <p>家庭から出る生ゴミ他。廃棄物を喰うバクテリアはないか？。問題のダイオキシン、活火山の火口にダイオキシンと共にに入る。考えられないものかと思う。ゴミ。ゴミ。されどゴミみんなで考えたいものです。</p>
意見
<p>原子力発電所からの廃棄物、固体状で燃えるものは焼却。燃えない物は圧縮して量を減らす。液体状は水分を蒸発させて量を少なくする。そして固めて（セメント等）貯蔵庫に保管する。数十年間でもとの量の半分以下に減。その後埋設する。埋設する場所の確保。再処理施設での廃棄物と次々処分の深さに頭がいたい所である。多くの人達の技術、安全、必要である事が分る。</p> <p>主婦の立場からの問題意見です。</p> <p>家庭から出る生ゴミ他。廃棄物を喰うバクテリアはないか？。問題のダイオキシン、活火山の火口にダイオキシンと共にに入る。考えられないものかと思う。ゴミ。ゴミ。されどゴミみんなで考えたいものです。</p>

番号	No. 7	氏名	前田 翼	年齢	58 才
----	-------	----	------	----	------

概要
----

放射性廃棄物のリサイクル利用について
--------------------

意見
----

素人の意見として、科学技術庁というと巨額な資金を使う、人工衛星や原子力といった、既知のものよりも未知の分野というイメージが強よくあります。それだけに高度に技術的、アカデミックで秘密めいており、一般人やジャーナリストでも立ち入ることがむつかしい、尊敬されいるが、どこかよそよそしい分野だと断言できます。

それだけに専門的で閉鎖的であることから、監視や、内部の混乱、不正、金銭の収支等公表されることが少なく、分りにくいことから、相当に問題があると思います。

原子力については、爆弾、放射線ということしか頭の中では分りませんが、利用については、例えば、ガソリンエンジンに対するディゼルエンジンのようなもので確かに力が強よく、CO<sub>2</sub>が少ないことが分っていても、良く利用できてないようなものだと思います。

近代分明で対応が遅れているのは、ゴミです。産業廃棄物は、例えば、冷蔵庫や、廃車の山のように至るところ、ごろごろあります。特に発展途上国に多いように見受けられます。

さて放射性廃棄物をどこに捨てるか、海に捨てるか陸地に捨てるか、どちらも生態系から人間に良くないと思います。しかば核燃料のリサイクルを考えるしか方法はないと思います。2010 年には、原発 20 基増設計画があります。どのように国民を納得させるかは、その技術力への信頼しかないと思います。幸い我が JR 新幹線は開業以来、ドイツと違って、保守員の不断の努力で無事故が続いている。リニア新幹線も十分、無事故で行けると信頼しています。原子力の方も、高い目標を毎日の保守、研究を全員が、国民公開の上、世界に通じる技術でリサイクルの方法を研究して、安全運転をしていただきたいと考えます。

番号	No. 8	氏名	閏間 玲子	年齢	35 才
----	-------	----	-------	----	------

概要
----

現行の政令濃度上限値を超える低レベル放射性廃棄物処分の基本的考え方についての原告書案を読んで
--

意見
----

原子力施設の運転に伴って、廃棄物が発生する。  
これまでその処分対策は確立されておらず、制度は整備されていない。というのを読んで、なぜ、という思いだ。

廃棄物を隔離したり、地下深くうめて、監視や、湧水の採取や測定をおこなうだけで、安全が守れるといえるのだろうか。

安全な処分に万全を期すのは、あたりまえの事で、もしもの時は、どうなのか、発生した物の責務とは、どこまで責任をとってくれるのか。

何がおこっても、うわべだけの情報という感じで、奥深くで、何がおこっているのか、細部がわからない。

フェールでおおわれているようで、いいところだけ、国民に伝えられているようで、一応、安全という、イメージがついているが、もっとわかりやすく、情報提供を行い、今以上の、安心と信頼を得てほしい。

番号	No. 9	氏名	松野 祥子	年齢	55 才
----	-------	----	-------	----	------

**概要**  
低レベル放射性廃棄物処分の安全確保について、いろいろ述べられているが、通産省の不明確な「P C B 機器の保管処置」のようなものであってはならない。「絶対安全！」の管理を！

**意見**

「現行の政令濃度上限値を超える低レベル放射性廃棄物処分の基本的考え方について(案)」という非常に長い専門部会報告書案を一読いたしましたが、長い間電気主任技術者として変電所勤務を続けている夫がよくいっていた「P C B 入り電気機器の廃棄をせよと以前に通産省から指示されてきたが、その適正な処置については、いつまで経っても指示されず、P C B 入り電気機器は各事業所の責任において保管し、その台帳を作り、絶対に人に触れないようにせよといっているが、現在のような大不況下でそんな機器を保管している事業場が倒産すると、その有害機器はどうなったか誰も知らない。また阪神大地震のような災害があった場合、有害機器は破壊し、P C B はその付近に拡散するだろう」ということを思い出す。

もちろん、このことは直接本案と関係はないが、有害物質ということでは、そして人命におよぼす非常に危険で広範囲に影響を与えるという点では同じであると思う。

本案の対象廃棄物処分に関する安全確保の考え方として、このような廃棄物を安全かつ合理的に処分するとともに、数百年の管理期間が経過した後の処分地について一般的な土地利用が制約されないようにするためには次の対策を講じることが必要であるとして、

①一般的であると考えられる地下利用に十分余裕を持った深度に処分する。

②放射性核種の移行抑制機能の高い地中を選ぶ。

③現行の低レベル放射性廃棄物が処分されているコンクリートピットと同等以上の放射性核種閉じ込め機能を持った処分施設を設置する。

などとあるが、この管理方針も前述のP C B 機器管理方針という極めて不明確なものにしてはならなく、「絶対安全！」という管理を継続していただくことを切望いたします。

番号	No. 10	氏名	森山 陽子	年齢	45 才
----	--------	----	-------	----	------

**概要**  
低レベル放射性廃棄物の処理処分の仕方について、大気中汚染の人体への影響などの不安や疑問点について述べたいと思います。

**意見**

私は、実際このモニターをするまで、放射性廃棄物があることすら知らなかったです。私のような無知な人もいることを考えて、もっと多く広報してほしいとまず思いました。まず、低レベル放射性廃棄物が気体、固体、液体とそれぞれの処理方法で処分されるわけですが、いろいろ不安材料をあげさせていただきます。

まず、気体は安全を確認し大気中に放出されますが、放射性物質の濃度は、確実なものであるのでしょうか？

たとえ微量であるけれど、大気中に放出されるのであれば、農作物などに残留されて、食物として私たちへの影響はないのでしょうか？次に、固体は焼却や圧縮処理されますが、焼却中に出る煙が大気汚染されていないでしょうか？そして、液体はドラム缶内で固化されて保管庫に貯蔵されますが、地震での破壊などにどのような対策を持っておられるのですか？

放射性物質の濃度は、量の多さ少なさではなく、大気中に必ず放出される現状で、今は人体への影響はなくとも長い間の蓄積でいつ影響が出るのかの不安はあります

最先端の技術開発で、放出される量がゼロになる時が**人類**にとっての原子力の重要性を認識させる時もあると思うのです。

番号	No. 11	氏名	吉田 守	年齢	才
----	--------	----	------	----	---

概要
----

なし
----

意見
----

・高β・γ廃棄物は本文中で2万m<sup>3</sup>、ドラム缶換算10万本と推定している。しかしながら、資料2-7の試算モデルでは、200リットルドラム缶にして100万本相当を埋設しており、その他のR-I施設を含めたとしても現実とかけ離れすぎてはいないか。

・高β・γ廃棄物処分場は来世紀分を考慮しても一般の産廃処分に比し、比較にならないほど小規模で済むという事実を具体的な安全評価面で考慮できなかったか。(例えば、ボーリング作業で処分場に遭遇する確率等)

番号	No. 12	氏名	吉田 守	年齢	才
----	--------	----	------	----	---

概要
----

なし
----

意見
----

α核種について、浅層処分と同じ限度となっているが(参考資料5)、被ばく経路が限られることから、濃度が限度値より多少高いものであっても、量的な制限をさらに加える等、危険度を同程度に抑えられれば処分対象から排除するべきでないと考える。高レベル放射性廃棄物としないため、濃度に合致させるためのみの理由で希釈する行為が横行すれば処分コストが上がるのみで、危険度が減少するわけではない。また、濃度限度値以上である理由のみで生活圏に放置されれば保管のコストがかかるとともに、実質的な危険度が上昇する可能性がある。実質的な危険度が削減される方向で処分ができるよう、柔軟性をもった規制がなされることを望む。

番号	No. 13	氏名	五十嵐 節	年齢	57 才
----	--------	----	-------	----	------

**概要**  
現行の政令濃度上限値を超える低レベル放射性廃棄物処分の基本的な考え方について

**意見**

1. 廃棄物処理施設を造る際の条件として
  - a. 侵入する地下水量や湿度値の基準を明確にすることを提案して欲しい
2. 管理期間中の管理のあり方について
  - a. 地下水による漏出など発生率の低い事故に対する管理の仕方が杜撰にならないような緊張感が継続する管理方法を提案すべきだ  
例えば五年毎に民間の検査会社を入札制度で選び依託するような案はどうでしょうか
  - b. 管理結果の情報公開を基本として欲しい  
最低地域住民には公開すべきだと思う
3. 疑問点
  - a. 地下水脈がどこにありどこに繋がっているか解明されているのでしょうか  
地下水に漏れた時は既に打つてはいるので廃棄物処理施設を造る際の条件（達成目標値）を明確にすべきだと思う

番号	No. 14	氏名	金丸 康孝	年齢	48 才
----	--------	----	-------	----	------

**概要**  
処分施設の建設、対象廃棄物処分期間、保管管理期間の、どの時点で管理が放棄されても、安全が確保出来る設備とシステムで運営すべきである。

**意見**  
現在の原子力バックエンド対策専門部会の報告では、全ての期間のどの時点でも、計画が放棄される可能性の検討が十分に行われているとは読み取れない。  
現在から 200~300 年先の政治体制、経済状況が必ず、現在の延長線上に有るとは、歴史を振り返って見ると断言できない。  
そこで、処分施設の全ての期間のどの時点でも、計画を放棄する可能性を考慮に入れて、いつでも安全に処分施設が放棄出来る様に全体のシステムを考えるべきと思う。  
特に、処分施設が、対象廃棄物処分中に放棄され、地下の処分場が水没した時にも、将来に渡って安全が確保出来る施設の設計が大切と考える。  
又、記録資料が失われた時の対策として、例えば、処分施設の地名（大字、又は、小字）を変更して、処分地など内容が連想される名前にしてはと考える。これにより、何か有ると調査する可能性が増え、将来の開発者の被爆等の危険の低下が考えられる。  
尚、記録資料は、常に、事業者、国又は代行機関、設置県の図書館、設置市町村の 4 個所くらいに保管し、どこかで資料が失われても補完出来る体制を整えるべきと考える。

番号	No. 15	氏名	岡崎 恒茂	年齢	61 才
----	--------	----	-------	----	------

概要
----

ひとつだけの処分施設案でなく、広くアイデアを募ることが必要であること。長いスパンで考えないで50 年程度で見直す姿勢が欲しい。原子力平和利用は国家プロジェクト。

意見
----

「現行の制限濃度上限値を超える低レベル放射性廃棄物処分の基本的考え方について(案)」に対する意見を下記の通り述べます。

#### 対象廃棄物の処分の問題について

原子力の平和利用を推進することを前提とする、事後処理の問題である。従って、いかに安全に、国民が納得するかたちで処理を継続できる施設を確保するかという問題であると認識します。今回の報告書を読んだだけでは素人の私には、良いとも悪いとも判断できません。ただ、次のことをしっかり検討して施設を作っていくって戴きたいと考えました。それは、この施設が今後数百年もの間、管理され続けるということ、そして結果もその時点まで判明しないということです。ですから、地下に埋設するというひとつの案だけではなく、広くいろいろな研究機関のアイデアとか、対象廃棄物の物理的、科学的処理方法を世界に先駆けて我が国が開発するとか考えられないでしょうか?更に、数百年も安全性を保証する施設など作ることは極めて経済的でないといわざるを得ません。科学技術の進歩のスピードの早い今日、50 年スパン程度の施設を作り、50 年後の時点で再度新しい方法での処分を行う等考えられないでしょうか。

#### 処分事業の責任分担のあり方、諸制度の整備等について。

原子力の平和利用は、資源の少ない我が国にとって、国家的プロジェクトであるべきです。利用者または受益者負担という考え方から見れば、電力会社が費用負担すべきとの考え方もありますが、最終的には、国民がその利益を享受することであるとすれば、開発にかかる大半の費用は、税金で賄ってしかるべきと考えます。石油資源開発に膨大な資金を投入しているのと変わりありません。昨今、金融ビッグバンで政府首脳は、アイデアを出して、法案の整備を行っています、原子力平和利用も同じように国が整備していくべきではないでしょうか。

番号	No. 16	氏名	椿井 和郎	年齢	48 才
----	--------	----	-------	----	------

概要
----

素掘、コンクリート処分というのは理解できますが、日本は、国土もせまいし、場所の問題なので、年月を費いやすほど、行きづまつくるのでは・・・・・・。

意見
----

※原子炉施設があるかぎり、原子廃棄物が出るはずで、この処分をどうしているのかとは思っておりましたが、10~20 年、30 年と年月を重ねるほど、多大な量になるとは思っていたのですが、私も土木業に従事していましたですから、素掘してコンクリート処分というのは理解できました。

その方法も国土の広い所は、余裕がありますが、年月を重ねれば多量になり、土地の問題なので、行きづまつくるのではと・・・。  
その辺から、未来のことを考えて研究、対策を考えて、いかなければダメじゃないかと思いまして・・・。

素人考えでは、ありますが、なぜ原子廃棄物を消滅してしまうことが出来ないかと・・・。

専門家になれば、この点を考えて、研究、対策の余地があるのじゃないかと思いまして・・・。

将来は、そういう設備が出来るのじゃないかと思って、あります。

素人考えでは、ありますが参考になればと思って、あります。

番号	No. 17	氏名	岩佐 勝弘	年齢	42 才
----	--------	----	-------	----	------

**概要**  
廃棄物処分の基本的考え方は、自然環境・人間環境を、安全に守れる様にする事です。

**意見**  
廃棄物処分の基本的考え方は、数百年管理をしなければならないと言う事ですが、人でも住家でも50年も立てば、がたがくるので将来に負担を残さないと言う観点で処分をしてほしいと思う。  
他国でも地下に処分をしているが、日本では地盤が弱い所が多いため、特に施工を行う上で調査が一番重要だと思う。その中でも環境立地の調査が重要で、周辺地盤変動・自然環境などです。  
地下深度も50m～100mと言われているが、もっと深い150m～200mの方が地震などに強いと思う事と原子力発電所の解体で廃棄物が多くなってくるので深くしておいた方が良いと思う。  
もっと肝心な処理場の耐久性アップを考える。  
コンクリートの強度を上げ割れがこない物にして、  
処分場の回りをペントナイト混合土で、囲む事をやり、  
形も地下水・強度面から考えた方が良いと思う。  
最後に長い間管理するにあたって、処分の実施状態・処分場の点検などを管理してほしい。  
  
私も長く様子を見守って行きたいと思います。

番号	No. 18	氏名	谷 みのり	年齢	29 才
----	--------	----	-------	----	------

**概要**  
現行の政令濃度上限値を超える低レベル放射性廃棄物処分施設の管理期間中、管理期間後の人間の活動に対し万一、危険が発生し、最悪、被ばくが生じた際のフォローについて

**意見**  
時下、数社企業による基準値を超える人体に有害を与える有害物質の流出が問題となっており、今後、その処理方法や管理をめぐり早急に対策が求められるものと思われます。  
思うに、人体を危険に陥れることが想定される原子力の開発とその処分については最小限に止めるべきである。  
しかし、エネルギー消費と環境問題を考える上で原子力に頼らざるを得ないというのであれば、政令濃度上限値を超える放射性廃棄物の処理に際しては細心の管理体制で臨まねばならず、本報告書はこの点について細かく検討がなされており評価できる。  
但し、処分施設の管理期間中、管理期間後の人間の活動に対し、万一、危険が発生し、被ばく、被害が生じた場合にどのように対処、補償するかについて触れられておらず、この点について補足が必要なのではないかと思う。現行法制度に定められた対処・補償がなされるのであれば、その旨、付け加えられたい。

以上

番号	No. 19	氏名	舟橋 哲雄	年齢	50 才
----	--------	----	-------	----	------

### 概要

廃棄物の処分は発生者責任において実施すべしに賛成  
費用確保の方策は本案対象廃棄物のみでなく、再処理廃棄物もあわせて行うべきと考える。

### 意見

#### 処分費用の確保について

本案では廃棄物の処分は発生者責任において実施されるべしとされており、合理的と考えられます。しかし、そのための処分費用は確保されていないとのことで早急に費用確保の方策を講じる必要があると考えます。

なお本案では対象廃棄物として使用済燃料や炉内構造物などとしており、費用確保の合理的積算が本案対象廃棄物では可能となるとの事ですが、再処理に伴って発生する廃棄物の処分のための費用確保の方策はどの様になっているのでしょうか。もしこれが講じられていないなら早急に講じるべきと考えます。

番号	No. 20	氏名	森本 正	年齢	62 才
----	--------	----	------	----	------

### 概要

原子力発電の設置前に考えとく事をなぜ怠ったのか  
放射能の〇化と再利用はどうしている。これらを整理して、山奥の地下を考えなさい

### 意見

原子力発電に不具合が出たが、技術的には克服可能と思って居り、あれは事務連絡の問題でそれより廃棄物の問題に気をつかうべきである。電力会社や、国に体力のある時に、放射能の半減期を待つのでなく、①半減期を〇に近づける方法、②廃棄物を何かに使う、③地球外に廃棄物を放り出す 方法を研究する事は出来ないのでしょうか、私の耳には入って来ません。

ともかく発電して 廃棄物はあとで考える方式には 疑問を減じる。  
スタート時に何を考えていたのだろう。

取敢ず取り出可能にして、山奥の地下に埋設する事として上記の①②③を急がねばと思います。

埋設にしてもやがて限度があり、外国に頼る事も出来ないと思われる  
ので 外国に比較して 自動販売機の制限 町の夜間照明減 高速道路  
の照明減（自動車に照明があるのに）等をセーブしながら検討して下さい

セーブを云うと 直ぐ家庭用に、話が廻ってくるので 500kW 以上使う  
家庭とかに絞るべきです

太陽熱発電も、消却に 30 年もかかるれば、だめ、一体何を考えた援助  
なのか これは、国と同時に電力会社も合せてやるべきで 電力会社は  
発電所を作る必要がないので・)・もう少し理屈の通った援助をすべき  
である

番号	No. 21	氏名	正司 原子	年齢	35 才
----	--------	----	-------	----	------

概要  
「人工物」である有害廃棄物処分について、全てを「人工的」に行うべきで「自然」を参加させるべきではないと思います。

意見  
低レベルであるとは言え、それは日本での判断基準であり、他国に比べると、他の汚染基準対象のように、非常に「甘い」基準であるかも知れないと言う「不安」をぬぐってくれるような表現・比較が見られなかつたので大前提の「安全性」を信じきれない。  
また「素掘り処分」との方法については、ちょっと信じられない位におどろきました。  
どの様な詳しい数値を列べても、「雨水詰け＆さびたドラムカン放置」の動燃のビデオ映像が悪いイメージとして有り、雨水・植物・微生物の出入りするこの方法では大差が無いように思えます。  
「人工的に」生み出された「廃棄物処分」にあっては、全て人工的に管理されたモノで行われるべきであって「自然」の参加するものは「放射能」については一切除かれるべきであると信じます。  
予算的にもう少し枠を広げていただき、地上の管轄のできる所へ、「廃棄物入れのビル」を建築して、一時的に保管し続けて、「安全性」についての「世界一厳しいレベルの方法」を確立後に移す事としたような「移行的」な(案)であった方が安心出来たと思います。  
ところで、文中の「天然」バリアーとは何なのでしょうか？「流出・接触」を容認する「言葉」としか聞えず、大変不安に思いました。

番号	No. 22	氏名	石本 一世	年齢	24 才
----	--------	----	-------	----	------

概要  
なし

意見  
放射性廃棄物を埋めるにしろ、住民の反対運動が起ると思います。その時はもちろん一から説明をし、一人一人の了解はもちろんのことその後何かがもしあった時の保障はできるのか、誰がそのあとのこともちろんと見ているのか一番心配です。

番号	No. 23	氏名	稻沢 定	年齢	22 才
----	--------	----	------	----	------

**概要**  
放射性廃棄物処分に関する費用負担及び立法整備について、早急な実施と国民の協力・理解を得るためにその決定過程を透明化することが重要である。

**意見**

今回の報告書案について特に気になったのは、処分事業に関する費用の負担や安全確保に関する関係法令整備の現状についてである。まず第一にこれらの点が現時点において明確に決定されていなかったことに、私は驚きを禁じえなかった。原子炉施設を稼動させる上でこれらの問題は不可避の事象と思われるだけに、尚更そのように思われたのかも知れない。とにかくこの点に関しては、行政側の見通しの甘さを感じずにはいられなかった。

ともあれこれら 2 つの点はこれから整備されなければならないわけだが、そこで何よりも重要なのは決定過程を透明にし、また国民にとって分かりやすいものにすることである。何が何だか分からぬうちになしくずし的に決定されでは、国民からの不信感を高めることになりその協力を得られなくなるからである。そしてひいてはそのことが、今後の原子力事業の展開にとって大きな障害にもなりかねない。これらの点は今後の論議において、是非重視してもらいたいところである。

それと処分費用の点については、その合理的な積算結果において公的資金を投入するかどうかを慎重に検討する必要がある。あくまでの廃棄物処分の費用は、事業者が負担するのが原則であると考えるからである。また法令については、実効性のある強力な罰則規定を設けることが必要である。それは安全な環境を保持する上でも不可欠な要素であると考えるからである。

以上の点をふまえた上で、実りあるひらかれた議論が展開されることを期待したい。

番号	No. 24	氏名	水野 直子	年齢	69 才
----	--------	----	-------	----	------

**概要**  
低レベルの廃棄物でさえ、こうなのかと、不安や不信を増大させるばかり。しかし、暫くは見守れるかも知れない。見守るより仕方がないと考えること。

**意見**

恐しいものを、自分達の世代で作り、使っているということぐらいが分かった。

300 年とか、数百年の管理期間とかいう年数は、歴史でしか使用したこと、考えたこともない数字だ。それを今、目の前に突きつけられても、並みの国民としては“お手上げ”という外はないというのが第一の感想。

廃棄物を埋設している間は、適切な放射線遮へいを設けるなどと書いてありますが、何だか、それを作ることも、それが役立つことも、信じられない気分になってしまいました。第二の感想。

そんなにくわしく読んだ訳ではありませんが、ペラペラとめくっただけで、不信の念が増大してしまいました。

地下数十メートルを掘るとき、国は企業に任せっぱなしにしないでください。或いは企業は、国の作った案を越える力をつけて、国民を末長く守ってください。

記録の保存については、時節柄ちょっと目を通しました。何回目かの案には、事業者及び国の保存機関名を明確にして欲しいです。また、公開の方向に進めて欲しいものです。適切に保存する・・・などと書いてあるだけでは、こんな重大なことを駄目だなあと思わざるを得ません。厚生省のエイズに関する記録のいざこざは、記憶から消せません。第三の感想。

モニターになったのに、大変不謹慎なことですが、こんな難しいものを、いくら国民の声を聞くからと云って、読んで、目を光らせてていなければならぬ現代という世を、よいものとは思いません。私たち並みの国民に心配をかけない、ごまかさない指導者であって欲しいです。

まだ始まったばかりの案ですから 暫くは見守りたいと思っていますが。

番号	No. 25	氏名	神田 一隆	年齢	50 才
----	--------	----	-------	----	------

概要
管理期間中の管理責任者と費用負担者を厳格に明記すべきです。それらを決めずに走った結果が財政赤字だらけの現在の日本であり、先延ばししても国民の利益にはなりません。

意見
管理期間として 300 年を想定していますが、過去 300 年に渡って存続し続けた事業者は希です。世界の政治経済、自然環境は人類が過去に経験したことがないほど早く変化しています。従って、今後 300 年に渡って日本が現在の繁栄を続けられるとは考えられません。300 年の管理期間、さらにその後は誰が責任を持って管理するのでしょうか？事業者という呼び方で管理者を決めるとは意味がありません。事業者という法人が 300 年間存続するとは考えられないからです。国家が現在考えられる最も長寿な法人であり、原子力の推進母体でもあります。従って、「基本的な考え方」を提言するのであれば、「国が管理する」とする方が 300 年という年月を考えるとき最も合理的です。
費用負担については、受益者負担が原則です。発電所から発生する放射性廃棄物ですから、発電事業者は将来の管理費用をも考えた電力料金を設定し、管理費用分を国に納めるべきです。現在の電力料金を低く抑えてそのつけを子孫に残すのは我々のエゴであり、先人としてすべきことではありません。
処分施設は「現行の低レベル廃棄物が処分されているコンクリートピットと同等以上」でよいとされていますが、動燃の例のように、現行の保管施設でドラム缶が水に浸っていた記憶はまだ新しいのです。より改善された施設とすべきでしょう。処分場は満杯になったらすぐに埋め戻す計画になっていますが、埋め戻してしまうと放射能漏れなどの異常事態が発生したとき、費用的に手が着けられません。満杯になってから 30 年程監視し、漏れのレベルが 300 後へ外挿しても問題なしと推定できた時点で埋め戻せばよろしいでしょう。
埋め戻した土地の上に深地下に達する高層ビル等を作る危険性を考えていますが、全く無意味です。現在では埋めたことを標す耐久 1000 年以上の施設を作ることは容易だからです。 以上

番号	No. 26	氏名	塩田 雅巳	年齢	65 才
----	--------	----	-------	----	------

概要
「現行政令濃度上限値を超える云々」の呼称を廃止し低レベルの上限値を超えるものを中レベルと位置づける。これで放射性廃棄物は高レベル・中レベル・低レベルの 3 分類となる。

意見
上述の考えに従えば本案の表題は「中レベル放射性廃棄物処分の基本的考え方について」となり文書中の扱いも簡素化される上、若干わざらしい表現からも開放されます。 多少かんぐった見方で恐縮ですが、恐らく「低レベル」であることに固執したい心情が背景にあっての表現のように思います・・・ ご検討いたゞければ幸いです。

番号	No. 27	氏名	末次 邦雄	年齢	61 才
----	--------	----	-------	----	------

概要
放射性廃棄物の処理施設の必要性は充分に理解出来ます。安全と合理的な処分方の本案に賛成し 私見を2~3述べさせて頂きます。

意見
<p>○ 放射性廃棄物が生活環境に全く影響を及ぼさない場所が国内に無い現状から考えて その設置場所（処分場）は原子力施設の近傍に限定すべきものとします その理由は廃棄物の運搬経費、運搬途上での事故、及び近隣住民の理解が得易い等です 勿論充分に地質の調査を行って処分場の条件を満す場合のみ。</p> <p>○ 放射性廃棄物処分場の設置場所は充分な地質調査のもとに行いますが上記より大都市以外を想定した時 その深度は 50m 以上あれば経済性と処分後の技術的な問題を考慮しても充分と考えます。</p> <p>○ 処分場地下水の移行には充分な事前調査が必要なことは勿論ですが埋め戻し後の管理（地下水の流動状況・核種の移行監視）は厳しく行い測定記録の保存と公開を明文化してほしい。</p> <p>○ 1-5 “管理のあり方”の中に所要の期間、所要の措置とありますが具体的に何を示すか不明です。別な表記にするか、誤解を招くことのない文に直して下さい。</p> <p>○ 高レベル放射性廃棄物の処分場として検討していた“幌延”が白紙に戻り誠に残念です。一部の反対者の理解が得られなかつたことに起因するとはいえ行政としてあまりに無策でないか！ 広く英知を集めて設置推進を再開する日を期待します。</p>

番号	No. 28	氏名	渡辺 一雄	年齢	37 才
----	--------	----	-------	----	------

概要
低レベルながらも放射性物質の処理には、高度なレベルで処理する事が、今後の地球に優しいことであり大切なことだと考えます。最も安全な地下を利用した処理の方法です。

意見
<p>低レベルの放射性廃棄物とはいえ、人体にとりましては、あくまでも有害であると思われます。すなわち処分につきましては、きわめて慎重に行わなければなりません。</p> <p>現在行われております厚いコンクリートにおいて廃棄物を固めている方法がとられておりますが、これも阪神大震災級の地震が起きた時などには、コンクリートそのものが破れてしまう危険性があります。そうなった場合などには、低レベルの放射性であっても一気に放射能がもれ出しまいますので、今まで通りの処分方法で本当に充分なのであろうかと思われます。</p> <p>少々、極端な処分内容となりますが、廃棄物を地球の外へ出して処分するのが最も望ましいと思います。</p> <p>たとえば、スペースシャトルに廃棄物を積み遠い宇宙空間において処分するのも良いのではないかと思われます。</p> <p>なぜならば宇宙は大気汚染が漂う空間だからです。</p> <p>これにより地球上の環境は守られますので良いアイディアとも思われますが、廃棄物処分の為に宇宙船を使用するという採算性を考えるとどうかなとも思われます。</p> <p>とりあえず、最も良いと思われる処分方法としては、大型の丸いボールのような型の中に放射性廃棄物を処分するのが望ましいと思われます。これは、ちょうどガスタンクのようなものとなります。ガスタンクのような丸い球の中に廃棄物を入れて処分することになります。</p> <p>球は、かなりの圧力に耐えることができますので、破裂の危険性は全くありません。また、ガスタンクのように大型ですと、かなりの量の処分が可能になります。</p> <p>この大型の球を地上ではなく地下数メートル下に、コンクリート製で建設して耐久性や永久性を高めるものとします。このような施設を一ヵ所にまとめて多数のタンクを作り、この地上を大規模な公園にして下さい。</p>

番号	No. 29	氏名	中尾 哲也	年齢	41 才
----	--------	----	-------	----	------

### 概要

処分費用は、電気料金によって徴収し、現世代のうちに早急に制度を定めて確保を開始すべきである。

### 意見

本報告書によって処分の考え方が検討されている放射性廃棄物は、使用済み制御棒や原子炉内構造物であり、その処分の費用は、原子力発電に伴い発生する費用である。電気料金の中に必要な費用を算入して、原子力発電の電力を享受している我々から徴収するのが筋と考える。また、それら使用済み制御棒や原子炉内構造物を用いた原子力発電による電気を享受しているのは現世代の我々であるので、後世代の負担とならないよう、早急に制度が整備されることを期待している。

地球温暖化防止への対応が世界的に求められており、その原因となる二酸化炭素を減らそうという方向に世界は動いている。我が国の発電電力量の半分以上を占めている火力発電は、化石燃料を燃焼させて電力を得ており、二酸化炭素を大量に発生させている。そのため、いずれ二酸化炭素発生抑制のための対策や二酸化炭素回収対策、研究開発費用を捻出するための税金等の対応が必要となる可能性が高いと思われる。それらに要する費用は、やはり発電に伴うものである以上、電気料金に上乗せされて徴収されることになる。

従って、次世代は今まで以上に負担を強いられるものと思われる。それを思うと、負担しなければならない必要な費用は、現世代において少しでも負担しておきたいと思う。

番号	No. 30	氏名	山田 俊一	年齢	42 才
----	--------	----	-------	----	------

### 概要

処分費用は高くなると考えられますが、いくらくらいになるのでしょうか。原子力発電は経済性の観点から見ても不利となるのではないですか。

### 意見

・今回の処分施設のイメージからしますと、現行の処分施設よりも更に深い場所へ処分施設を設置することとなっています。このことからしても単純に費用は高くなるものと考えられます。また今後の高レベル廃棄物処分施設等も考慮すれば更に処分費用は高くなり原子力発電は経済的に不利なものとなるのではないでしょうか。

番号	No. 31	氏名	西牧 研壯	年齢	55 才
----	--------	----	-------	----	------

概要
----

放射性廃棄物の法令等による的確な定義が必要である
--------------------------

意見
----

本報告書中の放射性廃棄物を原子炉等規制法の「核燃料物質又は核燃料物質によって汚染されたもので廃棄しようとするもの」で定義するのは少し無理があるように思える。主に核燃料物質以外の核種について議論しているのだから、放射性廃棄物の法令による適切な定義が必要である。クリアランスレベルが導入されればこれはさらに重要ななる。障害防止法などの他の法令でも同様である。
---

番号	No. 32	氏名	西牧 研壯	年齢	55 才
----	--------	----	-------	----	------

概要
----

廃棄物問題は発生源対策が基本であり、リサイクル再利用等発生源での発生量削減対策についても検討する必要がある。
--

意見
----

本報告書で議論されている廃棄物は今後も発生し続ける廃棄物である。従って廃棄物問題の基本として発生源対策への言及が必要である。すなわち、発生量の削減、リサイクル、再利用等について検討する必要がある。例えば、長期使用による発生量の削減、高放射化部分の他の部分からの分離、また部品の形状などについても設計段階から最終的な処分を視野に入れる必要がある。また、節電などの省エネが重要な廃棄物対策であることにも言及すべきである。
--

番号	No. 33	氏名	高木 哲子	年齢	56 才
----	--------	----	-------	----	------

概要
----

放射性廃棄物の処分場所、方法について
--------------------

意見
----

放射性廃棄物の処分場所について、現在は各国がそれぞれ自国に埋めているようですが、例えば北極や南極、さばくなど土地活用が不可能な場所を見つけて、そこに世界中が一括して埋めるというは出来ないのでしょうか 又、処分方法に関して「埋める」というのが主流のようですが、その方法が一番最善なので選ばれたのでしょうか。費用の問題や政治的な事が関係しているようにも、思うのですが、他の処理方法（例えば海の底とか、宇宙など）がなぜ選ばれなかったのか、今後取り上げてほしいと思います。

又、放射性廃棄物の処理に関して、試算や仮定、数百年という文字がひんぱんに出でていましたが、それらの要素によって算出された「許容量」というのは、ほんとうに信頼でき安全なのでしょうか

番号	No. 34	氏名	須藤 佐武	年齢	64 才
----	--------	----	-------	----	------

概要
----

技術的な面については、素人なので評価はできないが、対象廃棄物の処分方法については、人間生活に影響のない範囲でという基本方針で対応しているので問題はないと思うが、処分の実施にあたっては次のようなことが課題となるのではと思う。
---

意見
----

1、対象廃棄物は数百年にわたって処分場の安全管理をすることになるので、民間企業や大学等の事業者が責任を持って安全管理を数百年にわたって継続実施することができるのか疑問を感じた。（電気事業者だけでなく、原子炉設置者やR I 廃棄物も含まれるので）従って、処分事業主体となる事業者には、恒久的な安全管理のできる組織づくりと、国の充分な支援が必要であると感じた。

2、対象廃棄物は管理期間経過後も、人間の活動に対する安全確保がされるというように万全を期しているが、現状の一般廃棄物に対する地域住民の反発の多い中で、対象廃棄物の処分場選定にあたって国民の理解を得るのは容易ではないと思われる。  
従って、対象廃棄物の処分場選定にあたっては、処分事業主体となる事業者ばかりでなく、国も明確な方針を立て国民の理解と協力を得られるように早期に取り組むべきである。

3、低レベル放射性廃棄物の処分方針が確定されても、上記のような課題がある中で国民の理解と協力を得るには、対象廃棄物の放射性核種の濃度の低減を図ることにより、管理期間の短縮や処分量の軽減を図ることが重要となる思われる。

番号	No. 35	氏名	小山 孝三	年齢	69 才
----	--------	----	-------	----	------

概要  
放射性廃棄物埋設施設は広い土地を使用して。地震対策を知りたい。

意見  
放射性物質が含まれている廃棄物の半減期が数十年も続く、その間地震が発生する割合が高い。埋設例の図（原子力発電、P 78）を見ると鉄筋コンクリート製ピットの容積が非常に大きいから、耐震構造の対策を知りたい。  
対策案として、大容積ピットは耐震に不安があるから、耐震可能な容積、今までより小型ブロック化にして、ピットとピットの間をフレキシブル、パイプで接続して点検路へ導き排出する。地震で上下、横揺れ振動はフレキシブル、パイプが吸収し各ブロックの破損を防ぐ、案は如何でしょうか。

番号	No. 36	氏名	尾田 千賀子	年齢	38 才
----	--------	----	--------	----	------

概要  
低レベル放射性廃棄物処分の基本的考え方を主婦的立場から述べてみたい。

意見  
廃棄物の処分については、安全かつ合理的にするとあるが 処分場に決定された土地の周囲に住む者としてはどうしても一末の不安を捨てられないと考えられるので原発に対する知識を深めたり、人間ドックなど定期に健康チェックをしてほしい。又、海に住む魚の生態型の変化に対しても定期に調査した内容を発表してほしい。安全な魚を安心して食べたいと思う。  
地下水が有害物質に汚染されているという、東芝や三菱のように何年か後にその事が発覚する事は当時の力量では最高の処理をした人々にとっては予想をしていただろうか。このような事がないよう願いたい。  
事態に対しての透明性だが 6月6日付の朝日新聞に、「いきなり高燃焼度運転」とあった。国民の納得、理解を得てからではダメだったのか残念だ。  
廃棄物は高度の科学技術と医療技術を駆使して医療場面において使用できないものか。レントゲン撮影や放射線治療に生かせたらと夢のような事を考えている。

番号	No. 37	氏名	吉田 さつ子	年齢	42 才
----	--------	----	--------	----	------

**概要**  
原子力バックエンド対策専門部会報告書案「現行の政令濃度上限値を超える低レベル放射性廃棄物処分の基本的考え方について「案」」

**意見**  
今回始めて原子力モニターをやる事になりました。  
今まででは、原子力と言うのにたいして関心を持って いませんでしたけどこれを機会に勉強してみようと思います。私の住んでいる青森県にも低レベル廃棄物埋設センター 廃棄物の埋設が開始されています。今の所これと言った事故もなく安全に進んでいる様です。放射性廃棄物処分の仕方と言うのも始めての私には良くわかりませんけど十分な安全対策を行い、それなりの処理処分をしてもらいたいと思います。

番号	No. 38	氏名	中本 義信	年齢	66 才
----	--------	----	-------	----	------

**概要**  
政令濃度上限値を超える低レベル放射性廃棄物処分の基本的考え方（案）についての感想

**意見**  
原子炉の運転によって発生する低レベル放射性廃棄物の処置について、頭を悩ませる問題です。参考資料の日本原燃㈱六ヶ所埋設センター内を見て、イメージが浮かんで真剣な気持ちになりました。  
原子力発電所の解体で発生する廃棄物が、収納されている安全確保を約束されているものの、種類と特徴をしっかりと把握しなければならない。濃度上限値を超える低レベル放射性廃棄物の主なものに、原子炉圧力容器、制御棒などがある。定期検査で制御棒の取り換えは、新聞紙上で報道されていることがよくある。  
処分施設をのぞいて見ると、完全に水も漏らさぬ密閉ぶりで安全が約束されています。地下を掘り下げて空間をうまく利用している。ボーリング調査、地盤調査など、大変手間がかかり、ばく大な費用もかかることでしょう。廃棄物の中でも、低レベルのものと高レベルのものとを分けなければならない厄介ものです。  
原子炉施設の定期検査があることだと思いますが、事故発生を未然に防いでいて大事に至らず必要なことです。新聞紙上では制御棒が、中核になるのか損傷と破損があって交換することも報道されています。事故や不祥事で大きな騒ぎになると、責任を問われることになります。  
バックエンド対策専門部会で、回を重ねて廃棄処分を安全に合理的な処分方策についての（案）は、よくまとまっていて、処分事業に対してよき指針となって正確な方向づけになっています。廃棄物を深く掘って埋設された後の長期間の管理が必要とされている。コンクリートの人工構造物の中で、安全を確保しながら放射性核種の漏出で地下水とともに河川に流入して被ばくの危険がある。  
政令で濃度上限値を決定してこれで安全を保証するものは、何もない。現場からの報告を知るだけではなく、机上での論議も大切ですが、現地に出向いて現状の問題点を探して確認する必要があります。

番号	No. 39	氏名	水谷 敬子	年齢	43 才
----	--------	----	-------	----	------

概要

低レベル放射性廃棄物を充てんした ドラム缶について。

意見

低レベル放射性廃棄物を充てんした ドラム缶は 数十年間も保管しておくとすれば ドラム缶の数はどんどん増えて その内に現在確保されている場所だけでは 納まり切れなくなり アチラコチラに保管場所を設置しなければならなくなると思います。

そうなった時、今の様に厳重な（場所を取る様な）方法がとれなくなるのではないかと云う事が心配です。

環境問題の点から考えても 六ヶ所村の低レベル放射性廃棄物埋設センターに最終的には 300 万本埋設する計画だと云えば その 300 万本を埋設した時に使用した、鉄筋コンクリートやポーラスコンクリート層、セメント系充てん材、ドラム缶などの莫大な量のゴミは いくら生活環境に影響を与えるようになったものが入っていたとしても 量までもが無くなる訳ではないので それだけでも 生活環境に悪影響を与える事になるのではないかと思う。

もしも リサイクル出来る技術があるとすれば 本当に ドラム缶や セメント系充てん材までも安全になっているのかが 気になります。

何年か後には 日本の何処を掘っても ドラム缶と セメント系充てん材しか 出て来ない様な 土地になりはしないかと 心配しています。

番号	No. 40	氏名	白川 江里	年齢	24 才
----	--------	----	-------	----	------

概要

放射性廃棄物の日本での処理の仕方の安全性と、他国の処理方法の安全性に対する期待。

意見

原子力発電において、必ず発生する、放射性廃棄物については、以前からも、特に関心がありました。なぜなら、学生時代に、社会科の授業で、電力について学んだ時に、水力、火力、原子力があるという事と、原子力は水力、火力に比べ、大変大きな電力が生まれる代わりとして、その際に、放射性廃棄物が、必ず発生するという事が、私にとって、大変ショックであり、興味を持ったのです。廃棄物は、再利用したり、減らしたりできないものか考えたり、どんな物の事を、放射性廃棄物といい、私達にどのような影響を及し、どのように処理がなされているのかと、疑問に思っていました。

今、原子力モニターとして、初めていろんな事を知り勉強になった部分もたくさんある中で、やはり、放射性廃棄物に関しては、不安が少しあります。自然の中でも放射線は存在し、普段から、少量はあびているとはいえもし、原子力発電の際の廃棄物が、多量にもれたり、処理が悪く、少しづつもれている、なんて事を考えると、恐くなります。しかし、今の日本では、安全を第一に考え、十分な処理がなされていると思います。けれども、他国については、どのように廃棄物処理がなされているのかが、疑問です。国際的な法令があり、もっとも安全とされる処理を、期待したいです。

番号	No. 41	氏名	伊藤 克	年齢	66 才
----	--------	----	------	----	------

**概要**  
放射性廃棄物の処分と管理手法がハード面に限られているような印象を受けます。広く国民の支持を得るためににはソフト面の充実が必要ではないでしょうか。

**意見**

原子力発電施設と廃棄物処分の安全確保は国民の最大の関心事であり、言い替えれば最も恐れている事柄なのです。原案作成の尽力された専門の先生方や設計、保守管理を担当される人達にとっては周知の事柄であっても、放射線に関する知識のない庶民にとっては心配が絶えないのでです。

安全確保のための施設の整備をいかに充実しても、長期間にわたって安全を維持するにはそれを管理する人達の努力が必要であり、ごく小さなミスや油断、勘違いや怠慢が大惨事につながるでしょう。

したがって、このような“人災”を少しでも減らすためにも管理する人材の教育の徹底、管理記録などの報告と公開の義務付け、重大なミスや怠慢、違反行為に対する罰則など、国民の納得するソフト面を完備した管理マニュアルを作成することを本案に明示して欲しいと考えます。そしてこれまで一種の聖域のように扱われた原子力の世界と庶民の生活の距離を縮めながら、安心して共存できる近未来の社会の確立を目指して頂きたい。

番号	No. 42	氏名	高橋 和美	年齢	24 才
----	--------	----	-------	----	------

**概要**  
廃棄物との接触について、被ばくする可能性について、

**意見**

廃棄物の累積発生量が2030年時点で約2万トンになると知りとてもおどろきました。その割合も運転に伴う廃棄物が多いとは思っていましたが解体に伴う廃棄物が全体の4分の1を占めているのにもおどろきました。

さらに人間と廃棄物の接触を想定した場合の被ばく線量の試算例で地表から50～100mの深さに処分すれば将来の人間の活動によって人が廃棄物に接触して被ばくする可能性は十分小さいとあるが、可能性は低いとはいえるゼロではないので、より慎重に検討して頂きたい。先日、はかるくんを貰して頂き、様々な所で測定しましたが、自然放射線がけっこうあるのにはびっくりしました。日常生活と放射線（参考資料10）はとてもわかりやすいが、日本の地域によっても多少放射線の量がちがうので旅行しながら自分で実際に測定して回りたいと思った。

最後に廃棄物の処分についていろいろ教わったが、不安が残ってしまうのは、内容の規模が大きすぎて身近な問題としてとらえていないからなのでしょうか？

番号	No. 43	氏名	堀内 則量	年齢	54 才
----	--------	----	-------	----	------

**概要**  
地震発生を含めた被曝事故の予防的対策と万全な監視方法の明確化の提案と私大炉における処分費用の減免についてのお願い  
要望

**意見**

(1) 地震発生を含めた被曝事故の予防対策と万全な監視方法の明確化

本レポートの中では、対地震についての基本的な考え方について触れていないように思います。例えば、第1章 3. の (1) 管理期間中もしくは、(2) 管理期間経過後の中でも、地震発生時、発生後の処置については全く述べられていません。何らかの記述があってもよいのではないかでしょうか。地震発生を含めた被曝事故の予防的対策と万全な監視方法について明確にしておくべきと考えます。

(2) 私大炉における処分費用の減免

廃棄物の処分は、基本的にはその発生者たる原子炉設置者の責任の下で行うことには賛成です。しかし、発生した廃棄物は、原子力エネルギーの利用や確保のための研究、あるいはこれによって将来の日本を背負ってたつ人材の育成を行ってきた結果として発生したものであります。特に現勢の私大炉においては処分費用の確保は厳しい状況にあると言っても過言ではないと思います。どうか、減免措置等を含めた処分費用の確保方法についても盛り込んでいただければと願っております。

番号	No. 44	氏名	西村 三郎	年齢	75 才
----	--------	----	-------	----	------

**概要**  
放射性廃棄物処分は平和的原子力利用の上で重要な項目である。放射性廃棄物の放射線濃度を、少なくとも自然放射線濃度程度まで下げることを周知させる必要がある。

**意見**

私は平成8年4月～6月に「はかるくん」の貸出を受け、各地の自然放射線を測定したが、その年の全国集計結果を(財)放射線計測協会より頂いた。以前より聞き及んでいたが、我々は常時ある程度の放射線を浴びていることを知った。今回の「現行の政令濃度上限値を超える低レベル放射性廃棄物処分の基本的考え方について(案)」において、原子炉施設の運転に伴い発生する廃棄物や原子炉施設の解体に伴い発生する廃棄物についての処分方法の検討が行われていて、ものによっては地中に埋め3～400年の管理期間を置き、放射性核種の濃度の低減を図る等が考えられているが、最終的に自然放射線程度まで減衰させるわけである。その自然放射線の数値は人間の活動には安全値であることを一般国民に周知理解させる必要があると考える。以上

番号	No. 45	氏名	麻田 元治	年齢	41 才
----	--------	----	-------	----	------

**概要**  
基本的に考え方は理解できるし方向性は正しいと思料する。しかし放射性廃棄物に関する処分概念が確立されていないのに原子力発電が実用されていたのは驚きであった。

**意見**  
この報告書にはいくつかの疑問点があり、公開の重要性と関心を持つ国民の義務を、モニターになりあらためて認識した。まず、処分施設について、最終的に一般の使用に戻すという考え方は当然であるが、我々を安心させる結論である。管理期間が超長期におよぶため、将来何があるかわからないため、都会を前提とした議論はそれなりに幅を感じさせるが、地下利用のものさしが現行のそれをもとにしているのは矛盾であり、前提としている超長期間で何があるかわからないことからは限界を感じさせる。議論が中途半端であり、ある程度候補地域の前提をイメージして、管理手法にもっと踏み込めばよいのではないかと思料する。また放射性核種が地下水により生活環境まで移行する事象について、防止策や調査に関してはそれなりに議論されているが、不測の事態が発生したとき、またそれをも防止する方策についての議論が明確でない。それでは我々を安心させることはできない。原子力発電はもう歴史の教科書に出てくる程、年月が経過しているが、原子炉施設の運転及び解体に伴って発生する放射性廃棄物に関して処分方策が確立されていない部分があることは驚きである。これは世界的な標準なのであるか。税金も電気料金も国民からみるとそんなに変わらない、広く薄く徴収されまとめられて施策として使用されまた国民に返ってくる。我国の電力に関する方向性で原子力は重要な欠かせない位置にあると思料するので、今回の処分に関するコストはそもそも電力に関するトータルコストの一部と考えられるべきであり、国家的な施策として原子力が取組まれた背景から、その延長線上にあることは至極当然と思料する。最後に、この部会に望むこととして、北欧の側が記述されていたが、世界的な取組状況やそれに関する評価をこれまで以上に公開し、技術力については決してメンツにこだわらずにコストをかけてでも取入していってもらいたい。 以上

番号	No. 46	氏名	和田 武雄	年齢	71 才
----	--------	----	-------	----	------

**概要**  
原子力施設の事故防止には、立派な法令よりも、施設に勤務する職員の責任感やモラルが大切！  
(事故責任の具体的とり方も明示して欲しかった)

**意見**  
ご送付いただいた「現行政令濃度上限値を超える低レベル放射性廃棄物処分の基本的考え方について」という資料を読ませて頂きましたが、その内容は実に立派な考え方が列挙してあって、唯々関心させられました。  
ところが、原子力の実情が大きな問題となっています。去る 7 月 5 日付、読売新聞・いばらき版には、「改革進まぬ関連施設」という見出しのもと、不祥事止まらぬ動燃という項には、「意識改革といいながら、火災・爆発事故以来、何も改革されていないじゃないか」と言う。今月 1 日、東海村の動力炉・核燃料開発事業団・東海事業所で行われた茨城県と関係市町村の立ち入り調査の席上、我が町の企画課長はボールペンをほおり投げ、動燃に対する怒りぶちまけたそうです。…(よくやった!) 今回は、また、プルトニウムで汚染されたサンプル瓶が発見されたり、焼却灰から通常の百倍以上のプルトニウムが検出された一般廃棄物への放射性物質の混入問題など、またぞろ噴出したずさんな管理体制に、集まつた担当者たちもへきえきしていたとまで書かれていました。さかのぼれば、昨年 3 月のアスファルト固化処理施設での火災・爆発事故に始まり、虚偽報告事件、放射性廃棄物のずさんな管理体制など、同事業所ではこの 1 年 3 か月の間に、原子力に対する茨城県民の信頼を失墜させる事故や不祥事が相次いたのであります。「閉鎖的な技術集団」との批判を浴び、それを反省した動燃は、職員の意識改革に特に力を注いでいました。ところが、「管理区域外にあってはならない」はずの放射性物質が(瓶 8 本) 見つかった問題も、連絡を受けたプルトニウム燃料工場長が 1 2 日間も上司への報告を怠っているなど「意識改革」も掛声倒れだったと言える。  
茨城県内には 23 の原子力施設が立ち並んでいて、県民として不安でなりません。「しっかりして下さい。原子力施設で働く人々の責任ある取扱い」を望んで止みません。

番号	No. 47	氏名	丹羽 武	年齢	62 才
----	--------	----	------	----	------

**概要**  
処分の方法現在又過去でウラン使用した場所を処分地とする特に原子力発電所を、開発を考えた時の処分方法を見直し 案なく開発する様な事は考えられないから

**意見**

基本的な考え方特に多量の廃棄物がでる原子力発電所については、その電力を発生させた所を処分地にする。

開発については多額の保証等資金を使用したことと思われる為今后開発する時は事前に地下500mとかを掘って置き処分場として作業する様にしたら 既設の発電所についてもこの様な考え方で良いと思う。理由としては長崎広島についても原爆処理がどうだったか土壤改良等されたかと云う様な事から思えば、その発電所の地元民に説明すべきである。(案)の内「処分場跡地に建設された住居に居住する人の被ばく」とあるが日本国も処分跡地に居住する程小さな面積でないがどうしてこの様な事を考えるか、小生には、わからない。この事について、重要な何があるのか?あれば別であるが、処分費用について、現在多額の資金にて開発している宇宙について、この様な考え方は地球上でも困っている事であるこの問題を先にすべきで今の所必要ないものである。質問的になるが放射性廃棄処分についてこの開発を計画した時はどの様な考えであったか改めて開放し重要な参考資料とすべきと思うが。

初心で充分学力の高い人が提案している事であろうが、この原発又放射性物質使用者が、大学入試又卒業時に国として勉強させる為のテストしているかと云う問題がある現状ではどうか? テストにて勉強させなければ東大卒でも一般人と同じで、この様な事では将来が心配されるものである

以上

番号	No. 48	氏名	門間 明夫	年齢	50 才
----	--------	----	-------	----	------

**概要**  
初めて提出します。安全対策を中心に述べます。  
一部、先生方の案と割愛しておりますが御了承下さい。

**意見**

専門の先生方のご意見を拝見させて頂きました。全く 意見の挟む余地が、ございませんがあえて私の感じた事を申し述べさせて、いただきます。

○管理期間経過後の安全対策について、考えてほしいと思います。たとえば地下水の水質検査、地質検査、地域住民の健康診断など。

○管理者への安全対策について

業務の遂行に際して管理区域内で働く人、また管理区域の近隣で働く人の安全確保。出入口は1、2箇所に限定。また放射線等の測定器の配置場所を多くする。エリア、モニターの設置など

○災害対策について

地震等による、施設貯蔵の破壊、漏出対策は本当に、充分なのか。

○処分費用の具体的方法は是非検討してほしい。また 経済性も考え汚染物とのつり合いを考え、除染に要する費用と廃棄に要する費用と合わせて考えてもよいと思うが。

○廃棄物の記録、保存の管理、そして記載ミス、虚無の報告などないよう。人事移動などによる、引き継ぎなど怠らないようお願いしたい。

○国民、地域住民への説明、理解は当然あると思います。

番号	No. 49	氏名	大塚 英司	年齢	44 才
----	--------	----	-------	----	------

**概要**  
該当廃棄物を50m～100m程度の深さに処分するとの根拠は何か分かり易く説明すべきと思います。

**意見**

①今回の比較的放射能濃度の高い廃棄物の処分方策について、国レベルの議論がされこのような形で一般に意見が求められていることは大事なことと思います。但し、似た話題である高レベル放射性廃棄物と混同されないような配慮が必要と思います。

②本文のあとに添付されている資料によりますと、地下鉄でも最大深度は43m程度で大半は30m以浅のようです。ということは、該当廃棄物の処分深度とされております50～100mというのは非常に深いものといえるはずです。低レベル放射性廃棄物については、既に日本原燃の六ヶ所村低レベル放射性廃棄物埋設センターにおいて比較的浅い深度に処分が実施されているのに、なぜ、同じ場所で深さを区分して処分する必要があるのかを分かり易く説明していただくとよいと思います。

また、地下鉄などの一般の地下利用が想定される東京などの都市部と、人工密集地ではなくそのような可能性の低い処分場との違いも指摘してもよいのではないかでしょうか。現在の過疎地域の将来の開発の可能性に配慮することは必要と思われますが、全国一律に同じ前提を与えることが国(民)益に叶うものかどうかも示す必要思います。

③該当廃棄物と既に日本原燃の六ヶ所村低レベル放射性廃棄物埋設センターで処分が実施されている低レベル放射性廃棄物との間には、放射能濃度の違いだけでなく、物量の違い(たぶん前者は後者に比べてずっと少ない。)があるとおもいますが、このことも報告書に書いておくとよいと思います。

以上

番号	No. 50	氏名	野崎 誠	年齢	35 才
----	--------	----	------	----	------

**概要**  
廃棄物埋設施設跡地の地下利用を制限することにより合理的な施設が作れる。

**意見**

埋設施設の管理期間終了後に、その土地が利用されて尚且つ、その場所に地下利用される可能性は皆無とは言い難い。

しかし、その可能性は果たしてどの程度なのか?

一般的な地下利用は、地下4階程度まで考慮されている。

一方、大深度地下利用に当たっては、廃棄物施設を回避することとしている。

この点については、地下の利用の仕方にについて考え方の統一性がとれていないと思う。

一般的に、地下に廃棄施設を作るのであれば、大深度地下利用にあっても制限されることない深度に作るのが望ましいが、合理的に施設を作るべきである。

したがって、管理期間が終了した後も地下利用の制限をすることで合理的に廃棄施設がつくれるのではないだろうか。

古墳等が発見され文化財として保存されているように埋設地にもモニュメントを築く等、後世の時代にも記録が残るような方法で、埋設場所を明確にし、地下利用を制限することで、50～100メートルではなく、もっと浅い地層に施設が作れると思う。

以上

番号	No. 51	氏名	仙波 耕	年齢	44 才
----	--------	----	------	----	------

**概要**  
放射性廃棄物の埋設処分地について、数百年の管理は現実的に可能なのだろうか。むしろ厳しすぎる放射線の基準を改め、管理期間を短縮し現実的な管理をめざすべきではないか。

**意見**  
被ばく管理の観点から管理することを必要としない目安線量として  $10 \mu\text{Sv/y}$  が定められ、これを基本として 廃棄物処分設計がなされているが、この線量は自然放射線による線量に比べて 100 分の 1 以下と小さい値である。

これは A L A R A の原則によるとされているが、ここまで下げることが本当に「合理的」であるのだろうか。

世界で見れば、自然放射線は日本の 10 倍程度のレベルの地域も存在する。そのような地域にとって全く無視できるレベルを、管理を必要としないレベルとするというのはあまりにも非現実的ではないだろうか。人工放射線は自然放射線に比べて影響が大きいとでも言うのであろうか。

また、管理期間の数百年というのも、これまでの歴史で見れば日本は非常に安定した国家ではあるものの、将来の環境の変化を予測するにはあまりの長期間であり、管理期間としてとても現実的とは思えない設定である。

したがって、処分概念構築にあたっては、目安線量の緩和、被ばく評価における現実的なパラメータの使用等によって、施設の合理化を図るとともに、管理期間を百年以下に設定することが、現実的であると考える。

放射線を怖れる人々に対しては、一見厳重で安心感を与えそうな数百年の管理というのは、そんなに危ないのかとむしろ必要以上に恐怖を増幅させるものであると思う。上記の現実的な案こそ安心感を与える PA の観点からも効果的であると考える。

一般に日本の放射性廃棄物処分の考え方は、あまりにまじめでやりすぎの感が免れない。放射線の影響を過大に評価する国際的な基準に沿って、それにさらに余裕をみた厳しい処分基準が作られているところがあり、このような積み重ねがやがて原子力利用の将来に暗雲を投げかけていると危惧するものである。

番号	No. 52	氏名	島田 行男	年齢	53 才
----	--------	----	-------	----	------

**概要**  
対象廃棄物の管理期間中における異常事象と、これに対する具体的対策は何か? なお、異常事象の想定とこれに対する対処方法が現実的かつ合理的であることを望みます。

**意見**  
私達は電気によって、毎日不自由なく快適な生活を送っています。これも原子力発電所が安全に運転しているからにはかありません。また今後もこの快適な生活を継続するとともに、地球環境を守ることも必要なことです。したがって、ますます原子力発電所が必要となり、強力に推進していかなければならぬと思います。一方原子力発電所の運転に伴い、対象廃棄物等の保管量も次第に増加していくことから、対象廃棄物の処分対策を早期に確立し、安全かつ合理的な処分の実施も必要だと思っており、今回の原子力委員会原子力バックエンド対策専門部会から示された基本的考え方は大体理解できました。この基本的考え方の作成にあたっては、各方面の専門の先生方が十分検討され、安全上問題ないものと思っています。ただ、管理期間中の異常事象発生時の対処方法がくわしく書かれていませんので、この期間中の異常事象とこれに対する具体的な対処方法を示していただけないでしょうか? なお、異常事象の想定とこれに対する対処方法が現実的で、かつ合理的なものであることを希望します。 以上

番号	No. 53	氏名	河村 達彦	年齢	40 才
----	--------	----	-------	----	------

### 概要

残された放射性廃棄物の処分方策を早急に確立してもらいたい。

### 意見

今回の検討で、原子力発電所から発生する低レベル放射性廃棄物に関する処分方策が完結したことである。また、R I・研究所等廃棄物についても処分方策が既に取りまとめられている。しかしながら、まだ、処分方策が確立していない核燃料サイクル廃棄物についても早急に検討を取りまとめて、先行きが不透明である廃棄物処分の全体像を明らかにすることが必要である。そして、原子力に関する長所・短所を明らかにした上で、環境問題、経済成長・国民生活のあり方等との関連で、我が国の今後のエネルギー供給構造のあるべき姿を真摯に議論することが、今後の原子力開発に際し、国民の理解・合意形成を得る上では不可欠と考える。

番号	No. 54	氏名	稻田 勝彦	年齢	62 才
----	--------	----	-------	----	------

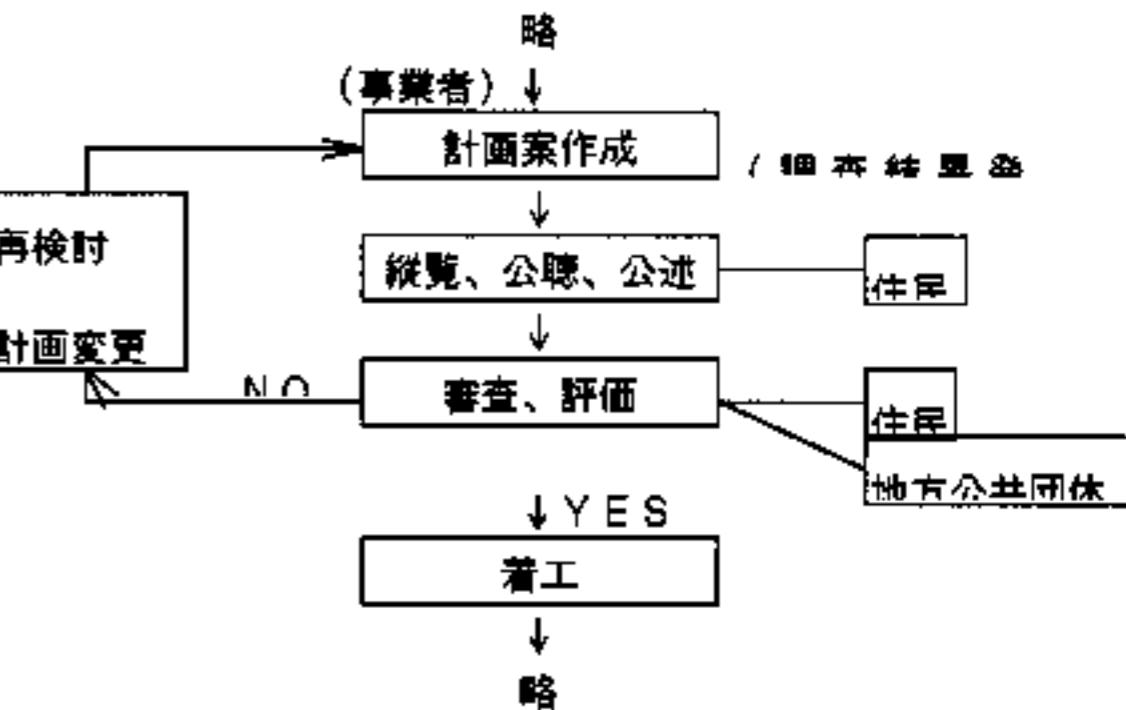
### 概要

「環境保全調査」は工事着工前に工事中、工事完了後共用の総ての分野に渡り事前環境影響調査（環境アセスメント）もして為すべきと考える。

### 意見

- 1.) 調査は事業者（原子力関係機関）のみでなく周辺住民および当該地方公共団体が参加する第三者的形態で行なう。
- 2.) 調査内容は自然環境、生活環境、あらゆる分野に及びまた物質的、精神的、文化的影響等総合的、多角的に取組む。
- 3.) 机上の計量的数値のみでなく、現地の人間的感覚を考慮する。
- 4.) 調査の課程で住民に結果を縦覧すると共に公聴、公述の機会を与える。但し「見せた」、「聴かせた」、「言わせた」。のみで住民参加と解せず、住民の合意、納得を以って始めて住民参加保証と言うべき。
- 5.) 調査結果の審査、評価次第によっては再検討手続を確保する。すなわち単一計画案のみでなく計画変更、代替案の検討を保証する。
- 6.) 調査をセレモニー化や環境悪化の免罪符にしない。

以上を表にまとめれば次のとおりになる。



番号	No. 55	氏名	小井土 敏子	年齢	32 才
----	--------	----	--------	----	------

概要
----

6. 2 の内容に関して、地下に処理場を作つて放射能が土壤や地下水に移行して被ばくする可能性、またその処理場を建設する場所があるのかどうか。

意見
----

6. 1. 1～4 は全くのしろうとである私にも 具体的でわかりやすく納得できる内容のものであったが、6. 2 に関しては「移行が十分抑制され、安全が確保できると考えられる」という記述で、漠然としていて本当に安全なのかどうか読んでいてもわからない。参考資料 17. 18 には数値や図で一見わかりやすくなっているようにみえるが、放射能が地下から土壤や地下水に少しずつ移行していき、それが本当に人体に害がないのか不安に思えた。また関連して参考資料 8 の表に半減期が何万年という核種があり、放射性核種の量が半分になるまで、そんなに年数かかるものが 廃棄物として地下にずっと 人体に影響がなくなるまで安全に管理されるのかと疑問に思った。私の資料の読み方がたりないのかもしれないが、先日レポートにも書いたとおりである。

地球温暖化に配慮したり、石油や天然ガスなどが底をついてしまう事、エネルギーの需要の伸びで原子力発電の割合を増やしていくとの事だが、今後、原子炉施設も同じように次々と役目を終えて解体されていくのであろう。大量の廃棄物が、この狭い日本のどこに、比較的地盤が処理場として向いていて しかも将来に渡って掘りかえされる可能性の少ない場所がそんなにあるのか。この処理方法がその場しおぎではなく、何十年、何百年先の私たちの子孫や地球にとって正しい方法であつて欲しいと思う。その結果ができるのも、何百年も先の事になってしまふのだから、事故の起らない安全な処理方法であつて欲しい。地下に埋めるだけでなくもっとリサイクルできる方法をみつけ出したり、はじめからリサイクルできないものは使わない努力も、私たちが過剰包装を断つたり容器リサイクルをするなど小さな努力をしているように、原子力開発にとっても必要だと思う。

番号	No. 56	氏名	高橋 存	年齢	63 才
----	--------	----	------	----	------

概要
----

なし
----

意見
----

濃度上限低レベル放射性廃棄物処分についての件ですが現在は各々での処分との事ですが、日本でも各事業所にて保管中との事。日本での濃縮ウラン核燃料棒使用又は製造事業所はどのくらいでしょうか 60ヶ所程と思われます。可燃不燃難燃共ドラム缶にて数万本有ると思います。現在の青森県の六ヶ所村にて埋設保管中との事。これも限界が有りましょう。ならば自然のウラン鉱からの放射性廃棄物も自然へと思います。日本に数有る旧石炭鉱山跡などはどうでしょう。廃鉱跡深地中数百米ないし奥行数 1, 000 米と言った鉱空に自然に帰す事が放射能半減させる又減少も早目に成りより安全により早急な処分件と思われます。又各省庁とのエネルギー専門委員会等により 1 シーベルト以下は一般産業廃棄物として処理をすると言った改組向け関係法改正も必要で有ろう 電力燃料エネルギー量としては%的には少ないとと思うが廃棄物としてはウラン濃度廃棄物としてこれから電力産業から一般産業までのエネルギー廃棄物として考へる事が電力界や産業界のこれから課題で有りませう。

番号	No. 57	氏名	下道 修子	年齢	48 才
概要					
自分の国の原子力のゴミは、一日も早く自分の国で、安全に廃棄物処分をしてほしい。					
意見					
<p>2010年までを視野に入れたわが国のエネルギーについての新しい方針、(長期エネルギー需給見通し)が発表され、地球温暖化を防ぐ国際会議で決められた、二酸化炭素の削減目標を達成するため、大きな柱として原子力発電を積極的に利用していくことが重要とされました。</p> <p>原子力発電は、発電コストに占める燃料費の割合が低い、CO<sub>2</sub>排出の一番少ない発電方法である。燃料をリサイクルできるのでいい、などといいことばかりのようですが、使用済燃料は放射線を出すために慎重に扱わなければなりません。</p> <p>これからは原子力発電所が古くなり取りこわすとか、発電所が増えてきて、放射性廃棄物の料が増えてくるとか、原子力のゴミを一日も早く自分の国で安全に廃棄物処分をしなくてはなりません。</p> <p>放射性廃棄物の処分が、大きな課題となってきます。</p> <p>この原子力バックエンド対策専門部会報告書案を読みますと、何百年もの後のことまで考えていて、人間と廃棄物の接触を想定した場合の被ばく線量の試算例まで考えられており、この案のとおりに手ぬきをせずに計画をきちんと実行していってもらいたいです。</p> <p>「おわりに」という章に書かれているように処分事業全体について透明性が確保されることが、国民の理解を得ることだと思います。</p> <p>記録や処分の実施状況が適切な方法を用いかつ、国民に分かりやすい形で公開されることを望みます。</p> <p>一日も早く自分の国で安全に廃棄物処分ができるのを待っています。</p>					

番号	No. 58	氏名	幡野 忠良	年齢	66 才
概要					
対象廃棄物の保管には倉庫業法による「廃棄物倉庫株式会社」を作り、安全とコストを明確にする。					
意見					
<p>日本における原子力発電は、使用済燃料の再処理を含めバックエンドについてはまだ研究課題が多く問題が山積しています。我々は子孫に大変なお荷物を残すことになるので、責任の持てる処分場と保管方法を考えなければなりません。その問題点として</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○日本は国土が狭いので場所の決定がむつかしい</li> <li>○「対象廃棄物の保管量は毎年増えている</li> <li>○原子炉施設が「遮蔽隔離方式」でなく「解体撤去方式」で解体されるのであれば今後急激に保管量が増える等を考えると早急に恒久的な処分場を決定しなければならない。この決定に際し国民が一番不安を持つのが</li> </ul> <p>①人類の生活圏より永久に隔離する方法      ②廃棄物の管理がどのような方法で行なわれるのか      の 2 点に絞られると思う</p> <p>今大切なことは処分場の物理的な問題を決める前に管理体制を明確にし国民や地域住民に安心感と共に受け入れられることである その管理会社の一つの案として「廃棄物倉庫株式会社」がある  <b>「廃棄物倉庫株式会社」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①この保管会社は倉庫業法による倉庫で廃棄物を発生させた各電力会社の共同出資による株式会社とする</li> <li>②社長は民間人より選任する</li> <li>③安全に対する意識が欠け、組織を守る意識の強い会社には絶対してはならない。</li> <li>④事故があれば直ちに公開し適切な処置を行う。      直ちに報告し公開しないことが反ってアトで大きなマイナスとなって返って来ることを社員に徹底させる</li> <li>⑤搬入出料、保管料は各電力会社に請求する</li> </ul> <p>上記の通り処分場の場所の選定は国が行うがその廃棄物管理は民間の商業ベースで行うのが良い。これにより原子力発電コストの明確化にも役立つと思います。以上</p>					

番号	No. 59	氏名	杉原 富士夫	年齢	49 才
----	--------	----	--------	----	------

概要

300年間も管理されるが、現在の人類が全員亡くなっているのに、きちんと管理される保障があるのか心配です。

意見

現在の原子力発電は 廃棄物処分問題もきちんと決まっていない中見切り発車してしまったようです 一度発生した放射能が半減していく期間が数億年～数万年～千年～300年もかかることは、地球上に放射能が発生すれば コンクリートで固めて埋めてしまおうと、土中の中で消えることもなく、地下水に流れ出してしまったりするため、実際には 不可能な処分について、とりあえず 国民に不安感をやわらげるために地下に埋めるしか方法がないようにしている。しかし 鉄製のドラム缶が300年もさびなくてもつということも聞いたことがなく 1～5年ぐらいで鉄製のドラム缶は、サビて形がなくなるので一次的な保管しかできないと思います。そして 日本中の原発が 40年後に解体されようとした時の 廃棄物量が ドラム缶10万本で済むのか 疑問です そのため 六ヶ所村か、一か所だけで 満たんとなつた時、北海道の原野に、新しく 処分場を作らなければならぬ ように思えます

そのため 現在ある 青函トンネル内で一部ドラム缶を保管して調査することで 地中100mの所の地下水や 湿気で ドラム缶がさびてなくなり 放射能が出てくることがないか 早急に調査して下さい。

それにしても 地球にとって 一度発生した放射能の 処分が どれだけ やっかいなことなのか もっと国民にPRして下さい これほど大変な処分だったら、やはり 火力や水力の方が人類にとって よかったのでは ないかとも思われます 300年後に処分地の上に住宅を建てる考えを人目に示しておいて下さい。そして 世界中の IAEAとして 協力して 処分方法を検討して下さい 60～70才代のメンバーの人々も亡くなってしまって責任はなくなってしまうので生きている間に責任のある対策をしておいて下さい。

番号	No. 60	氏名	斎藤 浩	年齢	63 才
----	--------	----	------	----	------

概要

なし

意見

かなり細かい点まで慎重に規定されていて、この通り的確に行われるならば、まず問題はないように思われます。

技術的には問題がないとしても、それを実施するのは人間であり、人間のやることには常に「うっかりミス」がつきまといます。二重三重のチェックが必要でしょう。

原子力技術には素人の私ですが、次のようなことが心配になります。これは、あるいはこの「報告書(案)」の範囲を逸脱している問題とも言えましょうが、こうしたことこそ大切なのだという気がしてなりません。

①、こうした場合、事業所の監督に当たる者が「ミスは絶対許されないのだ」ということを余りにも強く要求しすぎますと、当事者はとかくミスを隠そうとする心理が働くものです。ここが監督者の難しいところで、むしろ「ミスを報告する勇気」を徹底することと「隠した場合の厳罰」とを盛り込むことが、より効果的と思われます。

②、実際に工事を担当するのは、土木業者だと思われますが、業者はとかく「利益優先」になるものです。こうした「手抜き工事」が許されない工事の場合、監督官庁が果たして工事の全般についての監査ができるものかどうか。監督担当官と業者との陰の取引などは絶対あってはならない問題です。場合によったら、報告書の末尾にでも、そうしたことについての、何らかの表現があつてもいいのではないかでしょうか。

③更に、後で被害が発生してそれが業者の手抜きだと分かった場合、業者が倒産した等の理由で責任の所在がウヤムヤになってしまふことは考えられないのか、ということも心配になります。

番号	No. 61	氏名	匿名	年齢	79 才
----	--------	----	----	----	------

**概要**  
放射性廃棄物や、産業廃棄物を、数十年後、百年後は、太平洋や大西洋の数千米の深いところへの、海洋投棄を、太胆に提案します。

**意見**  
低レベル放射性廃棄物を処分する方法として、現在、原子力委員会が行っておられるような方法、即ち、低レベル放射性廃棄物をコンクリート詰めした上で、数十メートル乃至数百メートルの深さの穴を掘り、埋めて、土砂で埋設する。その近くには、人間が近づかないようなサクをする。三百年間、そのような状態を保っておれば、放射能の被害は、殆んど、ゼロに近くなるであろう。

放射性廃棄物や、産業廃棄物は、数十年後、百年後には、陸地、又は、陸中には、棄てるところがなくなるので、太平洋や大西洋の数千米の深い海中に棄てるという考え方が、自然発生的に出て来ると思う。

今、私が、こういうことを言えば、異端に思はれるであろうが、数十年後、百年後は、太平洋、大西洋の深いところへの海洋投棄は、常識となっているであろう。

でないと、陸上では、もう、どうにもならない。

ロシヤは、放射性物質を日本海に棄てていたが、その後日本側とロシヤ側の共同調査の結果でも、格別の被害は、なかった。

番号	No. 62	氏名	西中 謙	年齢	68 才
----	--------	----	------	----	------

**概要**  
現在の原子力発電、その方法を廃棄処分の事を前程として、発電方法を考え直すべきだと思います。国民に信頼される原子力発電を考案し直すべきだと思います。

**意見**  
30数年前、我が国で初めて原子力発電が可動した。原子力発電を可動する前から、放射性廃棄物の出る事は承知していたはずである。今になってからその処分方法について論議するのは、いかがなものか。

動燃事故のテレビ報道を見て、原子力発電所の広さ、大きさに警いた次第です。我が国では昔から小型化にする技術を持っています。いつ時トランジスタラジオがブームになった時代がありました。当然、原子力発電1号機と、最近出来た原子力発電所とでは、その電気の出力にくらべ、面積は小さくなっている事と思います。

放射性廃棄物処分を考えるならば、最初から今までの原子力発電の在り方を一掃して、カプセル内で発電を起す様な考え方へ変更するべきだと思います。カプセル内で発電をする様にすれば、一定期間使用した原子力カプセルを、地下深くうずめる様にすれば放射能もれの心配もなく、半永久的に地下保存出来る事となる。

我が国初の、原子力船「むつ」が放射能もれ事故を起し廃船となつたが、他国では原子力船が今も活動をしている。これらも、原子力のカプセル化したものと考えても良い。

原子力発電をカプセル化すれば、発電力も少くなくなり、人口30万～50万人に1台のカプセル原子力が必要になる。しかし、万が一事故が発生しても、放射能が外にもれなくすれば国民も安心するのではないか。大都会に於いても10～20箇のカプセル原子力発電所であれば、その必要とする面積も小さくてすむ事となる。

放射性廃棄物の処分を容易にする為にも、その発電方法の研究が大切だと思います。いつか処分をする、それを前程に原子力発電の在り方を考えるべきです。現在の原子力発電廃棄分は、地下深くうずめるより他に方法は無いと思います。

番号	No. 63	氏名	今野 昭徳	年齢	34 才
----	--------	----	-------	----	------

### 概要

放射性廃棄物を減らす事が、生活する人間の一番の近道である。

### 意見

放射性廃棄物を作り出した発生者である、電気事業者や試験研究機関だけの問題の様に思われるが、よく考えてみると身近かに言えば、現在生活に不可欠な電気を作る、発電の効率が最も良いとして考えられた一手段が、原子力であるからだと思う。

工業技術の進歩によって、日常生活ではあらゆる家庭で電気製品が日に日に増えて便利になる今日である。

外国で安価に量産し、国内の電気専門店で競争しながら大量に販売される。「消費電力量？」電気製品販売店側からすれば関係ありません、使用する側（家庭）の判断にゆだねられる。各電力会社との契約ワット数も急増し電気製品を売る側、電気を造る側からすれば何事も消費するのだから手離しで喜べる話なはずです。

しかし、そうではないのです。何事も記録は伸びればすばらしい事ですが、「電気」は、湧き水ではないのです。そのつけが発電の置き土産として、放射性廃棄物を生み出しているのです。出てしまった廃棄物は確かに埋設などの処分をしなければなりません。しかし現在の人間がいらない廃棄物は、100 年いや 300 年経つ未来の世代でもいらないはずです

放射性廃棄物の発生者はもとより、原子力発電で電気として使う側、電化製品を売る側の 3 者の問題なはずです。だから人間生活からすれば、電気消費の減少、すなわち「節電化製品」が放射性廃棄物を減らす最も身近かな方法のように思います。

番号	No. 64	氏名	藤原 愛	年齢	48 才
----	--------	----	------	----	------

### 概要

人工バリアによる放射性核種の移行抑制方法については、難透水材料の使用だけでなく、天然バリアの特性に応じて広範囲な選択肢が可能であることを明記すべきである。

### 意見

放射性核種の地下水移行に対する安全確保は、天然バリアと人工バリアの適切な組み合わせによって、合理的に行うことが肝要である。本報告書にも、天然バリアの機能が十分でない場合は、難透水性材料による核種閉じ込め機能の向上によって安全が確保できる旨が記載されているのは、妥当と考えられる。しかし、人工バリアによる天然バリアの補完の方法は、天然バリアの特性に応じて合理的に選択すべきである。たとえば、長期間の健全性が期待できる廃棄体の容器の使用、ひび割れの発生を抑制した施工を行ったコンクリート構造物使用、地下水を迂回させる機能を持つ透水性の材料の周囲への設置によっても、処分施設を通過する地下水量を小さくすることは可能であると考えられる。このように、天然バリアの特性に応じて、合理的な選択肢が可能であることを明記しておくべきである。

番号	No. 65	氏名	深田 博之	年齢	31 才
----	--------	----	-------	----	------

概要
産業廃棄物によるリスクとの整合をはかり、合理的な処分方法とする。

意見
放射性廃棄物は人間社会から遠く隔離すればするほど安全であることは当然であるが、リスクと経済性を考慮して合理的な隔離をはかることが必要である。原子力バックエンド対策専門部会においてはその点も考慮して50～100m程度としているものと考えるが、物量的にはるかに多い産業廃棄物のリスクとの整合性はどうなっているのであろうか。
産業廃棄物の中にはダイオキシンやP C Bあるいは重金属等、放射性廃棄物よりも発ガン性、催奇形性、難病性等に影響のある物質が多くある。
これらの物質によるリスク、処分後の管理の考え方（管理期間、跡地利用等）とも整合をとり、放射性廃棄物だけが必要以上に過剰な施設や管理にならないようにするべきである。
処分費用は原子力発電やR I 使用に伴い廃棄物を発生させた者が負担することとなっているが、最終的には全国民の負担である。

番号	No. 66	氏名	矢部 明	年齢	70 才
----	--------	----	------	----	------

概要
報告書案には異論はない。歴史的な廃坑跡地の調査、耐震基準等の整備等を積極的に進める必要がある。数百年の監視期間中の国指導監督をより強固に。費用の早急な開示を。

意見
「 $\beta$ ノ核種濃度が平均で現行の政令濃度上限値を1～2桁、最大で2～3桁上回り、 $\alpha$ 核種の濃度は最大でも現行の政令濃度上限値を下回ると推定される」程度で、地下50～100mの大規模地下施設を設置するのは、個人的には過大な対策と思われるが、一般公衆被ばくの「目安線量」 $10 \mu S v / \gamma$ 以下を維持するには止むを得ないであろう。稼働中のスウェーデン・フィンランドの施設の例もあり、また数百年という監視期間も実現性があるので、報告書案には大筋には異論はない。ただ前の2国とは異なり不安定なプレート上に存在し軟弱地盤の多い我が国で天災に耐えられる適地の選択が難しくないのだろうか。実際には実現までに歴史的に古い廃坑跡地の調査、耐震基準等の整備等を進める必要があろう。
報告書案の表題に「・・・基本的考え方」とあるように、これはあくまでも現時点での考え方であって500年という未来を見た場合、将来の考え方の変化にできるだけ柔軟な対応ができる余地を残すことが望ましい。このためにも管理（主に放射線・放射能のモニタリング）と詳細な記録の保存が最も重要である。放射線のリスクの他のリスクに対する評価が相対的に減少したり、その結果、金属資源枯渇で再取り出し（これを視野に入れれば金属類の廃イオン交換樹脂等からの分別処分も必要）が行われたり、監視期間の短縮もあり得ないことではない。
処分事業の責任分担については、廃棄物の発生者の原子炉設置者が第一次的な責任を負うことは当然だが、処分事業主体に実際の施設運営・管理・記録を任せ、原子炉設置者がこれを支援することになっているのは妥当であろう。しかし数百年にわたる事業であることを考えれば、原子炉設置者の興廃・変更が多々あるに違いない。昨今の公益法人の不祥事を鑑みるとより強力な国の直接な指導監督が望ましい。費用については最終的に受益者の国民が負うことになるので早急な概算の開示を望む。

番号	No. 67	氏名	斎藤 昌之	年齢	45 才
----	--------	----	-------	----	------

概要
放射性廃棄物は、発生源ではなく、含まれる核種の種類、濃度に応じて、合理的に区分し、区分に応じた適切な処分を行うべきである。

意見
放射性廃棄物は、原子炉の運転、解体のみならず、核燃料サイクル施設の運転、解体、また、医療や研究におけるR I 利用に伴い発生するものである。これまでの放射性廃棄物の処分は、原子炉の運転に伴う現行の政令濃度上限値以下の低レベル廃棄物のみ浅地中埋設処分が行われ、それ以外の放射性廃棄物の処分はまだ実施されていない。今回、現行の政令濃度上限値を超える低レベル放射性廃棄物処分の基本的考え方の案が公表されたが、R I ・研究所等廃棄物の処分については、先日、報告書が公表されており、また、高レベル廃棄物やサイクル施設からの放射性廃棄物についても今後処分の考え方がまとめられるはずであり、隨時、整備されていくものと考えている。放射性廃棄物の処分の方法を考える上で問題となるのは、含まれる核種の種類とその濃度であり、発生源が、原子炉、サイクル施設、研究所、病院にはよらないはずである。そこで、この際、放射性廃棄物については、発生源毎の分類を改め、含まれる核種の種類、濃度に応じた分類を採用されることを提案したい。この場合、今回の報告書の対象となる廃棄物の名称が「現行の政令濃度上限値を超える低レベル廃棄物」といった複雑なものではなく、例えばⅠ種、Ⅱ種、Ⅲ種とか、A種、B種、C種といった簡明な名称とすべきであると考える。

番号	No. 68	氏名	戸田 充彦	年齢	18 才
----	--------	----	-------	----	------

概要
放射性廃棄物処分における地中埋設後の放射性核種の量が安全なレベルに減少するまでの長期間に及ぶ管理を維持することに対する確実な保証の有無とその具体的方法について。

意見
放射性廃棄物をその種類や濃度、放射性核種の量などにより適切な方法をとって処分をし、その後放射性廃棄物中の放射性核種が安全なレベルに減少するまで厳しい基準のもと管理を行い、人間が被ばくすることのないようにするという方針は分かりました。しかし、放射性廃棄物中の放射性核種が安全なレベルに減少するまでにかかる時間は、報告書案に依ると300～400年間ということですが、これは人間にとっては非常に長い時間であります。数百年間にも及びほとんど変化することなく残り続けている人間社会の仕組みや規則や組織は、今のところ皆無だと思います。したがって現在において放射性廃棄物を処分し以後の管理の責任を負うこととなった団体が、その管理期間が終了するまで確実に存在してその責任を全うすることが可能であるという保証、もしくは仮にその団体が管理期間が終了する前にその責任を全うすることが不可能になった時点での、他の団体もしくは機関がその責任を引き継ぎ全うするという保証が、処分を開始する段階で確実になされているのか否か、なされているのならばそれは具体的にどのような方法によってか、なされていないのならば上述したような事態に対してどのように考えるのでしょうか。以上の点に関する回答をお願いします。

番号	No. 69	氏名	戸田 充彦	年齢	18 才
----	--------	----	-------	----	------

**概要**  
放射性廃棄物処分施設の大規模な自然災害における大規模破損の可能性の有無及び可能性が有る場合における破損時の具体的対策について。

**意見**

放射性廃棄物の地下埋設処分については、将来における処理場となつた土地利用に制約を課さないだけの余裕をもった深度、具体的には60~100 メートル程度に廃棄物を収納するコンクリート構造物を建設して廃棄物を収納後埋め戻し、以後放射性核種の地下水への漏洩の有無を継続的に調査するということですが、放射性核種の地下水への漏洩が確認された際、それから再び深度数十メートルの構造物を修復するという方法では時間がかかり過ぎて、放射性核種が環境中に影響を及ぼすことはないのでしょうか。この場合においては特に問題にならないとしても、地震や火山噴火といった予測不可能な大規模な自然災害により構造物が大きく破壊されて、大量の放射性核種が短時間で漏洩して人間の被ばくに大きな影響を与えるということはないのでしょうか。また、このような事態が起こり得る場合はその事態に対してどのような具体的対策を考えているのか。以上の点に関しての回答をお願いします。

番号	No. 70	氏名	宮本 一正	年齢	56 才
----	--------	----	-------	----	------

**概要**  
今回の廃棄物の処分深度（地表から50m~100m程度）の根拠は何か。もうこの深度で決定なのか。わかりやすく説明してもらいたい。

**意見**

今回の廃棄物を処分するにあたっては、これまで埋設処分されているものと違い、処分施設を地下数十m程度（例えば地表から50mから100m程度）の深度へ設置することで安全に処分できるとしております。この「地表から50mから100m程度」という深度はどのような検討過程を経て出されたものなのでしょうか。もうこの深度で決定したのでしょうか。これより浅い場合や深い場合は安全上問題があるのでしょうか。報告書案を読んだ限りこの点がよく判りませんでした。国民皆が納得できるようなわかりやすくかつ詳細な説明をしていただきたい。

番号	No. 71	氏名	宮本 一正	年齢	56 才
----	--------	----	-------	----	------

### 概要

「現行の政令濃度上限値を超える低レベル放射性廃棄物」の処分地を決定する際には、国民の声を反映し、決定プロセスを公開し、地元の同意を得た上で決定してもらいたい。

### 意見

今回検討されている「現行の政令濃度上限値を超える低レベル放射性廃棄物」はどこに処分されることになるのでしょうか。現在すでに埋設処分が実施されている青森県六ヶ所村が有力な候補地と考えてよろしいのでしょうか。青森県や六ヶ所村にはすでに今回の廃棄物の処分のお話はしているのでしょうか。

いずれにしても、今回の廃棄物の処分地を決定するにあたっては、然るべき方法により国民の意見を十分に反映させるとともに、その決定プロセスをすべて公開し、処分地の地元の方々からの同意を得た上で決定していただきたい。

番号	No. 72	氏名	鈴木 修	年齢	49 才
----	--------	----	------	----	------

### 概要

「第3章 R I 廃棄物について」において、 $\alpha$ 核種についての記述がありませんが、別の検討の場があるのですか。

### 意見

R I の中には、Am-241やRa-226などの $\alpha$ 核種がある。これらの処分の検討はされているのでしょうか。別の検討の場があればよろしいのですが、もれのないようにしてください。

処分時点で現行の政令濃度上限値を超える放射性廃棄物は、Cs-137、H-3ターゲットの一部と想定していますが、今後Sr-90の線源などで濃度上限値を超える半減期が長い核種の線源が発生した場合は、今回の報告書に記載されていないということで処分対象から外れることにならないか。できればCs-137、H-3は代表核種とする記述にしてはいかがでしょうか。

番号	No. 73	氏名	坂本 義昭	年齢	35 才
----	--------	----	-------	----	------

**概要**  
原子力発電所以外の放射性廃棄物の処分については、他の廃棄物発生者との連携・協力について明確に言及すべきである。

**意見**

原子力委員会原子力バックエンド対策専門部会報告書「R I・研究所等廃棄物処理処分の基本的考え方について」(平成10年5月28日)では、第4章6.において、「他の廃棄物処分事業者との連携・協力」として、現行の政令濃度上限値を超える低レベル放射性廃棄物について以下のように言及されている。すなわち、「R I・研究所等廃棄物のなかには、現行の政令濃度上限値を超える低レベル放射性廃棄物…(中略)…について、各々の処分スキームに取り入れられるよう、処分方策の検討段階から、準備会及処分事業主体並びに他の廃棄物処分に係る関係機関は連携・協力を図り、処分の対象廃棄物の範疇から外れるものがないようにすることが重要である。」

また、原子力委員会においても発生源毎に処分実施主体をつくるのかどうか、原子力バックエンド対策専門部会でも放射性廃棄物毎の処分場建設や実施主体をつくることの合理性について意見が出されている。

したがって、原子力委員会原子力バックエンド対策専門部会報告書「R I・研究所等廃棄物処理処分の基本的考え方について」(平成10年5月28日)で示されたように、廃棄物処分に係る関係機関は連携・協力を図り、処分の対象廃棄物の範疇から外れるものがないようにするためには、本報告書案の第2章1.「責任分担の在り方と実施体制」において、上記「R I・研究所等廃棄物処理処分の基本的考え方について」での上記と同様な主旨の記述を加えるべきである。

番号	No. 74	氏名	中山 芳昌	年齢	43 才
----	--------	----	-------	----	------

**概要**  
埋設施設を埋め戻した後の地上部分はどのように活用されるのか

**意見**

これらの廃棄物を処分する施設の規模はかなり大きなものになると考えられる。

よって、廃棄物を定置し埋め戻した後の地上の更地になると思われる所以、管理期間中に従来の自然環境に戻すため施策を施す等の環境破壊につながらないようにすることが望ましいのではないか

番号	No. 75	氏名	子安 徹人	年齢	35 才
----	--------	----	-------	----	------

**概要**  
埋設施設で廃棄物を取り扱う場合、取扱い装置のトラブル等が生じた場合、補修作業等で多大な被ばくをする恐れがあるのでは

**意見**  
本報告書で検討されている「現行の政令濃度上限値を超える低レベル放射性廃棄物」は、現在既に埋設されている低レベル放射性廃棄物より放射能濃度が高いものであり、且つ埋設される場所も地下50～100mと深い場所とされている。  
このような放射能レベルのものを作業性の悪い地下に埋設するにあたって、被ばく等の安全面が十分施せるかの検討をするべきではないか。又、埋設のための装置に何らかのトラブル等が生じた場合、補修作業等で多大な被ばくをする恐れがあるのではないか。

番号	No. 76	氏名	斎藤 好博	年齢	32 才
----	--------	----	-------	----	------

**概要**  
「現行の政令濃度上限値を超える低レベル放射性廃棄物処分の基本的考え方について」は決定なりしたい、テレビ等で公開討論してはどうでしょうか。

**意見**  
まずははじめに、この文書の中味は我々一般の方には、とても難しい内容なので、私たち国民がわかりやすく、原子力行政に関心をもつようには、低年齢の方からお年寄りにきめ細かに理解していただくために、低年齢の方にはアニメ番組風に、お年寄りの方には、テレビ等で公開討論すればもっと理解が深まるものと思われます。  
まして、平成9年3月の再処理工場で放射能漏れの事故があった。最も重大なのは施設の責任者が地域の住民に対する配慮が全く欠けていることであった。いつもこの種の事故が起きたとき、当の責任者はできるだけ軽く見ようとする傾向があるようだ。そのことが万一地域の住民に重大な結果をもたらすことになったらどうするのだろうか。この種の事故が起きたら、それがどんな軽微なものであっても、地震のときと同じように、マスコミを通じて国民に知らせることにしてはどうか。  
最後に、報告書(案)は文書もいいけど別冊で漫画風にモニターの方に配布していただければもっと理解が深まると思われます。  
科学技術庁も発想の転換を望みます。

番号	No. 77	氏名	新田 たえ	年齢	67 才
----	--------	----	-------	----	------

**概要**  
低レベル放射性廃棄物処分は、核種によっては何世代にも影響、負担を及ぼすので、地下処分は自然生態・自然災害を考慮し、最もきびしい基準で安全第一に処理されたし。

**意見**

以前、浜岡原子力館を見学した。砂丘の向うは海で、敷地内は植木がきれいに刈りこまれ、最終処分された水が流れる池で、色とりどりの鯉が泳いでいた。原子力も私達が快適な生活を送るには、なくてならないエネルギーとなつたが、この報告書案を読んで、大変大きな問題を、自分の世代のみでなく、次の世代、いや次の次の次の世代にまで提起していると思う。生命体を破壊する力を持つ放射性廃棄物を際限なく、地下50～100mに埋め、数百年間の管理期間を持つと云う。地下水への汚染をふせぐ核種閉じ込め機能の向上なども見られるようだが、この地球は人間だけのものではない。土中に埋める事によって、微生物・植物・魚・畜産物が全く汚染されないと云う保証はない。人間も生命共同体の一つである。廃棄物を少くする為には、私達のライフスタイルを変える勇気を持つと共に、日本の知性の総力を使って、廃棄物のリサイクル化、風力発電、波力発電等他のエネルギーの開発にも力を入れるべきと思う。

又、情報公開は必須の事であるが、望ましくない事に、理解を得ると云うより、原子力の乱用、無駄使いを警告する意味をこめてもらいたいと思う。又、国や企業の利益より、国民の健康・子孫への災いを残さないと云う事を、常に基本にしていただきたい。

現在、出てしまっている、又これから出る放射性廃棄物処分の案は、現在の日本の科学技術の総力を使っていると信じたい。

番号	No. 78	氏名	阿部 陽子	年齢	35 才
----	--------	----	-------	----	------

**概要**  
300年という期間が定められているが、果たしてその300年間で本当に放射性廃棄物が、人体に影響を与えない程の低レベルになることが実際に証明できるのですか。

**意見**

300年から400年経過すれば、処分施設の放射線防護上重要な<sup>60</sup>Co、<sup>137</sup>Csなどは、一千分の一から一万分の一以下に減少する、とあった。しかし、それはあくまでも実験や科学的に計算されたものだと思う。実際300年間管理する、とあったが、その300年の間に国の体制が変化した場合、地震で地層に大きな変化が起り50～100m地下が隆起してしまった場合、どう管理できるのか。

また、300年の間に一千分の一に減少したと過程し現在は「1」の量の廃棄物であったとしても、今後の急速な世界的な使用量の増加に伴い「10」や「100」になれば、その量も一千分の十、一千分の百になってしまうのではないだろうか。廃棄した物質をどうするかも重要だが、その量を少しでも減少できないものだろうか。

番号	No. 79	氏名	斎藤 とよみ	年齢	60 才
----	--------	----	--------	----	------

### 概要

「現行の政令濃度上限値を超える低レベル放射性廃棄物処分の基本的考え方について報告書(案)による、万が一事故が起こった場合の事故報告が記入されていない。

### 意見

対象廃棄物に関する安全確保の考え方はすばらしいが「現行の政令濃度上限値を超える低レベル放射性廃棄物処分の基本的考え方について」の報告書(案)では、国民の理解が得られるよう書いているが、安全基準にとらわれず、微量でも事故や異常で放射能がもれたら、施設内だけでなく周辺地域にも警報がいち早く伝わるようにしてはどうか、まして平成9年3月には茨城県東海村にある動力炉・核燃料開発事業団(動燃)の再処理工場で起きた事故については、公表される事実が時を追って訂正される。またしても事故隠しか、との印象を受ける。

「もんじゅ」の教訓は、生かされなかったと言わざるを得ないが、事実はもっと深刻なのではないだろうか。

動燃が事態を把握したうえで、責任問題や周囲に与える影響が心をよぎり、かかる公表になったのであれば、まだ信頼できる部分が残されている。

しかし、自分たちの事業がどのような事業で、施設がどうなっていて、どのような危険が生ずる可能性があり、そのための安全対策が、どうなっているかの認識がないのではないか。

危機対応能力が全くといっていいほど欠如している可能性が高いことを、かかる状況は示しているのではないか。重大な危機、それは絶対に起こらないとはいえない。かかる危機が訪れた場合を考えると、動燃あげての意識改革が急務である。

番号	No. 80	氏名	佐藤 幸司	年齢	40 才
----	--------	----	-------	----	------

### 概要

処分記録が永久に保存され、人間と廃棄物の接触が安全上問題とならないならば、処分深度は50~100mより浅くてもよい。処分費用の確保は早急に行うべきである。

### 意見

深度の地下利用を計画する場合には様々な事前調査が行われるということであり、また、処分に関する記録は管理期間経過後も期限を切らずに国において保存されるという条件で、かつ管理期間経過後も処分場跡地の利用に伴い人間と廃棄物が接触し安全上問題となるような被ばくが起きないように関係法令の整備を図ることである。

管理期間が終了後もこのような対応がとられるのであれば、処分深度は50~100mという深い深度でなくもっと浅い位置においても管理期間経過後の人間活動に対する安全確保は担保されるのではないか。

今回の対象廃棄物は、処分費用の確保がなされていないという。

今回の対象廃棄物は原子力発電を行うことによって発生するものであり、原子力発電による電気の受益者である現在電気を使用している世代の人々が負担すべきものと考える。

従って、処分費用については、合理的積算を早急に行い、処分費用の確保を図るべきであり、そのために制度を定める等の手立てを講じるべきと考える。

番号	No. 81	氏名	飯尾　日出夫	年齢	67才
概要					
なし					
意見					
<p>○原子力政策の国民的合意形成へ向けての努力が今日の最大の課題である。国民の大半の意識は、これからエネルギー源一つ考えても、その必要性は認めている。しかし、一方では核アレルギー、放射能アレルギーとなっていて原子力利用については根強い不信・不安感をもっていることも事実である。</p> <p>○今日、発電において、医療や学術研究においても放射能の利用は盛んに行われている。したがって、事業を進め活動が活発化してくると低レベルの放射性廃棄物も多量に出てくることは自明の理である。</p> <p>事故が発生しなくとも、生産活動の結果として人間、環境に害毒を流す放射性廃棄物が大きな問題を生じさせてくる。国民は、この点についての理解が足りないし、企業としても、行政当局としても国民への啓発活動が不足しているといつても過言ではない。愛媛県下にも四国電力・伊方原子力発電所や大病院・医院など放射性廃棄物の生じている事業所が多い。</p> <p>低レベル放射性廃棄物は全国的に排出されその量は増大の一途をたどっている。小生は次の諸点について提案する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 病院・医院・歯科医院などの放射性物質の廃棄の現状を県民に情報公開すること。○収集 ○運搬 ○処理の場所・方法など。</li> <li>2. 原子力発電所から発生する放射性廃棄物の処理の現状について公開すること。 <ul style="list-style-type: none"> <li>(1)気体物質について</li> <li>(2)液体物質について その方法・処理の場所</li> <li>(3)固体物質について</li> <li>(4)地中に埋没する場合は、その場所、地下何米の場所か など、県民が納得できる情報の公開が必須の条件である。</li> </ul> <p>むずかしいから、企業秘密の関点などから公表していないことが、不信感をつのらせている。信頼感を高め安心感のない所に原子力利用の未来はない。</p> </li> </ol>					

番号	No. 82	氏名	高橋　淳	年齢	32才
概要					
なし					
意見					
<p>低レベル放射性廃棄物処分についてのレポートを読みました。かって海洋投棄や大気圏外処分などが言われていたことからすると、現実的で、現段階でもっとも安全と思われる提案だと思います。</p> <p>地下処分による場合、地下水への漏れがもっとも心配されるわけですが、巡視及び点検が行われ、湧水の採取・測定も行うとされています。これは、必ず行うようにして下さい。昨年、倉庫内ドラム缶からの漏れを報告しなかった事件がありましたが、このようなことがないように、点検や測定状況を定期的に国民に公開する制度にすることを提案します。そうすれば、もし漏れてしまった場合、隠し通せるのではないかと原発関係者が考えてしまう余地は無くなるでしょうから。</p> <p>ところで、低レベル放射性廃棄物の最終処分地が決まっていない原因として「高レベル放射性廃棄物も持ち込まれてしまうのではないか」という疑念が払拭できることあると思われます。「高レベル放射性廃棄物はこのように処分するので安心して下さい」という方針を早く明らかにすることが大事だと思います。また、ゴミ処理場と同じように、ゴミを減らす努力もしていることを国が示していく必要があると思います（原発推進の是非も含めて）。「原発ゴミはこれ以上増やさない、必要悪としてこれだけは認めて下さい」ということで国民合意・住民合意ができれば、処分問題は解決していくのではないかと思います。</p> <p>尚、今回のレポートは、再生紙とは思えず、全てが片面印刷あります。原子力関係者こそが省エネ・省資源を率先して進める姿勢が国民合意への道と思います。</p>					

番号	No. 83	氏名	井上 義博	年齢	59 才
----	--------	----	-------	----	------

概要

なし

意見

1. 廃棄物処分の管理期間の長さが、300～400年となっているが、この間に固型化体が風化、腐蝕して内容物の放射性廃棄物が漏出する事はないですか。

空気や水が存在する所では必ず酸化反応が起こると思います。

上記状況の観察、チェック体制として、地下水の放射線レベルのチェックが考えられているが、漏出が認められた場合の処置対策は、どのような手段を考えていますか。

1. 管理期間経過後、萬一人間が廃棄物に接触した場合でも安全上問題となるような被ばくが起きないようにする。とありますが物理的にそのような事が可能ですか。又その方策は、どの様な方策ですか。

1. アクセス坑道を含む処分施設全体を埋め戻した後の管理で、必要に応じて放射性核種の移行抑制などの適切な措置を講じる。とありますが、必要に応じてとは具体的にどのような場面、状況を想定されていますか。又どのような方法で措置するのですか。

1. 処分に関する記録を適切に保存する事は当然の事だと思いますが、記録内容は改ざんされる事なく、広く国民に公開し、300年～400年間にわたって確実に次世代に引きつがれなければならぬと考えます。

1. 処分事業の責任分担の在り方で、元請業者にその技術力があっても実際に処分作業に従事する末端作業者に対する教育体制はどうなっていますか。全て元請まかせではいけないと思います

1. 処分施設のイラストに寸法を入れる事は出来ないですか。

番号	No. 84	氏名	伊藤 照子	年齢	37 才
----	--------	----	-------	----	------

概要

なし

意見

まず、資料を見て非常に専門的で私の様な素人には到底理解に苦しむーというより「高レベルな内容で低レベルの私はついていけない」というのが感想です。(まるで廃棄物＝高レベルの事をさしているみたいじゃありませんか)

やはりこれだけのぶ厚い資料を必要とする程原子力は危険なものだと思わざるを得ません。昨年3月に浜岡に見学に行っての感想と同じです。P 6～の地下のコンクリート構造物利用ですが、以前どっかの教授が宇宙ヘロケットで打ち上げれば良いなどといっていた事に比べれば、人類が始ま始めたのですから責任上「地下」しかないなと思います。数百年間にも及ぶその管理については、地球の変化、天体上の変化、事故などあらゆる負荷がかかるのを想定してはいるものの予想の域を超える場合も無くなりません。P 11～地下 50～100m 下ですがこれも地震国ニッポン人としてはもっと奥へーとも思いますが、奥に行きすぎても管理がむずかしいのでしょうか。地下ですが場所は山国なのでしょうか。原子炉は水辺ですからこんどは山国にもリスクをしよう必要があるのでしょうか。しかし正直なところ爆発を起こした時点で我々一般人はその命を諦めざるをえません。なぜならVIPが乗って逃げるだけの飛行機しかなからです。風向きにもよりますが爆発でも起これば灰は日本全国に舞いおちるまで1日程しかないと思います。(長いところで)、廃棄物もさることながら操業中のウランの事故で覚悟を決めなくてはなりません。話が横道にそれましたが自分としては原子力に代わる燃料を目指して欲しいという気持ちに変わりはありません。資1～処分のイメージや資4の施設の例は図で説明してありわかりやすかった。資5～の特徴は半減期、種類も簡単に説明してあり、わかりやすいと思います。

番号	No. 85	氏名	坂本 義昭	年齢	35 才
----	--------	----	-------	----	------

概要
処分に関する記録の効果的な保存等の重要性の記述を安全確保の考え方の中で記述すべき。

意見
<p>報告書案では、本文 p. 18 の「おわりに」において、「廃棄物の処分が開始された後についても、処分に関する記録が保存されることはもちろん、記録や処分の実施状況が、適切な方法を用いかつ国民に分かりやすい形で公開されることは、処分事業についての社会的な安心と信頼を得る上からも重要であり、今後、処分に関する記録の効果的な保存と処分の実施状況を含む情報の公開・提供の在り方について検討を行うことが必要である。」とされている。一般的な情報公開の必要性は、ここで記述されているように当然重要である。しかし、今回提示された処分概念では、処分の安全確保は適切な深度と処分施設によりなされてはいるものの、将来的に安全確保をより十分なものとするには、上記に引用した箇所に記述された内容が具体的に実行されることが重要であると考えられる。したがって、報告書案では、本文 p. 18 の「おわりに」において、一般的な情報公開と併せて「処分に関する記録の効果的な保存等の重要性」が記述されているが、第1章で示された安全確保の考え方と密接に関係する内容であるので、第1章に「処分に関する記録の効果的な保存等の重要性」を記述すべきである。</p>

番号	No. 86	氏名	坂本 義昭	年齢	35 才
----	--------	----	-------	----	------

概要
現状の当該廃棄物の保管量が明記されていないので、明記すべきである。

意見
<p>報告書案では、2030年時点までの累積発生量が約2万tとなっており、そのうち、運転に伴い発生する廃棄物量が1万5千tとされており、原子炉の運転により発生する当該廃棄物もかなりの割合を占めている。</p> <p>現在の原子力発電所での低レベル放射性廃棄物の保管量は、約50万本（200リットルドラム缶換算）とされているが、当該廃棄物はこのうちどの程度を占めているのか、本報告書案では明確ではない。現状で既に原子力発電所に保管されていることを明確に記述した上で議論が必要と思われる。</p> <p>報告書案でも、p. 18 の「おわりに」において、「原子炉施設の運転や解体に伴い、全体としてどのような廃棄物が発生し、それぞれどのように処分されるか、という点についても、併せて情報提供を行うことも重要であると考えられる。」とされている。</p> <p>したがって、この主旨に則り、第1章2. 対象廃棄物の特徴において、現状の当該廃棄物の保管量、保管状況についても明記すべきである。</p>

番号	No. 87	氏名	神徳 敏	年齢	27 才
----	--------	----	------	----	------

**概要**  
「3. 放射線廃棄物処分の基本的考え方（1）管理期間中①」において、説明が抽象的でどうにでも取れるのでもう少し、詳しく具体的に書くべきではないか？

**意見**

例えば、廃棄物の埋設が完了するまでは、「適切な放射線遮蔽」を設けるとあるが、どういった手段・手法を用いるつもりなのか、また廃棄物の埋設が完了すると「適切な放射線遮蔽」が、取り扱われてしまふような印象を受けますがどうなのでしょうか。

番号	No. 88	氏名	神徳 敏	年齢	27 才
----	--------	----	------	----	------

**概要**  
「3. 放射線廃棄物処分の基本的考え方（1）管理期間中②」において、説明が抽象的でどうにでも取れるのでもう少し、詳しく具体的に書くべきではないか？

**意見**

「濃度が十分減少するまで」とは、 $10 \mu\text{Sv}/\text{y}$ のことなのか、それとももっと他の理由に基づく算定結果があるべきではないかと思う。ただ単に十分といっても一人一人、考え方や感覚が違うと思うのだが。こういった曖昧さは、人を不安にさせる要因の一つになっているのではないか。

番号	No.89	氏名	神徳 敬	年齢	27 才
----	-------	----	------	----	------

### 概要

「6. 1 管理期間経過後の人間の活動に対する安全確保」において、一般的であると考えられる地下利用に対して、十分な余裕を持った深度の説明は長期間の安全性を考慮したことに対しては不安が残るのではないか？

### 意見

一般的である地下利用とは、現在のことであり、今から数百年先人間の生活スタイルが変わっていないことを前提に話を進めることには疑問が残った。地下数十メートルの利用は、近い未来に都市部で実現される事柄であり、これから300年後にこれらの地下を利用しないという保証はない。利用したくないと思えるほどの深さに保存する。または、決して人が開発の手を伸ばさない条件をもうちょっと具体的に示すべきであると思った。

番号	No.90	氏名	山崎 晶登	年齢	25 才
----	-------	----	-------	----	------

### 概要

いつから処分を開始すると想定しているのか？

### 意見

高レベル放射性廃棄物やTRU廃棄物の地層処分については、西暦2030年半ばから2040年半ばを目途に操業を始めるという計画が明確にされ、それに向けて各機関で研究開発が進められている。一方高βγ処分については、(少なくとも本専門部会報告書では)いつごろ処分を開始するのかが全く見えない。これでは国民に対して緊急性の程度を理解してもらうことはできないと考える。

番号	No. 91	氏名	山崎 晶登	年齢	25 才
----	--------	----	-------	----	------

### 概要

「将来世代に負担を残さない」の「将来世代」とは何年後の世代を対象としているのか漠然としすぎている。

### 意見

文面によれば管理期間経過後の世代を将来世代と考えているようだが、管理期間を六ヶ所低レベル埋設の300年を基準として考えると、300年以内（例えば200年後の子孫）は将来世代ではないということか？人の一生は数十年である。個人的な意見としては管理期間を300年も設けるということは、十分に将来世代に負担を残していると考えてしまうのだが。管理機関が300年も存続する保証は？300年後に管理機関に就職したいと思う人はいるのか？300年後に国家は存在するのか？

番号	No. 92	氏名	山中 裕美子	年齢	29 才
----	--------	----	--------	----	------

### 概要

「6. 2 管理期間経過後の放射性核種の地下水移行に対する安全確保」ではC-14の地下水流入を懸念しているが、その対策の表現の仕方を検討する必要がある。

### 意見

「6. 2 管理期間経過後の放射性核種の地下水移行に対する安全確保」では、C-14の地下水流入によって目安線量を超える被曝が生じる可能性について述べており、この対策として天然土壌及び難透水性材料による移行の抑制が挙げられている。天然土壌としては、「地中を移行する距離を確保する」と記述されているが、これに対する対策（例えば、より深い深度への処分）が記載されていないので追記してはどうか。また、管理期間中に地下処分施設まで達するような観測井戸によって地下水を監視することになっているが、井戸の存在が管理期間後の地下水流动、核種移行に対して問題視される可能性もあるので、表現に気を配るべきである。さらに、「土壤」という言葉は、一般的には土というイメージであるため低透水性であるという感じがしないし、専門的な意味でも不適当であるため、再考が必要と考えられる。

番号	No. 93	氏名	川上 進	年齢	35 才
----	--------	----	------	----	------

**概要**  
「4. 処分施設概念」の項で、海外における処分施設を例として引用していますが、他の項に関連するものについても海外の事例を引用しては?

**意見**

海外においては、放射性廃棄物の処分に関して日本より進んでいると言える。ここでは、処分施設における事例として取り上げているのみであるが、処分方法の考え方、管理方法の考え方、責任分担や諸制度の整備等についても参考となるものについては事例として引用してはどうか。

番号	No. 94	氏名	荒井 和浩	年齢	33 才
----	--------	----	-------	----	------

**概要**  
6. 1. 1. における処分深度の考え方は、現状の利用状況を参考にしており、国が行っている大深度地下利用計画との整合がとれないのではないか?

**意見**

6. 1. 1. における処分深度の考え方は、現状の利用状況を参考にしており、300 年後の技術進歩及び利用状況を推定したものとなっていない。まして、国が行っている大深度地下利用計画が実現された場合、現在、想定している 50~100m の深度では整合がとれないなどの矛盾があり、処分深度については、さらに検討を進めるべきと考えます。

番号	No. 95	氏名	柄木 義克	年齢	26 才
----	--------	----	-------	----	------

概要  
処分候補地選定に対する考え方を記述すべきではないか

意見  
処分候補地の選定に関する考え方の記述が見られないために、文章中で述べられている処分地の管理期間中および管理期間後における考え方はどのような地域に対して適用するのが適当であるのかが、明確ではないという感がある。  
文章中で挙げられている中心的な対策である、  
①深度を十分に確保すること  
②天然・人工バリアによる核種移行の抑制を図ること  
により、あらゆる地域において充分保守的な評価が可能となるならば問題はないが、実際にはそうではないと考えられる。処分候補地選定にあたってどのような評価および検討を実施するべきであるか、簡単に記述する必要があるのではないか。

番号	No. 96	氏名	柄木 義克	年齢	26 才
----	--------	----	-------	----	------

概要  
処分概念に関連した法令の整備について、現在までの検討状況と今後の必要要件を明示すべきではないか。

意見  
第2章の3.において、処分概念に関連した法令の整備について触れているが、現在までの検討状況および今後必要となる要件について理解しやすい形で提示する必要があると考えられる。  
また、比較検討の対象として、高レベル廃棄物、現行の低レベル廃棄物等における現状を選定することで、必要要件の位置付けが明確になると考えられる。

番号	No. 97	氏名	福井 寿樹	年齢	29 才
----	--------	----	-------	----	------

**概要**  
「はじめに」において、政令濃度上限値を上回る廃棄物発生及び保管の現状と処分方策を検討する必要性についてもう少し触れるべきではないか？

**意見**  
「はじめに」において、政令濃度上限値を上回る廃棄物として、原子炉施設の運転に伴い発生する使用済み制御棒や、今後原子炉解体に伴い発生する廃棄物の一部が挙げられるとの内容が記載されているが、政令濃度上限値を上回る廃棄物の処分方策を今、検討する必要性が明記されていないと考える。

現在、政令濃度上限値を上回る廃棄物が各サイトもしくは各機関にて保管されており、今後保管量が増大していくことが必至であることから、処分方策を検討する必要があることを明記すべきではないか？

番号	No. 98	氏名	福井 寿樹	年齢	35 才
----	--------	----	-------	----	------

**概要**  
「はじめに」における極低レベル放射性廃棄物の低レベル廃棄物に対する位置付けを記載すべきではないか？

**意見**  
「はじめに」において、極低レベル放射性廃棄物という記述があるが、参考資料－5を見れば各廃棄物の位置付け（区分）が明確であるが「はじめに」では不明確である。注釈を追記するもしくは参考資料－5参照とすべきではないか？

番号	No.99	氏名	福井 寿樹	年齢	35 才
----	-------	----	-------	----	------

### 概要

「はじめに」において、政令濃度上限値を上回る廃棄物として、すでにJ P D R解体に伴い発生した炉内構造物等の廃棄物があること記載すべきではないか？

### 意見

「はじめに」において、政令濃度上限値を上回る廃棄物として、今後実施される原子炉施設の解体に伴い炉内構造物などの一部から廃棄物が発生するとの内容があるが、すでにJ P D R解体に伴い発生した廃棄物の一部に政令濃度上限値を上回るものがあり、これら廃棄物が保管されていることを追記すべきではないか？

番号	No. 100	氏名	朝野 英一	年齢	41 才
----	---------	----	-------	----	------

### 概要

「3. 対象廃棄物処分の基本的考え方」において、処分深度の妥当性について具体的に触れるべきではないか？

### 意見

「3. 対象廃棄物処分の基本的考え方」において、現行の低レベル放射性廃棄物の処分方法を例として評価し、その結果から管理の手法として「地下数十m程度の深度へ設置」することにより、安全性が確保されるとしている。「地下数十m程度の深度」については、その後「6. 管理期間経過後の安全確保」で、「一般的地下利用に十分な裕度を持った深さ」として「50m～100m」と設定している。しかし、処分深度はそもそも処分する廃棄物の性状から妥当な、換言すれば必要な距離（深度）がまず示されるべきで、地下利用を第一の観点としてその深さを設定すべきものではないと考える。当然その深度は、他の放射性廃棄物の処分深度との関係でも妥当性を持って示されるべきであると考える。

番号	No.101	氏名	朝野 英一	年齢	41 才
----	--------	----	-------	----	------

概要
「事業者」の用語が、「第1章5.(2)⑤」で出てくるが、事業者の説明を適切な場所で前もってしておくべきではないか。

意見
「事業者」については、第2章.1で「専門の事業者（以下「処分事業主体」という。）として説明がある。しかし、既に「第1章5.(2)⑤」で「処分に関する記録の保存」で「事業者」という言葉が出てくる。この箇所以前に事業者を説明したものがないと思う。事業者がどういうもので、どの部分の責任をとるのか、適切な場所に記載すべきではないか。

番号	No.102	氏名	朝野 英一	年齢	41 才
----	--------	----	-------	----	------

概要
「6.2 管理期間経過後の放射性核種の地下水移行に対する安全確保」における、処分場の安全確保の考え方。

意見
「6.2」では①天然土壌による移行抑制、②難透水性材料による移行抑制、が言われている。設定する処分場の深度「50m～100m」は「6.1 管理期間経過後の人間活動に対する安全確保」のところで設定されている。しかし元々地下数十m程度の深度に廃棄物を設置とした根拠は、管理期間経過後に想定される被ばく線量の評価に基づいて設定されたものではないのか（第1章3.）。処分深度は単に人間活動に対する予防的な意味合いしかないのか、核種の移行に対しても意味のあるものなのか、示して欲しい。

番号	No. 103	氏名	高沢 真由美	年齢	27 才
----	---------	----	--------	----	------

概要
「低レベル放射性廃棄物」と「制令濃度上限値を超える低レベル放射性廃棄物」の違いは何でしょうか？

意見
低レベル放射性廃棄物と、それ以外の放射性廃棄物の違いは、何ですか？放射能濃度ですか？制令濃度上限値を超えても、低レベル放射性廃棄物と呼ぶのは、低レベル放射性廃棄物の範囲がきまっているからなのでしょうか？ 同じ低レベルであっても、上限値を超える、ということが良く分かりません。制令濃度上限値は、放射性廃棄物の放射能レベルとは関係ない、ということになると思うのですが、そうであれば、「中レベル」であるとか、別の名称にしたほうが混乱を招くようなことがなくなると思います。

番号	No. 104	氏名	田島 孝敏	年齢	35 才
----	---------	----	-------	----	------

概要
処分場及び処分システムの選定に対する意見：人工バリアの性能向上を図ることによって浅地中の処分施設も選択肢の一つとして検討する余地があると考えられる。

意見
今回提案された処分概念は、深度50～100mの地下にトンネル型またはサイロ型の鉄筋コンクリート製処分施設を想定している。この程度の深度の地質は洪積層（第三紀層）の可能性があり、力学的性能（強度）が高く、また難透水性を有する等天然バリアとしての性能が高い地盤であると予想され、①放射性核種の移行の抑制、②処分場跡地の利用を考慮する上で適していると考えられる。一方、我が国の地質は断層が多く、特に地震時の安全性確保の観点から、長期間安定した良質地盤を選定する上で障害にならないか懸念される。
そこで、現行の低レベル廃棄物処分施設と同程度の浅地中処分が実現できれば、サイトの選定範囲を拡張でき、場合によっては建設コストの低減を図ることも可能であると考えられる。具体的には鉄筋コンクリート構造体の周囲をペントナイト等の低透水性材料で覆い処分施設本体の透水性を高めることによって、処分施設外への核種の移行を抑制する方法が挙げられる。この場合、処分場跡地利用を図るのは困難であるが、提案された処分施設に比べてサイト選定の自由度が高くなり、建設工事や操業自体も簡素化されるなどの利点があるため、本処分概念も選択肢の一つとして検討する余地があるものと考えられる。
[感想] 2030年～40年頃の操業が予定されている高レベル放射性廃棄物、あるいはTRU廃棄物処分については、地下数百mの地層処分が検討されている。今回報告の処分概念は、地表から坑道を掘削し地下深部に処分空洞を構築する点で上記の廃棄物処分と類似しているため、この処分技術を発展させてより高レベルの廃棄物処分に応用していく意味でも今後の検討が期待される。

番号	No.105	氏名	福井 寿樹	年齢	35 才
----	--------	----	-------	----	------

**概要**  
「3. 対象廃棄物処分の基本的考え方」において、処分方策の基本的考え方が記載されているが、廃棄体に対する考え方も追記すべきではないか？

**意見**  
「2. 対象廃棄物の特徴」において、注釈3)において放射性廃棄物の固形化等の説明が若干記載されているが、「3. 対象廃棄物処分の基本的考え方」において、処分方策の基本的考え方を述べる上で、処分場に関する検討（施設概念、被ばく評価、管理等）のみではなく、廃棄体の固形化、処分容器等に関する記載も必要ではないか？

番号	No. 106	氏名	石田 久洋	年齢	32 才
----	---------	----	-------	----	------

**概要**  
なし

**意見**  
「現行の政令濃度上限値を超える低レベル放射性廃棄物処分の基本的考え方について」を拝見させていただきました。今までよりも放射能の高い廃棄物に対して合理的な処分概念を具体化された関係者の努力に敬意を払うと同時に、「トイレなきマンション」の改善に向けて更なる一步を踏み出すことができたことを喜ばしく思います。ただ、3つほど気になる点がございましたので指摘させてください。

まず1つめは、対象となる廃棄物の具体的な放射能濃度です。参考資料5に概念的な図が示されてはいますが、具体的な放射能濃度は一切記載されていません。これでは、「とっても危ないもの」という印象しか持ち得ません。また、参考資料5では今回の対象とされた廃棄物の $\beta$ 放射能濃度として約  $10E15Bq/t$  という上限値が明示されているようにとれます。この濃度を超える廃棄物については、今回の対象廃棄物とも、高レベル放射性廃棄物廃棄物とも違う、更に新たな処分概念で処分するという理解でよろしいのでしょうか。

また、上記の点とも重なりますが、そもそも対象廃棄物の放射能濃度について、原子力委員会としては確認されているのでしょうか？参考資料6には“電気事業者などによる試算値”となっておりますが、事業者の評価値を国として独自に確認せずにそのまま使用するという態度には、一連の動力炉・核燃料開発事業団の事故等における反省を生かしているようには感じられません。

最後になりましたが、発熱に対する特別な対策は本当に必要ないのでしょうか？定量的な評価が記載されていませんが、懸念される問題と考えます。

番号	No.107	氏名	佐伯 恒	年齢	26 才
----	--------	----	------	----	------

概要
「処分に関する記録の保存」の考え方を確実に行うことが重要である。

意見
地下へ構造物を建設するゼネコン立場から見ると、既存の埋設物の位置・深さ等の記録を把握し計画する事が前提である。国（国の指定機関を含む）において埋設施設の記録を適切に保存することにより、今後埋設施設位置に地下構造物の計画が持ち上がったとしても、記録を確認し、建設には至らないと考える。今回の「処分に関する記録の保存」の考え方を確実に行うことが重要である。今後の管理が確実に行われる事に期待したい。

番号	No. 108	氏名	川上 進	年齢	35 才
----	---------	----	------	----	------

概要
3. において試算した300年後の被爆線量として $10 \mu\text{Sv}/\text{y}$ を超過するところがあるが、それでは何年経過すれば $10 \mu\text{Sv}/\text{y}$ 以下となるかが不明確である。

意見
一般公衆の被爆線量として $10 \mu\text{Sv}/\text{y}$ を超えないようにすることを基本として考え方を構築しているが、低レを参考とし300年後の試算の結果においては $10 \mu\text{Sv}/\text{y}$ を超過するとある。それでは、 $10 \mu\text{Sv}/\text{y}$ を超えないためには管理の期間として、何百年なのかが明確とされていない。PAとしてもまず具体的な数値を示し、管理期間の考え方、処分方法、処分施設の概念等の議論を進めていく必要があると思われる。

番号	No. 109	氏名	大場 祥右	年齢	60 才
----	---------	----	-------	----	------

**概要**  
「現行制令濃度上限値を越える放射性廃棄物の処分について」の基本的考え方について、依存のないところである。原子力発電の必要性と安全性について情報公開し国民への理解を促進して欲しい。

**意見**

1. 『現行制令濃度上限値を越える放射性廃棄物の処分について』の基本的考え方、には全く依存のないところである。

2. また放射性廃棄物の処分に当っては、廃棄物の特徴を十分考慮した処分対策や安全確保の施策、タイムスケジュール、ならびに管理期間経過後の安全確保など十分盛り込まれていると思う。

3. 今後原子力発電の使用比率が上り、運転中に発生する放射性廃棄物が増大し、同時に設備の解体に伴う放射性廃棄物は増大の一途を辿ることになる。その結果、地下には埋設された放射性廃棄物の山なることが危惧される。そのため今から、原子力発電で発生する放射性廃棄物を大幅に（例えば 1/10）に減らす様な画期的な技術開発を推進して欲しい。この先端技術をもって世界に貢献出来るよう期待する。

4. 日本のエネルギー消費は、年々増加の傾向にある。電源別発電電力量の約 30%を占める原子力発電の重要性はますます増大していく。このような状況にあることを国民に正しく認識させる環境づくりが急務である。

例えば(1)学校教育の場の利用(2)新聞やテレビによる情報の公開。(3)政府の積極的な公共広告の利用(4)電力会社からの電源種別の供給比率の公開（例えば、電気ご使用料のお知らせの利用）などが考えられる。

番号	No. 110	氏名	今村 修	年齢	56 才
----	---------	----	------	----	------

**概要**  
P 1 の「はじめに」で、現行の政令濃度上限値を超える低レベル放射性廃棄物と述べているが、超えるのになぜ低レベル廃棄物か。区分の仕方に問題があり、変えるべきである

**意見**

核廃棄物を高レベル、低レベルで区分し、低レベルはあたかも問題がないような表現で国民に疑問や不安を与えないかのような取扱いすることは、安全対策を不十分にする恐れがある。

とくに、現行の政令濃度上限値を超えるながら、低レベル放射性廃棄物と表現することそのものに問題があり、対策が不十分になる恐れがあると思う。

上限値を超えたものを低レベルと呼ぶやり方を変えるべきである。

番号	No.111	氏名	今村 修	年齢	56 才
----	--------	----	------	----	------

概要
----

P 2 の 1 , 「………基本的考え方」では、放射性核種の濃度が問題となり、その規制が必要とされているが、放射能量の総量を規制すべきである。

意見
----

核廃棄物の最終処分地の受入れは、どの地域であってもますます困難な状況となっています。こうした現状を見るとき、同じ場所（敷地）に、低レベルや高βγ廃棄物、高レベル廃棄物が集中処分される可能性もあると考えられる。

ところが、「………基本的考え方」では、そうした場合の、複合的・相乗的な影響に対する検討が全くなされていない。

そこで、施設の集中立地による、住民への複合的・相乗的な影響を考慮し、放射能量による規制を行うべきである。

番号	No. 112	氏名	今村 修	年齢	56 才
----	---------	----	------	----	------

概要
----

P 3 の 3 , 「対象廃棄物処分の基本的考え方」では、井戸水の直接利用やさまざまな影響を無視し、施設の立地による地下水脈や地盤などの環境の変化も考慮されていない。

意見
----

核廃棄物の最終処分地受入れにより、生活に必要としている井戸水の利用にどんな影響を与えるのか。また、井戸水の利用にどの様な影響を与えるのか全く無視されている。

六ヶ所村の低レベル核廃棄物埋設センターでは、当初、地下水位内に建設が予定され、大問題となり、変更された経過があるが、地下水脈や地盤など六ヶ所村で問題になったことが全く考慮されておらず、余りにも楽観的すぎる内容になっている。

とくに、施設の立地により、地下水脈にどんな影響を与えるのか、地盤の状況はどのような条件が必要なのかなど全く明らかにされていない。

番号	No.113	氏名	今村 修	年齢	56 才
----	--------	----	------	----	------

概要
----

P18の「おわりに」で、情報の的確な提供、透明性の確保などが、国民の理解で不可欠と述べながら、事前の説明会や経過の報告もなく、わずか30日間で意見は無理である。

意見
----

「処分事業全体についての透明性が確保されることが、国民の理解を得て処分を実施するうえで不可欠であると考える」と述べながら、①基本的考え方を取りまとめた説明会や、②13回にわたる分科会での議論経過の公開もなく、わずか30日間で意見の募集を行うのは余りにも乱暴で、形式的に意見募集の期間を設定したかのようである。

また、意見募集を行うとの周知の仕方も不十分で、最終分科会が5月14日に行われ、5月28日に「基本的考え方について(案)」が発表され、意見募集期間が6月12日から7月11日までとなっている。なぜ、こんなに急ぐのかその理由を知りたい。

とくに、わずか30日間という意見募集は改めるべきである。

核廃棄物問題は、多くの国民が関心を持っている問題でもあり、分科会でどの様な議論が行われてきたのか、また、なぜ今回のような「基本的考え方」となったのかなど、十分な経過の報告と説明会がなされることが必要である。

番号	No.114	氏名	尾鍋 秀明	年齢	46 才
----	--------	----	-------	----	------

概要
----

政令濃度上限を超える低レベル放射性廃棄物を政令濃度以下の物と区別して処分する事には賛成ですが、安全性を実感できる様な施策を期待します。

意見
----

政令濃度上限を超える低レベル放射性廃棄物を政令濃度以下の物と区別して、深く埋設し、長期間の管理期間を取る措置は賛成です。

しかしながら、過日の動燃での地下保管の廃棄物容器（ドラム缶）が腐食して、内容物が流れ出そうな映像の印象が強く、安全面への不安が残ります。

方法は難かしいとは思いますが、埋設した廃棄物の放射能が、理論通りに減衰している事と、正常な保存状態にある事を実感できるようなデータを定期的に公開できないものでしょうか。

放射能については、埋設した物の一部をサンプルとして地上に保管し、定期的に測定したデータをもとに、減衰の様子を示していただくと、半減期が云々と言う理論的な説明だけよりも理解しやすいと思います。

番号	No.115	氏名	西沢 清和	年齢	36 才
----	--------	----	-------	----	------

**概要**  
廃棄物処分に関して、地球レベルでの対応検討協議が、なされないのか。

**意見**

現在、いわゆるゴミ問題に対しては国が考えるべきことなのに、地方自治体単位で取込んでおり、原子力廃棄物については、地球レベルで考えるべきなのに、国レベルで考えていないかと感じた。その方策も、政令濃度さえ下回われば良いという考えに基づくもの。一体 300 年間も管理すること自体が予想もつかないことである。10 世代に渡った管理など到底不可能なことの様な気がする。その長期に渡る管理についてもう少し言及すべきではないかと思う。

- また、1. 諸外国の対応方法はどうなっているのか。
  - 2. 日本国内で現在管理に適した環境（地層）が現実的にあるのかどうか。
  - 3. 1ヶ所限定管理が良いのか、分散管理が良いのか。
- という点に関して、もっとつっ込んだ検討結果がほしかった。

番号	No. 116	氏名	田中 博繁	年齢	46 才
----	---------	----	-------	----	------

**概要**  
原子炉施設の廃棄物は、施設内でリサイクル化する。

**意見**

私たち先祖の時代は、自然と共に生活し収穫した物を食べ、そこから出たゴミなどは穴を掘り埋めていました。土に埋める事により再度自然に戻る循環サイクルが作られていたのだと思います。

そこで、原子炉施設の廃棄物の問題もそれと同じとわ言わないが、発電所で発生した廃棄物は施設の中でリサイクルし、一切外部に出さない（物も放射線も）様に考えれないだろうか。

資料からも 2030 年時点では、廃棄物が 2 万トンと推定されていますが、これを長期間安全になるまで推持・管理する技術の向上がもっとも望まれていると思います。

そこで、第 1 に廃棄物の量を出来るだけ少なくする。第 2 にリサイクルを進め施設の中だけでやりくりし外部には出さない。第 3 に埋める場合の注意として 50 ~ 100 m の深さにし保管するコンクリートピットもバクテリア、水など外部的要因や地震などにより内部から絶対漏れない構造とし第 4 に地上での漏れに対する安全装置の設置など完全なものにし地域社会にもリアルタイムに異常時通報システムを構築整備しておくことが重要だと考えました。

番号	No.117	氏名	北岡 逸人	年齢	30 才
----	--------	----	-------	----	------

概要
----

地震などの地殻変動への考慮について
-------------------

意見
----

原案では地下への処分を考えられていますが、長期間にわたる事業ですのでその間の地殻変動が心配です。案を読んだ限りではその心配に答える記述が不足していました。熔岩や熱水の暴露までの想定は不要なのでしょうが、地震などで処分施設が破壊されるケースは日本列島では想定が必要です。もし6. 2 の①②にある天然の土壤などによる移行の抑制や難透水性材料などによる移行の抑制、などでカバーされうる問題と考えられているとしても、敢えて別に地質や地震の特性や対応を踏まえた記述が欲しいです。そうでないと考慮しているとしても不親切だしはぐらかされているように感じます。
---

そういう意味ではモニター期間内であれ後であれ、大幅な施設の破壊が万が一生じた場合どうするかも気になります。考慮が不要と考えたのでしょうか？対応を考えているならそれも記述が必要です。多分以上の問題意識は実際に身近に処分場が出来るなら住民が気になるようなものと思います。もっと十分な説明が要ります。
---

番号	No. 118	氏名	有川 愛子	年齢	44 才
----	---------	----	-------	----	------

概要
----

低レベル放射性廃棄物が地中深く、数百年間も埋設されても、いつ天変地異が起こるとも限らない。そんな時の為のガイドラインも準備すべきでないか？
---

意見
----

地中深く、低レベル放射性廃棄物が埋設されるらしいが、埋設期間が300 年から数百年間かかるという事に驚いた。現在使用中の為に出た廃棄物が、子々孫々にまで迷惑をかける様な気がする。生活に電気は絶対必要だが、放射性廃棄物が必ず出て、その処理が終了するのが、数百年後となる期間中、日本のみならず、世界的にも多くの廃棄物が、地中に埋められるのかと思うと、地球破壊の様な気がする。
---

処理方法も 絶対 人々の生活にも、環境にも悪影響を及ぼさない様に考えられているが、数百年という期間と、あまりにも長い時間が、不安を残してしまう。絶対大丈夫と言い切れない様な気がする。もしも、ひどい天変地異が起ったとしたらどうだろうか。そんな時の為にも、埋設から何 km の地点では、どんな事が起こりうるかとか、ある程度の予想、シミュレーション的な事も考慮して、人体に及ぼす影響とそれを防ぐ策を少し考えておく、知らせて欲しい様な気もする。
--

被ばくは誰だっしたくない。特に家族や子供の命を失いたくない主婦にとって、長い時間が気にかかる。
---

番号	No.119	氏名	千葉 逸	年齢	46 才
----	--------	----	------	----	------

概要
----

放射性廃棄物の区分を明確にして、一般国民に誤解が発生しないよう  
にすべきであるとともに、本当に埋設処分することが「将来世代に負  
担をの残さない」のかを検討すべきである。

意見
----

低レベル放射性廃棄物は、青森県の六ヶ所村で処分されているが「政  
令濃度上限値を越える低レベル放射性廃棄物」は50m～100mの  
深部に処分することを本報告書は示唆している。一般的には、低レベ  
ルの放射性廃棄物であるから地表近くに埋設し、それ以上の放射能を  
含む放射性廃棄物であるから、深い所に埋設すると理解している。従  
って、「低レベル放射性廃棄物」としない方がわかりやすい。再処理施  
設から発生するガラス固化体が「高レベル廃棄物」であるならば、政  
令濃度上限値を越える廃棄物は、たとえば「中レベル廃棄物」と区分  
した方が処分形態も異なるのであるから自然なのではないか？

また、これらの廃棄物の発生量は2030年時点で、2万m<sup>3</sup>と見積も  
られているが、たったこれだけの廃棄物量であれば、むしろ地上の施  
設に保管している方が中途半端に埋設するより「将来世代に負担を残  
さない」のではないだろうか？保管施設の大きさは、たかだか縦横1  
00mで高さ2m程度で足りるのであるから、根本的に「処分」の考  
え方を見なおすべきである。

番号	No.120	氏名	山縣 圭子	年齢	44 才
----	--------	----	-------	----	------

概要
----

原子炉施設における廃液処理について、海への放出をせず、リサイクル  
(施設内) 利用を提案します。

意見
----

原子炉施設における廃液処理について参考資料1-1(資1)をチ  
ェックしました。廃液はろ過・脱塩と蒸留水の二つの選択を経由して、放  
射性核種濃度を測定し、無害を確認してから海へ放出される事になって  
います。

無害であるならば、海へ放出などせず、施設内でリサイクル利用する  
方法をとるべきではなかろうかと思います。

基本的には、気体も液体も放出をせず、施設内でリサイクル処置をし  
てほしいと思います。

その理由は、たとえ空気、水であろうと施設から出さない。環境を考  
慮し、住民に配慮する為です。住民というのは地球の住民という意が含  
まれています。

未来に美しい環境を残す意からも、現在生存している私達の廃液を  
流してはならないと思うからです。

ご一考下さい。

番号	No.121	氏名	松村 勝秀	年齢	56 才
----	--------	----	-------	----	------

概要
段階管理終了時点で、次の段階への移行が可能であるか安全確認が行われ、段階移行の可否の判断が将来の人たちによっても行われることを、より明確に記載した方が良い。

意見
300 年以降の将来にわたって施設が安全であるかどうか、現在の最新の知見、技術に照らして評価するにしても、長期の将来にわたる事象を想定することとなるため、その評価に不確かさが付きまとることは否定出来ない。

これに対応するため、各段階へ移行するそれぞれの時点で、将来の人たちによっても安全性が確認され、将来のその時点、時点において、再度適切な評価がなされることが法制化されていることを、より明確に記載した方が良いと思われる。
--

番号	No.122	氏名	松村 勝秀	年齢	56 才
----	--------	----	-------	----	------

概要
処分の基本的考え方として「将来世代に負担を残さない」としているが、将来世代の情報伝達能力と技術的進歩に期待する考え方をもっと打ち出しても良いのではないか。

意見
報告書では、処分の基本的考え方として「将来世代に負担を残さない」との考え方を示した上で、「跡地の利用が制約されないようにする」としている。

しかし、たとえ土地利用の制約があったとしても、その範囲は狭く、将来世代に重大な負担を残すとも思われず、「将来世代に負担を残さない」とする基本的考え方は大上段的すぎるのではないか。
むしろ、将来世代の情報伝達能力と技術的進歩とに期待する考え方をもっと打ち出しても良いのではないか。少なくとも、現在の知識、技術、伝達能力が将来においても衰退せずに引き継がれるとする考え方を打ち出しても良いのではないかと思われる。

番号	No.123	氏名	高橋 聰	年齢	36 才
----	--------	----	------	----	------

概要
----

放射性廃棄物は、今後増え続けることが予想されるが、本案では、2030年までの量でしか論議していない。廃棄物の量も半減期なみに数百年で試算するべきである。

意見
----

標記放射性廃棄物処分の基本的考え方について意見を述べさせていただきます。

まず、放射性廃棄物の発生量ですが、2030年時点で約2万トンと推定されています。しかし、2030年以降の量については述べられていません。2030年以降も当然廃棄物は増え続けることが予想されます。現在でも処分場建設が困難であるため、これからもいくつもの処分場を建設するということは現実的ではないと思います。こうなると処分場では、半減期をまたずに次々と廃棄物が集積され、放射線量が半減どころか増加する事態にもなりかねません。焼畑農業的に転々と廃棄物を埋設していくのであれば、この案の述べるところで良いとは思いますが、半減期何百年という論議をするのであれば、その何百年間の廃棄物の量を把握するべきです。

また、管理期間が数百年と長いため、責任の所在およびその取り方を明確にしておく必要があると思います。組織が変化したときの責任の所在、万一漏洩事故が起きた時の具体的対策や補償をきっちり決めておく必要があります。

処分地での放射線量は、問題ないレベルに抑えられると思いますが、一番恐いのは放射性物質が地下水に溶け込み、人体に取り込まれることです。しみ込んだ雨水は必ずどこかに溜りますから、まずは放射性廃棄物が水に溶け出さないことを絶対条件にするべきです。

CO<sub>2</sub>削減問題で、原子力に対する国民の理解が高くなっていくことが予想されます。放射性廃棄物の処理の問題は、低レベルという枕言葉で印象をやわらげるのではなく、きちんとしたデータを国民に示し、透明に行っていって欲しいと思っています。

番号	No.124	氏名	高木 郁二	年齢	37 才
----	--------	----	-------	----	------

概要
----

高速増殖炉や高温ガス炉からの廃棄物にも適用されることを明記すべきだと思います。

意見
----

基本的な考え方は、いわゆる発電用軽水炉から発生する廃棄物の特徴に基づいて定められており、適切だと思います。一方、冒頭で、原子炉施設は「実用発電用原子炉、試験研究用原子炉など」と記載されていますので、高速増殖炉や高温ガス炉も対象になると思われます。炉型が異なると、廃棄物の特徴も異なるでしょうが、基本的な考え方は、これらの炉型にも適用されるものだということを明記すべきだと思います。また、もし必要があれば、軽水炉以外の炉から発生する廃棄物の量やα核種の濃度を制限するような制度も考えた方がよいと思います。

番号	No.125	氏名	高木 郁二	年齢	37 才
----	--------	----	-------	----	------

### 概要

管理期間中にも記録を公開すべきだと思います。

### 意見

本文には、地層処分とは一言も記載されていないようですが、「深度へ設置」することや、地下水の生態圈への移行を考慮していることなどから、一種の地層処分だと思います。地層処分は、国の制度よりも地層の方が安定して存在し続ける確率が高いという考え方に基づいていますので、管理期間経過後の記録の保存と公開のあり方だけを検討するのでは無く、管理期間中もある程度は記録を公開する方向で検討すべきではないでしょうか。

以上

番号	No.126	氏名	廣田 謙	年齢	47 才
----	--------	----	------	----	------

### 概要

放射性廃棄物処分の統一的な考え方に基づき、再処理施設などから発生する TRU 核種を含む放射性廃棄物についての検討も望む。

### 意見

この報告書は、原子炉施設からの廃棄物のうち、現行の政令濃度濃度上限値を超える低レベル放射性廃棄物について安全かつ合理的な処分方策の基本的な考え方方が良くまとめられていると感じます。また、同様な考え方を上記低レベル放射性廃棄物に相当する R I 廃棄物についても適用すべき提言を第 3 章でされています。他方、参考資料-5 に示されている放射性廃棄物の区分では、上記低レベル放射性廃棄物に相当する TRU 核種を含む放射性廃棄物も存在すると推測できます。これらの廃棄物の処分についてはどのような検討がなされているのでしょうか。

第 1 章の「1. 放射性廃棄物処分の基本的考え方」で、「再処理施設などから発生する TRU 核種を含む放射性廃棄物については、…………この区分目安値を踏まえた処分方法の検討が行われている。」と記載されていますので、今後、TRU 核種を含む放射性廃棄物の処分についてもその基本的な考え方方が原子力委員会で審議されることと思いますが、放射性廃棄物処分の方策の全体ができるだけ早く、わかりやすく、国民に示されることを望みます。

番号	No. 127	氏名	石黒 寛	年齢	43 才
----	---------	----	------	----	------

概要
現在そして将来にわたって、原子力の安全かつ有効利用を願う、一市民としての放射性廃棄物処分案について感じたこと、今後担当機関に望むこと。

意見
現在、稼動中及び、将来新たに建設されるであろう、原子力発電所が運転を続ける限り、それに伴なって発生する放射性廃棄物は、増えるこそすれ、減っていくことはないはずですから、本案の処分案のごとく、地下埋設等によって安全確実な管理体制を講じていただきたいものです。
これは、当然といえば当然のことですが、放射能濃度の低減に数百年の歳月を要する廃棄物の性格上、このいわば負の遺産を、数世代にわたって引き継いでいかなければならぬわけですから、なおさらのことです。
安全面では、充分過ぎる配慮がなされていると思いますが、我が国は有数の地震国です。そして、数年後ましてや数十年後の世の中の変化も予測できません。
原子力に関して、なんら知識のない私を含めて、原子力の問題に多少なりとも関心を持つ人であれば、不安を持つと思います。
担当される機関においては、必要に応じて、公開可能な情報は積極的に、わかりやすい内容で遅滞なく公開されるよう望みます。

番号	No. 128	氏名	北川 光成	年齢	60 才
----	---------	----	-------	----	------

概要
低レベル放射性廃棄物処分の施設についての補助的私案と処分費用の国民負担について

意見
低レベル放射性廃棄物処分の案に対して賛成です。特に管理期間経過時点（300 年）を念頭にした安全確保は大変良い。資源のない日本には多大の電力を原子炉にたよらざるを得ないからだ。未来の日本・日本人のためにも最大限の安全確保は大切である。
処分施設の計画案はアフリカの西部砂漠や北欧の地震の少い所であれば、安全と言えるが日本には適用できるか疑問視をする。この日本で天・災害を千年以上も乗り越えてきた古墳や寺院がある。是非とも現代科学とコンピューターではじき出された案にプラスして欲しい。敷地については山間部であろうとも 5~10 平方キロメートルの広さが欲しい。地下の処分施設は二重構造（一升枠の中に五号枠を入れた）にして、その内外壁の間は 6~10 M にし、その間に砂利や砂を入れる。これは古墳の石柳が丘陵の外濠によって 1700 年以上も保たれてきたことを考えれば是非先人の知恵を取り入れて欲しい。
又処分施設の外壁はコンクリートで作ると思うが、中の鉄筋は鉄道の線路を入れてはいかがですか。現在のビルの鉄筋では 100 年が限度ではないだろうか。コンクリートも今の水性式ではなく水量を少くして戦前の迎賓館や満州と朝鮮の間にあった水豊ダム方式が良いと思う。
地域の境には 10 M 以上の掘を作り（濠でも良い）水を張り魚や藻が生きるようにしたい。掘と処分施設の間の広い部分はナラ、ブナ等の根をよくはる林にしたい。夾竹桃なども広島の原子爆弾に強い木であることが証明しているから施設の近くに多く植えたい。
最後に最も問題になる処分施設所の費用であるが、国と県と市町村で半分負担。電力会社と石油会社で 2 割負担、との残りが国民負担としたい。消費電力 100KW につき 5~10 円負担とし、現在の電力消費税の半分を補助金として還元して欲しい。又自動車所有者に対して年間 100cc に対して 10 円割当負担は無理か。

番号	No.129	氏名	斎藤 路子	年齢	28 才
----	--------	----	-------	----	------

**概要**  
低レベル放射性廃棄物処分の基本的考え方を、もっとわかりやすい内容にしていただきたい。

**意見**

まず、はじめに送付していただいた「現行の政令濃度上限値を超える低レベル放射性廃棄物処分の基本的考え方について(案)」は、とても私たちが読んでもわかりにくく、もっと簡単な言葉で表現していただきたい。処分方策について「国民の理解が得られるよう」と報告書(案)では書いているが、こんな難しい報告書(案)でどうして理解できようか、まして平成9年3月に起きた茨城県東海村にある動力炉・核燃料開発事業団(動燃)の再処理工場での爆発事故は、時間がたつにつれて、その重大さが増してきており、改めて放射能汚染を危ぐさせられる。

最初の火災から爆発に至るまでの認識の甘さ、その後の通報の遅さ、情報をオープンにしない体质、そして爆発の後の処理のお粗末さ等々、私たちが新聞やテレビを通じて得た情報ですら、これだけの疑問を感じるのだから、現地の不安はいかばかりかと思う。

ニュース解説者が「もはや『環境に影響はない模様』はもう信じられなくなった。これからは自分の身は自分で守るしかなく、各自が放射能を測定する機械を持っていて感知したら逃げるしかない」と言っていたが、そこまでして私たちは原子力と共に存しなくてはいけないのだろうか。これを機に原子力政策の大幅見直しを望まずにはいられない。

番号	No.130	氏名	松田 聖志	年齢	28 才
----	--------	----	-------	----	------

**概要**  
対象廃棄物をもう少し具体的に記載した方がよいのではないですか。また本当に数百年間もの管理は可能なのか不安になります。

**意見**

対象廃棄物については詳細な記載があるのですが、もう少し具体的にイメージができるような記載とする方がよいと思います。例えば、図や表を用いて低レベル放射性廃棄物やガラス固化体との比較などをされると、その違いがわかりやすいと思います。恐らく(名称だけではなく内容的に)これらの区別ができる人はあまりいないのではないかと思われますので、まず、ここを明確にしておいてから、次の議論を進める事が広く国民の理解を得る上で重要と考えます。

管理期間については、三百年~四百年管理を行うとの記載がありますが、本当にそんなに長期間の管理が可能なのか、と考えてしまいます。これは技術面のみではなく、たとえば文書一つとっても、今から三百年前の江戸時代の幕府の文書などがすぐ出てくるとは考えにくいことや近年の百年前後も歴史のある企業の相次ぐ倒産などをみても不安になります。このような不安を取り除くべく、その担保方法についてもある程度具体的に触れておいた方がよいと思います。

番号	No. 131	氏名	菅野 幸恵	年齢	49 才
----	---------	----	-------	----	------

### 概要

放射性と農作物のかかわり方について思う。

### 意見

人は口から入る農作物で生かされていますが、自然と共に重く考えたい。国民は有機栽培に关心を持つ様になり、改めて健康と放射能に意義有る考え方方が強いのですが、いざ放射性廃棄物処分場となるとどの土地もOKは出しませんが私は安全だと言う事をしっかりと知らせ、現地に案内し、幾度も意見交換をされた方が良いと思う。国民に安全とアピールしないのも悪いと思うがこれまでの参考意見としての考え方お役所ばかり知るのでは無く知らせてほしい。そして現在受け入れた土地の方の意見も知りたいのです。5年10年20年先の日本をより良くする為に放射性はかかせません。

番号	No. 132	氏名	片山 幸男	年齢	53 才
----	---------	----	-------	----	------

### 概要

今、何を国民に問い合わせているのか、分かりやすい報告書にするとよいと思います。

### 意見

高レベル放射性廃棄物のガラス固化体につきましては、昨年、原子力委員会の高放射性廃棄物のレベル放射性廃棄物処分懇談会の地方意見交換会が北海道でも開催をされていて、こちらの方は、処分地は未定なもの地下深く埋める計画なのだということは比較的よく知られています。

また、発電所から発生する放射性廃棄物を詰め込んだドラム缶のような低レベル廃棄物についても実際に六ヶ所村で埋設処分が行われていることも関係者以外にも割合によく知られていると思います

今回の話は、そのどちらの話なのかといえば、結局、低レベル廃棄物のうち今まで積み残しの課題であった比較的放射能の高いものの話で、しかも施設の形はトンネル等を掘り比較的深いところに埋めようという話だと思います。つまり今までの実際に六ヶ所村で実施されている埋設処分の延長であると理解すべきなのでしょうか。文章だけを読むと、高レベル廃棄物といっしょの場所に処分されるのかというような混同も生じやすいことになります。

また、なぜ何桁も現状の低レベル廃棄物よりも放射性物質の濃度が高いものが、単に若干深度をかえて埋設することで安全が担保されるのか分かり易く説明るべきだと思います。そのためには、参考資料に使われているグラフや図も本文の導入部に活用して話の筋を分かり易くしたいと思いますし、そうしないと多くの国民に理解してもらえないとも思います。

番号	No. 133 氏名	西尾 忠恕	年齢	64 才
概要				
①. 対象廃棄物処分にあたっては、絶対安全と環境保全のための人材育成が必要。②. 廃棄物処分について、国民の理解を得るべく最大の努力が必要（特に費用の分担の際には）				
意見				
<p>①. 対象廃棄物の処分方法が決定した以上、早急に実施体制の整備や処分費用の確保に向けて準備を開始すべきである。処分にあたっては、絶対安全と環境保全のため管理・運用にあたる人材育成が必要である。</p> <p>人材の質的向上は管理・運用の現場における実行者のみではなく、その監督責任者（出向者や官庁からの天下りをした人達を含む）にも求められる。特に、安全管理の使命の自覚が何よりも大切である。</p> <p>②. 環境保全については、人間と廃棄物とが接触して被ばくが起こらないよう安全を期するのは勿論であり、更に放射性核種の地下水への移行が十分に抑制されるよう万全を期すことを望む。</p> <p>③. 廃棄物処分の費用は、施設の運転中或は、廃止した後に発生するが、これは発電に伴う費用であるのであらかじめその運転中に確保しておくべき性質のものである。若し、電気料金への上乗せが必要な場合には、利用者の十分な理解と納得が得られるよう最大の努力が必要である。</p> <p>④. 我国では将来エネルギー需要の増大と同時に、発電方式の転換（化石燃料→クリーン エネルギー）がどうしても必要となる。この中核となるのが原子力発電であるので、原子力発電所建設と同じ位に大切なことは廃棄物処分の問題である。国土の狭い日本では、それ等の立地地域を決めるのが大きな問題となる。このためには、国民の理解を得られるよう的確かつ分かりやすい情報（図や絵も入れたもの）を提供することが大切である（特に、立地地域では十分な理解と納得への努力が必要）。一方、国民にもエネルギー節約とエネルギー多様化の一層の協力を要請するPRと指導が必要である。 以上</p>				

番号	No. 134 氏名	吉田 光宏	年齢	45 才
概要				
本報告書に記載の放射性廃棄物の処分方法は、その施設、構造については問題ないと考えられるが、数百年間の管理からすると処分の深度の策定、管理者の資質が重要である。				
意見				
<p>本報告書では、廃棄物の処分方法として以下の4項目を提案している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 十分余裕を持った深度。たとえば50～100m程度の深度に処分</li> <li>(2) 放射性核種の移行抑制機能の高い地中を選ぶ</li> <li>(3) 現行の低レベル放射性廃棄物が処分されているコンクリートピットと同等以上の施設の設置</li> <li>(4) 数百年間の管理</li> </ul> <p>上記の提案に対して、以下のように考える。</p> <p>まず、上記(1)の提案は、50m以深の利用は極めて少ないと前提で、50～100m程度の深さに処分するとの案であるが、管理期間経過時点として試算年数を300年として仮定している。</p> <p>ただ、300年後の状況は想像の範囲以上のレベルとしても、300年後の時点で50～100mより深い地下の利用がないとも限らない。現在でも大深度地下の利用方法が種々提案されているように今後、より深度の大きい地下の利用がより一層促進されると想像して間違はない。</p> <p>このような観点からして、(1)の案は見通しが不十分で見直しが必要と考える。</p> <p>次に(2)、(3)の提案については、現在考えられる方法の中で最良の方法であると思う。</p> <p>(4)の提案については、数百間という長期間であり具体的な印象として感じとれない面はあるものの、最も重要なのは、それを実施する「管理者」及び「管理体制」である。RIも含めた放射性廃棄物の取り扱いにおける昨今の安全に対する認識を欠いたずさんなやり方は、詰まるところ、それを実施する「人」の問題に帰着する。数百年間とは言え、日々管理に携わる「人」の安全に対するモラルの堅持が重要である。</p> <p>以上</p>				

番号	No. 135	氏名	佐藤 善弘	年齢	66 才
----	---------	----	-------	----	------

### 概要

低レベル放射性廃棄物処分について、住民の理解を得られるよう情報の開示と、原子力の安全性に不安を抱く住民に、どう、現状を説明するかが重要である。

### 意見

原子力発電所でも天然資源を利用する以上は他の企業と同様、必ず廃棄物が出る。

原子力発電の場合の特徴は、放射能を帯びていることだ、その廃棄物に含まれている放射性核種が生活環境に対し及ぼす影響を未然に防止しなければならないと思う

低レベル廃棄物に含まれている放射能物質のほとんどは半減期の短いものであり約10年も保管しておくと、その放射能は自然にある放射能と区別が出来ない位い小さくなってしまう。

現在までの低レベル放射性廃棄物の数は2千リットル入りのドラム缶約50万本、これを最終的に私達の生活環境に影響を与えない方法で処分することが、今回処分の基本となる考え方を聞いているが、問題は、今後年間5万本ずつ増えて30年間で合計200万本程、この数位は六ヶ所村でドラム缶300万本相当の埋設能力を有していると云うが、万ードラム缶から漏れたとしてもそれが生活環境に影響を与えないようモニタリングを行い必要な期間管理することが大切であると思う。又、将来世代に負担を残さないよう安全を確保しなければならない。そのためには、安全性に不安を抱く地域住民に受け入れられるよう対象廃棄物の処分に関し的確かつ分かり易い情報を提供していくことが不可欠であると思う。

特に対象廃棄物は、原子力施設の運転や解体に伴って発生する廃棄物の一部である場合、全体でどの様な廃棄物で発生し、どの様に処分されるか、併せて情報の提供が重要であるし、住民の理解を得られる様、安全確保と処分が開始した後の記録が保存され処分の実施状況等分かり易い形で公開されることを望まれると思う。又透明な情報の開示が、地域住民との信頼をかちとるに、

特に必要と思われる。

番号	No. 136	氏名	野村 和男	年齢	38 才
----	---------	----	-------	----	------

### 概要

地球規模で考え、各国から出る廃棄物を数ヶ所に集め、第三セクター設置により、廃棄物を原子に戻して保管しておく。

### 意見

経済効率を重視するあまり、我が国の原子力の比率は高くなっている。原子力の発明により電気料金は安く供給されることにつながっている。だが、低レベル放射性廃棄物の処分にあたっては、各国とも頭を悩ます事態となっている。

この低レベル放射性廃棄物の処分の方法は、どうすればいいのであるか。私の知る限り、この廃棄物は地中に埋めることによって、半永久的に地上に出さないようにしている。

この廃棄物の処分方法は、何の解決にもならないと思う。ただバケツ(地中)のなかにゴミ(廃棄物)を入れて、蓋(フタ)をしているにすぎない。

私はこの低レベル放射性廃棄物の処分方法は各國ごとに処理している点が、ダメなのではなかろうか。

今や放射性廃棄物は、地球全体で考えるべきではないだろうか。各國から出る放射性廃棄物を数ヶ所に集め、原子に戻せばよいのではなかろうか。

各國間で協議をして、国民に放射性廃棄物の影響が無い地域を選んで、第三セクターを設置して処理していけばよいと思う。

現代の世界の科学技術では、できると思うのだが。  
関係者のこれから努力に期待する次第です。

以上

番号	No. 137	氏名	山本 豊樹	年齢	49 才
----	---------	----	-------	----	------

概要

全ての核廃棄物は深々度に管理のもとに埋設し国民には公開する

意見

原子炉施設の運転の現状及び今後更新年数をむかえる施設の増加が見込まれる今、その処理方法、制度の整備を早急に具体化していくべきである。それが国民の原子炉施設、廃棄物に対する不安感を払拭することとなる。国民の多数が合意できるような、公開された方法、制度でなければならない。

私は不明にしてその処理方法なるものの根拠並びに具体的な方法を知らなかつたが、今回資料をみて若干の懸念を覚えた。私はその濃度によらず全ての廃棄物は深々度《100m以上》の深地下に処理施設を構築埋設すべきであると考える。新たにトンネル又はサイロを構築することは勿論、現在廃坑となつてゐる鉱山の活用も一考に値する。但しその為には火山国、地震多発国の日本であるから、過去の記録や土質等の調査を十分に行ない、放射性核種の漏出防止、特に地下水の動向監視が重要である。

通常の管理、監視体制、補修対策、多面的危機管理体制のもとに十分な人材を充て、かつ国民への日常的公開にたえうる施設でなければならない

番号	No. 138	氏名	羽畠 征士郎	年齢	55 才
----	---------	----	--------	----	------

概要

廃棄物処分に関する考え方は難解なるもおおむね同意出来る。問題は国の原子力政策としてより充実した体制を確立し関係法令、基準の早期制定が急務であるということ。

意見

実用原子炉発電が稼動に入って30年以上となりすでに廃炉時期に達している現在に於て、この議論は遅すぎるくらいがあるようだ。

今重要な事は、数百年に及ぶ一連の施策に対する取組みについてやるべき事が多岐に及びかつ難解な事であるが故、国が中心となりパワーアップとスピードアップする事ではないか。（予算、体制、人材、技術etc）

少なくとも今世紀中に、制度一政令、各種基準や指針等を明確にし、それに基いた廃棄処分計画の具体策を示さねばならない。問題の先送りは許されないし、将来世代への負担も残してはいけないのである。

数世紀に及ぶ国家プロジェクトを推進するに当り、国としてのリーダーシップが最重要である。計画推進にあたり原子炉設置者はじめそれぞれの立場で利害の相反することが多くなるが、これを調整するのが国の確たる政策では無からうか。

時代は変り、政府や関係メンバーも交代していく長期的計画を進めるには、制度の確立が前提となる。

“金に糸目は付けない”という訳には行かないが、いかなる政治情勢や経済環境のなかでも大事な事は大事なのである。

国民一世論に対するPRも大切であり、わかりやすく透明性のある内容で心要性を訴えつづける事を欠かせてはならない。

“次世代がやる”のでは無く“今やらねばならない”ことだと信じる。関係者の皆様の一層の奮気と決意を期待致します。

番号	No. 139	氏名	清崎 雅志	年齢	30 才
----	---------	----	-------	----	------

概要
----

人間侵入に対する評価は不要ではないか？
---------------------

意見
----

地下利用については、国が情報管理&提供を永年に実施することで十分対応可能と考えられる。
---

わざわざお金をつぎ込んで（申請側の入件費と国の審査に係る入件費）までやらなくとも、汎用性のある地下利用情況の管理だけで十分安全が確保されると考える。
--

番号	No. 140	氏名	苗村 昌嘉	年齢	29 才
----	---------	----	-------	----	------

概要
----

10 $\mu$ Sv/y（目安線量）ありきで話が進められているが、これはきびしすぎるのではないか？（妥当か？）
--

意見
----

上記で規制されているのが現状で、過剰に安全側に設定されてしまつてるとすれば、それは安全を確保するためのコストという形ではねかえってきていることになる。電気代が高いのは、こういった過剰な規制を強いている国に問題があるのではないかと考えさせられる。
--

どこまでであれば安全が確保されるか、安全とコストのバランスが図られるべきところにきていると思う。
--

番号	No.141	氏名	森北 豊一	年齢	40 才
----	--------	----	-------	----	------

概要
----

原子力施策の意見公募に関わり原子力施策の教育についての取組をもっと進めるべきではないか。

意見
----

今回の意見公募がインターネットを利用し、見られるというのは非常に喜ばしいことである、しかしながらどれだけの人が興味を覚えてアクセスするのかは判らないが、少なくとも自分の身近な人で原子力に関心があるといえば事故が起こった時だけで、このような前向きの話には全く興味を覚えないのが実状ではないだろうか。

今回の様な概念は特にいまの子供たちに理解しておいてほしいようなことと感じる、今の教育現場でどれだけエネルギーや原子力について学習されているのか、国としてもっと積極的な取組があっても良いのではないか。

以上

番号	No. 142	氏名	文能 一成	年齢	36 才
----	---------	----	-------	----	------

概要
----

海外と較べて過剰な安全性で、コストを引き上げ、引いては電気料金を引き上げる要因となっていないのか。

意見
----

今回のレベルの放射性廃棄物の処分概念について、50～100mに埋設し、300年余り管理することとなっているが、海外ではどの様な処分概念をもっているのか、日本の特殊事情があるにせよ、グローバルスタンダード化が進んでいる現在において、日本のみが過度の安全性を追求するあまり、処分コストの増大を招き、引いては電気料金の増大となり消費者への負担を増しているとなれば問題と考える。

以前青森の六ヶ所の埋設処分施設を見学する機会に恵まれたことがあるが、廃棄物の処分施設は非常に堅牢な施設であるように感じた、どの様な安全の評価をしているのか詳しくは知らないが、安全基準そのものについても海外と比較して過剰なものとはなっていないのかと思ったことがある。

以上

番号	No. 143	氏名	酒井 幸美	年齢	28 才
----	---------	----	-------	----	------

概要
----

安全性と合理性は相反するもの。安心を安全で買おうとすると合理的にならない。国民の合意の下で國の方針として合理的に推進するのなら、もっと教育が必要では？

意見
----

国民の安心を得るために安全かつ確実に処分を実施することは大切なことではあるけれど、これだけで、「安心」を買おうとすると、過大な規制と多大なコストがつきもの。電気料金が高くなつて、よけいと受け入れてもらえなくなるのではないか。 「安心」とは、身近であること、知っていること、多大なリスクが伴つても安全と認識できることではありませんか。

従つて、放射性廃棄物の処分についても、日々電気の恩恵を行つてゐる国民全体の問題として、「身近に知つてゐること」としての認識と「リスクと安全の適切なバランス感覚」を養えるような教育活動が必要ではないかと考えます。

番号	No. 144	氏名	三山 彰一	年齢	31 才
----	---------	----	-------	----	------

概要
----

10 マイクロシーベルト／年の妥当性は何處にあるのか。

意見
----

処分の考え方の基本として、10 マイクロシーベルト／年が「目安線量」として述べられているが、注釈の説明を読むと自然放射線に較べても非常に小さい値であり、そもそも放射線審議会が10 マイクロシーベルト／年と決め、それが今回のようないくつかの場の目安として妥当であるとする判断は、どのような経済的な効果との折り合いで導き出したのかを明示する必要があるのではないかと思う。

ちなみに今の原子力施設の目安線量はどの様にしているのか、それとの相違はあるのか。

以上

番号	No.145	氏名	笹川 直樹	年齢	39 才
----	--------	----	-------	----	------

### 概要

費用の確保について今後合理的精算を行った上で処分費用の確保を図って行く必要があると述べられているが、具体的にはどの様に検討していくつもりなのか。

### 意見

今の一般廃棄物のトラブル等を見ていると、処分費用の確保に原点があるよう感じるが、この様な放射性廃棄物の長期管理をする事業には費用の確保の問題が大きいと考える、100年の歴史を誇った山一証券があっけなく倒産する世情であり、今後の費用確保検討のスケジュールは持っているのか、いずれにせよ費用確保の検討はしっかりと実施しておいてほしい。

以上

番号	No. 146	氏名	酒井 弘子	年齢	57 才
----	---------	----	-------	----	------

### 概要

とても難解な報告書です。

### 意見

原子力、放射性廃棄物云々に対し全くの素人です。相当のバックグラウンドがないと、理解できないと思いました。報告書に書かれているように、このような廃棄物は数百年管理されたあと、管理から開放されるようですが、その時点の人にどのような考え方に基づきこの場所に放射性廃棄物が処分されているのか、理解できていないと、やはり押しつけになるのではないかと思いました。

日々感じることではありますが、我々一般の素人が国の原子力政策に agree しようにも、あまりに知識の差がありすぎてついていけず、なんだか難しいことをやっているという印象から安心感がもてません。アレルギーといわれるのも「わからない」が出発点になっているのではないでしょうか。したがって、国のエネルギー政策として原子力を推進していくのであれば、それに応じた文化の形成と伝承が必要になります。ですから、学校教育の場等でもっととりあげるべきですし、少なくとも今回の報告書を理解できるようなバックグラウンドを付与しておくことが、これから原子力政策を円滑に、合理的に進めるために大切なことではないかと考えます。

番号	No. 147	氏名	大鹿 浩功	年齢	35 才
----	---------	----	-------	----	------

概要
----

原子力利用は現在の日本にとって欠かすことができないものである。行き過ぎた基準等について見直しを行い、合理的にプロジェクトを進める必要なのではないか。

意見
----

エネルギー資源の乏しい日本国においては、安定的な燃料供給が見込め、しかも地球温暖化の原因となる二酸化炭素等の発生の少ない原子力は欠かすことのできないものとなった。

この原子力の運転継続を考える上でも、ここで発生する放射性廃棄物の処理を、如何に簡易に、そして安価なコストで、しかも安全に実施させることは国としての責任ではないか。

確かに、放射性物質を含む廃棄物を処理・処分する施設を設置される地域住民は大きな不安を抱くことになる。そのためにも、地域住民への影響評価を的確に行い、問題のないレベルでの設備設計をする必要がある。また、発電所から運ばれた人工的放射線源だと聞けば、たとえ低レベルでも過度の不安感を持つ世論へ、放射線の影響は問題のないレベルであることを説明していく必要がある。

しかしここで、問題のないレベルとは何であろうか。埋設施設等設置の場合、基準の一つとして、1年間当たりの一人当たりの被ばくとして十マイクロシーベルトを基に設計計画を始める。なぜ、この十マイクロシーベルトという数字を持ち出すのか。この値は、自然放射線による影響と比べても百分の1以下の数字であり、地域毎の格差と比べても桁が1つ小さくなった数字ではないか。

原子力に関しては、注目されることもあり管理基準が厳しくなる傾向にあるのではないか。このような基準を厳しく設けると自体は簡単であり、受けもいいであろう。しかし、原子力の運転を継続していく上で、行き過ぎた基準設定は首を絞めることにつながるのではないか。高βγ廃棄物の処分に限らず、もうすこし合理的にプロジェクトを進めていくことを考える必要もあるのではないかだろうか。

番号	No. 148	氏名	梶原 鳴雪	年齢	64 才
----	---------	----	-------	----	------

概要
----

ドイツの原子力発電所から生じる廃棄物の分類、その安全な処理方法および廃棄処理物の保存場所等について記述した。

意見
----

3年前ドイツのユーリヒ市にある原子力関係の研究所を訪問し、原子力発電から生じる廃棄物処理法について、実際に研究に従事している研究者と直接議論する機会があった。ドイツでは、原子力発電から生じる低レベル、中レベルおよび高レベル廃棄物を安全に処理する技術が確立されない限り、原子力発電を実施しない方針であるとのこと。またその廃棄処理方法が確立した際に、その廃棄物をどこに保存するかについて、すでにその場所まで決定している。周知の通りドイツは食塩を海水から生産していない、その代りに岩塩を山から採り出している。岩塩を採取した後の穴に原子力発電廃棄物を埋込むことを計画している。問題は原子力から生じた廃棄物をどんな方法で安全なものに処理するか…?。地下に埋蔵するので、圧力と温度に耐える材質でなければならぬ。つまり深い場所になればなるほど圧力と温度が高くなるし、地下水にはいろいろな塩も溶解している。つまり圧力釜であり通常我々はオートクレーブと称している。ドイツでは、放射性廃棄物を低レベル、中レベルおよび高レベルに分類し、圧力と温度つまり地下の深さの程度をも考慮した処理方法とその材質を検討している。動燃が昨年事故をおこしたようなアスファルトを利用した廃棄物処理は行なっていない。何故動燃はアスファルトで低レベル廃棄物を処理したのか非常に疑問である。アスファルトで処理するデータを公表すべきであるし、また処理物をどの場所にどのくらいの期間保存するつもりであったのかを明言すべきと思う。ドイツでは前述のように地下に埋蔵することを決定しているので、基本的にはアルカリおよびアルカリ土類金属を含有しない非晶質酸化物あるいはそれらの金属が含有しても、熱水によって侵食されない安定な酸化物で処理することが検討されている。日本とドイツを比較すると、原子力発電廃棄物に関して、その認識はかなり異なっている。

番号	No. 149	氏名	高橋 光子	年齢	68 才
----	---------	----	-------	----	------

**概要**  
北電㈱エネルギー＆バイザーの立場で昨年東海村及び六ヶ所村の両施設を視察さらに周辺生活者の生の声を聞き各種勉強会に出席原子力行政に触れた経験で意見を述べる。

**意見**

原子力に対する理解力の不足により危険だけが常に前面に出ている。しかし国民にとって確かな情報が最新の形で届いていない。情報発進のチャンネルが甚だ少ない。国民は以前のような安全神話の中で生きてないことを知っている今はすべて何らかの“リスク”を含む社会で、“リスク”を回避しながら生きなければならないことを理解している。従って確かな情報のチャンネルがあれば国民の原子力に対するイメージは必ず良い方向に変わる。

昨今省エネを前提に国民のライフスタイルを見直すよう呼びかけているが、経済成長とエネルギー消費の抑制を両立させるのは難しい。開発を止めて自然環境を守ればそれでよいか。環境あって国が滅びることを望んでいる日本人はない。開発と環境の対立する問題に真正面から取り組む、原子力行政に係わる全ての関係者と国民との協力体制が一日も早く訪れることを願っています。

対象廃棄物処分について、技術的能力・安全管理体制経済的見地から数百年間の長期にわたり人間環境から隔離の必要性ある放射性廃棄物等を、その発生者である電気事業者等に責任あるが如くと決めつけず日本でいや世界で未経験な重大事業に対して国と電気事業者共に法整備は勿論関係者との連携を密にして処分場全て国営管理にすべき。今後の民間企業は流動的要素を充分孕んでいる。

対象廃棄物は勿論「高レベル放射性廃棄物」等にかかる処分概念が定まっていないなかで見切り発車をしてしまった原子炉施設に関する最終処分についても、一日も早く全ての情報を開示して国民の合意を得るべく、関係者の努力と決断を求めます。日本の科学技術水準は世界一と自負できるのに、行政の対応の拙さから常にマスコミ報道の一方通行により国民の不信感が原子力行政に影を落としています。原子力発電開始から約35年の今日まで終始避けて来た“ツケ”を今世紀中に決着させ、次世代に負担を背負わせないことを重く、受け止めるべきです。

番号	No. 150	氏名	私市 洋子	年齢	67 才
----	---------	----	-------	----	------

**概要**  
低レベル放射性廃棄物処分の考え方

**意見**

原子力発電所からの廃棄物のうち、低レベル放射性廃棄物というと、生活環境にさ程危険性が、少ない様に、思われがちですが、低レベルといえども、超ウラン核種等があって半減期が、きわめて長い物もあります。低レベル放射性廃棄物埋設施設に於て、鉄筋コンクリート製ピットで安全確保を重点に行っていると申されても今迄に問題は違っていても人的ミスとか、予想していなかった事故が、おきています。

私が住んでいる福井県でも、もんじゅ、ふげんと事故が発生していますが、発電の時におきる事故も、放射性廃棄物処分の時に発生する事故もどちらも、我々人間、自然に於て、重大な事であります

現行の政令濃度上限値を超える低レベル放射性廃棄物処分については、今迄の処分の仕方でよいのか、濃度上限値を超える基準をもう一度見直して、安全に処分していただきたいものです。

番号	No. 151	氏名	千葉 能利夫	年齢	39 才
----	---------	----	--------	----	------

### 概要

原子力発電の必要性、安全面、危険面のカバー体制を充分に国民に理解してもらう事で処分場住民の理解が得られるのではないか。

### 意見

政令濃度上限値を超える低レベル放射性廃棄物の処分についてとあります。どこの地方自治もこの廃棄物の 処分場にはなりたくないと思っています。私は国はもっと広く原子力発電の必要性を国民にPRし、エネルギーの節約そして原子力発電の安全性及び原子力発電の危険な面とその危険な面のカバーを、いかに実行しているのか国民に知らせるのが第1ではないかと思います

原子力発電は安全です絶対に事故はありませんというようなニュースでPRしていますが危険な面に対してもこの様に対処していますとPRしてほしいと思っています。私は原子力モニターを引きうけて原子力の必要性を実感しました国民の大多数は以前の私と同じく原子力発電イコール絶対反対だと思います。もっと広報活動に力を入れて国民に説明して下さい。国が強制的に処分場を建設するのはしないでほしい

又地方振興と交換という形で処分場を建設する事もしないでほしい  
充分なPRと話し合いで解結してほしい

番号	No. 152	氏名	田中 みさを	年齢	33 才
----	---------	----	--------	----	------

### 概要

発生する放射性廃棄物はどこかに捨てなくてはならない。その方法も当然だが、エネルギーを利用している我々皆が知識や理解を深める事も大切なのではないでしょうか。

### 意見

誰れもが便利で快適な生活がしたい。今では、ライフラインと呼ばれる電気・ガス・水道等は、当り前の様に自由に使って、まるでそれは永遠に無くなる事の無いエネルギーの様に勘違いしてしまっていいのである。

しかし、だからと言ってそう言った便利の裏に発生する放射性廃棄物等について、どれ程の人が理解を示すでしょう。「原子力」に対して便利だけど恐ろしいものという程度しか知識の無い私にとっても同じ事が言えます。

今回初めて、「放射性廃棄物処分」について、ほんの少しだけですが、資料を読んで、この様な情報にもっと沢山の人達がふれる事が出来たらいいのにと思いました。事実、放射性廃棄物は恐しいものです。誰れもが自分の生活する場所に廃棄されるのは嫌でしょう。まして一般廃棄物と一緒に捨てられたなどと言うニュースを耳にすればなおさらです。大切なのは、廃棄の方法と同時に、それを扱う人間です。いくら何重にも安全性を考慮した廃棄方法を考えても実行されなくては意味が無いから…

いつか私達は、私達やそれ以外の生命達を慈しみ育ててくれた地球にしている行為の報いを受ける時が来るでしょう。自分の家から遠ければ良いとか他の国なら良いとかでは無いはずなのに、それでもついそんな事を繰り返してしまう。私達が快適な生活を送れる様、何世代も先の人達も同じ様に快適である様に、全ての人が正しい知識と理解を持てる方法も「廃棄」の中に加えて欲しい そう思います。

番号	No. 153	氏名	柏瀬 知子	年齢	47 才
----	---------	----	-------	----	------

### 概要

対象廃棄物処理に係わる人達は、常に危機意識を持った人間性豊かな人であってほしい。また対象廃棄物を処分する前に危険性を減少させる研究に国をあげてとり組んでほしい。

### 意見

対象廃棄物に対する考え方、実施の仕方は理解できました。できることなら海外の廃棄物処理状況をも知りたかった。そして重要かも知れないと思ったのは、原子力に係る人達のことです。重要な仕事にたずさわる人達ですので、常に危機意識をもった人間性豊かな人達にやってもらいたいです。人間の育成に力を入れてほしいです。動燃のことなど、どうも気になります。そしてこの案にかかっているように、国においては、対象廃棄物処分に係る制度の整備を図り、早期処分に着手できるようにとり組むことが重要だと思います。

また、それと平行して、対象廃棄物を処分する前にもっと危険性を減少させる研究をこれからもいろんな面で全力をあげてやってほしいです。国民の皆さんにより多くの理解を求めるには、誠意ある態度と、なんといっても、さらなる研究、技術開発が必要だと思います。

番号	No. 154	氏名	和田 恵子	年齢	36 才
----	---------	----	-------	----	------

### 概要

低レベル放射性廃棄物の処理処分の流れについて

### 意見

低レベル放射性廃棄物には、気体、液体、固体にわけられる。  
気体は放射性物質の濃度を測定し、安全を確かめて大気中に放出される  
そうだが人間の身体に本当に有害ではないのでしょうか？

液体にしても洗濯水などの水やそれ以外の水も最終的には原子炉冷却材として再利用するか希釈して海へ流すかの処分をしているが海洋には影響ないのでしょうか。

ニュースでよく耳にした六ヶ所村には低レベル放射性廃棄物埋設センターがあるそうだが固体・液体とも施設内で発生した低レベル廃棄物をドラム缶にセメントなどで固め詰めるなどと言う事を全く知らない事だけでした。

番号	No. 155	氏名	高藤 守久	年齢	42 才
----	---------	----	-------	----	------

**概要**  
地上で管理して、異常があった場合の対策がとれるようにしたほうが良いのでは……？私達は 地下水を多く利用するので、地下に 埋めてほしくない。

**意見**

報告書案を読んで、改めて危険な物を処理しようとしていることが、わかりました。簡単に 長期にわたって、管理すると あります が、現段階では、無理だとしか、思われません。先日からニュースに なん度となく 流されている 不祥事。短期間に これだけ報道されているのに……。又、内容ですが、山と海が近い日本において 地下に埋めるなんて、もってのほかだと思います。富山では、キリンビルなどは、「100 年伏流水」と言って売りだしているほどです。私達の生活水は、地下にたよる所が、多いと思います。そこえ こんな危険なものを埋めようと言うのですか。これのどこが 安全と言えるのですか……？ 私には、理解できません。コンクリートの耐久年数は何年ですか……？ 私の知るところでは 50 年ぐらいとも 聞きましたが、又、話は、異なりますが、ゴミの下へ マットを 敷しいてあつたが、処理場より汚水が、地下水に入ってしまったと思われると、提訴があったと ニュースにやっていた。これより危険な物を地下へ……。絶対に考えられません。地上に置くために、広い地域を買いあげる訳には、いかないのでしょうか。たえず、巡視及び点検するのに は良いと思うのですが、地下の場合異常があつてからの対策は、とれるのですか……？ 地下水に混入した場合は、どうするのですか……？ 地下水は とめようがないのではないでしょうか。 私は地上に 置いて 対策をとれるほうが良いのでは、と思います

できれば、原子力を使わないほうが良いみたいですね。

番号	No. 156	氏名	出利葉 伊佐夫	年齢	65 才
----	---------	----	---------	----	------

**概要**  
〔1〕「3. 対象廃棄物処分の基本的考え方」(案P3～5) の項 〔2〕  
6. 管理期間経過後の安全確保」(案P9～12) の項で、疑義4点あり。  
以下に述べる。

**意見**

〔1〕について  
「将来世代に負担を残さないという観点も踏まえ処分場跡地については一般的であると考えられる利用が制約されないようにすること、を基本的な考え方とする」とあるが、その考え方の実像がしっかり読み取れない。一体、いかような「負担」なのか、「一般的利用」とは何をイメージしてのことか。説明不十分である。

また、処分場の管理期間中及び管理期間経過後を想定しての対策で、地下水による放射性核種の漏出、移行についての対策で、地下水による放射性核種の漏出、移行についての監視策こそ、施設周辺の住民が知りたい重要課題であると考える。詳しい参考資料をぜひ付けてほしい。

〔2〕について  
一般公衆の被ばくの起因に、「廃棄物に人間が直接接触する事業と、廃棄物に含まれる放射性核種が地下水によって生活環境まで移行する事業」を挙げ、放射性核種の移行抑制機能の高い地中を選ぶなどの対策が必要であるとしているが、現実に適確な地層確保がたやすくできるものだろうか。むしろ、抑制のきかない地中利用という自体も起きてくることも視野に入れておく必要があるのではないか。

また、「例えば地表から50～100m程度の深さに処分することにより、将来の人間の活動によって人間が廃棄物に接触して被ばくする可能性は十分小さいと考えられる」とあるが、将来の見通しが甘すぎるのではないか。近い将来、世界各国の核保有と地下核実験が抑制されると いう保証がないばかりか、核戦力は拡大化の道をたどるのではないか。その流れで日本列島も好むと好まざるにかかわらず、地下層崩壊現象は想像を超える事態を迎えるのではと危惧するものである。コンクリートピットや人工バリアと天然バリアの組合せなどによる安全確保にも、同様の視点が望まれる。

番号	No. 157	氏名	蘇原 澄子	年齢	60 才
----	---------	----	-------	----	------

### 概要

原子炉に関し放射性廃棄物の余りにも多いことに驚きました。徹底的な情報公開と安全管理は当然ですが、更に廃棄物の減量化、及び再利用の研究が重要だと思います。

### 意見

原子炉施設の運転及び解体に伴って発生する放射性廃棄物の余りにも多いことにまず大変驚きました。又政令濃度上限値を超える低レベル放射性廃棄物の処分方策が確立していなかったことにも驚きを禁じ得ません。これから先耐用年数の過ぎた原子炉施設や、事故の起きた施設の解体と益々廃棄物が増える事が予想されます。それをこの狭い日本でどこに処分するのですか、又何百年も安全に管理するのは大変なことです。基本的考え方についての案を一通り読ませて戴きましたが、全てもっともなことばかりです。案通りに実行されれば結構だと思いますが、低レベル廃棄物処分の六ヶ所村でさえ大問題となっています。徹底的にうそ偽りのない情報公開をしていくことがまず第一に重要なことです。国民の多くは、原子力発電は事故が怖いからいやだと言う人がほとんどで、膨大な廃棄物のことは知らされていません。廃棄物のことまで知ったら、国民のライフスタイルも相当変わってくると思います。原子力発電以外の無公害のエネルギー確保に意識が変わってくると思います。

発生した廃棄物をどう処分するかだけでなく、どうしたら無害になるか、どうしたら再利用できるか どうしたら減量化できるか、ということを研究すべきです。そして、やむをえず地下深く処分する場合でも、将来再利用の技術が開発された時のためにも、安全管理と一緒にいつでも取り出せる体制にしておくべきだと思います。

番号	No. 158	氏名	笹川 伸一	年齢	38 才
----	---------	----	-------	----	------

### 概要

あってはならない事だが万一の戦争時等人的あるいは地震等の自然要因に対しての安全対策を具体的に報告してほしいと考える。

### 意見

詳しい事は分からぬ。日本人の歴史、人間の歴史の中で有史以来戦争の繰り返しで今日まで来た中で今後、現在の平和がこのまま保たれたままとなる確率がどの位有るのだろう？それを考えると300年という何世代もの後々までの管理期間を必要とする対象廃棄物処理の考え方には万一の有時の際の対応が考慮されているとは考えにくい。例え日本が非核三原則や軍隊を持たないと言った処で他国にせめられてはどうしようもない。

今回の案では廃棄物の埋設の仕方、及びその後の管理の基準が今の平和で地震も戦争も何も無いという状態が永遠に続くという考え方でしか考えられないと思う。

もう少し不慮の事態に対する具体的な対策が有っても良いのではないだろうか？

理論上での対応でないある程度の不幸な危険性に対する対応力、又、事件、事故が有った場合の対処の仕方が明記されてなくて残念である。

原子力に対する反対派の方々の不安はそういうところから出てくるのだと思う。

過去、絶対安全と言われた数々の神話がくずれたり、その時にかくそうとする体制に対する不信感、不安感が根強い反対意志となるのだろう。

原子力はある程度以上に充分に危険なものである。但しその危険に対してこの様なケーススタディを考えて対策して行きます。とはっきりのべてほしい。副作用の無いガン治療の薬みたいなものでちょっと理想的すぎる報告書であった。

番号	No. 159	氏名	渋田 賢次	年齢	47 才
----	---------	----	-------	----	------

## 概要

低レベル放射性廃棄物地下埋設施設建設問題

テレビ番組広報作り

## 意見

廃棄物処分の考え方について読ましていただきましたがなるほど完璧なほどの処理のやり方に感心しております。地下埋設にしろ地上埋設にしろあくまでもやってみなくてわ、わからないと思います。「六ヶ所での埋設雨水もれ」紙面上ではだいじょうぶと思っても雨水もれがお起る事が現実的にある。「又もんじゅ事故」でもそうです現実的にわあんな事が起る事がないはずです。それが起る。それでは埋設に関して実験を何回かくり返してみてこれでだいじょうぶと確認し現実的にコンクリートの埋設、地下埋設に取り組んでおられるのでしょうか。どうもそんな感じがしないでもありません。これから先エネルギー不足になるのは目に見えてます。今以上に原子力発電が必要になると云う事ですね。そうすれば廃棄物も何十倍にもふくれ上がるそうなると埋設施設も不足がちになり他の市町村にも施設が必要になるような気がします。その為には国民の理解が必要になりますね。我々モニターだけでは追いかける付くないぐらいの問題になり大変だと思いますその為にはありがたくマスメディアが充実しておりこれを利要する手はありません、日本の政府、国はマスメディアの価値をどう思っているのか、選挙の時にしか利用していないような気がします。廃棄物処理問題に関して1時間～2時間番組を政府広報として廃棄物がどのようにして処分されるかを国民の皆さんに良くわかるように納得できるようにしっかりととした番組作りをやってみてわどうですか番組は月2～3回ぐらいにしないと国民に行きわたらないと思います。どうかよろしくお願ひします。

番号	No. 160	氏名	新井 まゆみ	年齢	32 才
----	---------	----	--------	----	------

## 概要

「現行の制限濃度上限値を超える低レベル放射性廃棄物処分の基本的考え方について」に対し地震対策と情報公開についての意見

## 意見

### ・地震に対する対策について

近年日本列島全域で、地震活動が活発化しており各地で地震による被害が起きています。この報告書で多様なシーンでの安全対策はなされているようですが、地震の際の安全対策についても検討しておく必要があるのではないかでしょうか。

### ・情報公開の方策の早期検討の必要性

地下深度について現行の利用で50m以下はきわめて利用が低いとされており、実際その通りだと思いますが、技術の発展はめざましく特に日本の様に国土の狭い国では、さらに深い地下での利用も可能性がないとはいえないません。そのため情報公開の方策について早急に検討すべきではないでしょうか。人の噂も35日などの言葉がありますが、情報化社会となってさらに情報が風化し存在さえも忘れられてしまう可能性もあります。危険性の高い廃棄物ではそのようなことがないように、土地利用する際にも、調査の義務を明確に位置づけておく必要があると思われます。また大規模な土地利用でなくとも居住する方が納得して居住できるよう、土地利用に注記すべきではないでしょうか。

### ・報告書様式について

なお今回の報告書内容とは関係ありませんが、環境への配慮から役所などの文書の大半が再生紙や両面コピーになっていることを考えれば、このような報告書も再生紙の使用や両面コピーにし、少しでも神の無駄を省くようにすべきではないかと思います。

番号	No. 161	氏名	米岡 泰子	年齢	34 才
----	---------	----	-------	----	------

### 概要

人間と廃棄物の接触、処分費用について

### 意見

このたび、初めて原子力モニターを、することになり軽い気持ちで、もっと知りたい、ということで、始めたのですが、あまりにも、内容が、専門的で、多分、的を得た内容になっていないと思いますが、初心者の意見として、書いていました。

やはり今、一番問題になっているのは、地下水の汚染とか 環境問題にかかわると思います。50～100m程深いと被ばくする可能性は小さいと考えられるとありました。安全確保が第一なので、この辺をもっとつめて話をしてほしいです。同時にこの内容がかかれているところに参考資料18とかいてあったのですが、少し、ズレている様な気がして、内容とは少し違う様に思えました。いろいろな問題を抱える中で、費用というのも、大きな問題であると思います。初心者には、検討もできない程のもので どのようなシステムで、予算が、組まれるのかもわからないので、意見のしようもありませんが、具体的に、初心者にもわかる様に行って欲しいと思います。

正直いって本当に、内容が詳しくて初心者の私にとっては、何を見たらいいのだろうという感じです。

こんな事では、務まらないのではないのだろうかという不安さえ、つのってきます。

これから少しづつ勉強して、もうすこし、まともな意見が言える様になりたいと思います。

番号	No. 162	氏名	平島 良一	年齢	77 才
----	---------	----	-------	----	------

### 概要

原子力バックエンド対策専門部会告書案に対する私の意見は参考資料3の(1)(2)六ヶ所低レベル放射性廃棄物埋設センター案に賛成致します。

### 意見

上記についての理由は余り金がかからないからです。  
しかし原子力発電所の解体で発生する廃棄物の100トンから200トンの処理処分の費用は我々の電気料金に加算されるのでしょうか？

地下利用に対する対策として戦時中の地下壕や礎山などの利用などは？

又現行の政令濃度上限値を超えない廃棄物の処分法など知りたいと思ひます

病院や製薬会社その他各所で出されている廃棄物の処理又その管理はどこでやっているのですか？

日本は広島長崎と原爆による被害を受けましたがその放射線による被爆者の健康悪化が7月7日付朝日新聞に出ておりましたが放射線の減少のデーターなども知りたいと思ひます

何はともあれ安全処理をお願いしますコンクリートの間に鉛の板をサンドwitchにしては如何ですか

防水と放射線防止になりませんか？  
最近フランスから六ヶ所村に搬入された高レベルの処理管理はどうなるのですか？

番号	No. 163	氏名	金澤 洋逸	年齢	65 才
----	---------	----	-------	----	------

### 概要

「現行の政令濃度上限値を超える低レベル放射性廃棄物処分の基本的考え方について(案) 対象廃棄物処分に関する安全確保の考え方は、誠に良い(案)です。

### 意見

上記の(案)に目を通させて頂きましたが、非常に良く整備されており、申し分ないと思います。が、今後の管理運営についての所見を述べさせて頂きます。

先ず第一に、管理期間中の管理のあり方については、物理学者等に研究を委ね管理期間中のデータ等を公表し、国民に安心感を与えること。

管理期間経過後の安全確保についても同じことが言える。第二に、地下利用に対する対策ですが、例えば、地表から 100m 程度の深さに処分することにより、将来の人間の活動によって人間が廃棄物に接触して被ばくする可能性は十分小さいと考えられるとありますが、そのとおどと考えられます。さらに、低レベル放射性廃棄物が地表から 100m 程度の深さに処分すると、被ばく線量がどの程度まで低下するか近い将来に向けて試算実験し、その結果に基づいて、今後の対応が示めされると思われます。第三に、処分事業の責任分担のあり方、諸制度の整備についてですが、処分事業の責任分担を明確にし、縦横の連絡、いわゆる指示命令系統の整備充実、報告、連絡体制等の確立を図り、服務規律を欠くことのないよう、厳正なチェック体制も組織の中に設置すべきと考えられます。

なお、(案)は安全で合理的と考えられる。また、処分方策等についても詳細に説明されており、理解が得られた。よって更なる前進を望んで止みません。

番号	No. 164	氏名	山口 江美子	年齢	35 才
----	---------	----	--------	----	------

### 概要

低レベル放射性廃棄物処分の基本的考え方について、私の感じたこと、廃棄物の処理、処分の安全性を色々な分野から研究を高め、広く国民に情報を提供する。

### 意見

私は、この難しいテーマに困惑していますが、放射性物質というと、何か恐しい病気が発生し、生命の危機が訪れるのではないかと想像してしまいます。生活環境に放射性物質は、あってはならないものなので安全に隔離することを望みます。

核燃料サイクルの各過程などから放射性廃棄物が発生し、その処理・処分は厳格に行うことになります。放射性廃棄物を人類の生活圏から永久に隔離するといつても、その管理のあり方や安全確保は容易ではないことを知りました。

(案)の中では、処分の方策について興味深く読みました。以前は、アスファルト、セメント、プラスチックによる固化をしたり、陸地処分や海洋投棄などの処理が考えられました。しかし、色々な問題や欠点があり、安全面から考えると研究を要としました。現在は、コンクリートピットによる処分が安全で、又、管理期間も長く期間経過後に想定される被ばく線量への寄与が小さくなるようです。ここで、私が心配に思うことは、地下利用による被ばくへの問題や放射性核種が地下水とともに河川に移行し、その水によって被ばくしないかということです。絶対に安全と確心を持てるように管理期間中に定期的な検査は必要かと思います。地下の利用もどんどん深度を増しているので十分な余裕のある深度に処分されることを望みます。将来、世代が後退しても負担が残らないようにすることも大切です。土や水が放射性物質で汚染されると食物にも影響を及ぼし、生命の危機に到達するので、一人一人が感心を持ち、考えていかなければならぬ問題であると思いました。

低レベル廃棄物処分の基本的考え方について国民全体の理解を得ることは、容易ではありませんが、これからどのように情報提供を行なうか今後の課題ではないでしょうか。

番号	No.165	氏名	中村 安晴	年齢	67 才
概要					
「現行の政令濃度上限値を超える低レベル放射性廃棄物処分の基本的考え方について(案)」を読んで					
意見					
<p>化石燃料などによるエネルギー消費の増大に伴い、地球環境の温暖化と、輻射熱化現象などの外的要因と、オフィスビルや住居構造の気密性などによる内的要因と、更に最近の石油の国際価額の低下と円高によって、いったん高めた生活レベルを下げることは、資源小国日本の現状は理解しながらも、生活実感として過去の例から支障なく消費できているため、事業者と消費者に省エネルギーに対する理解と協力を得るために、今後引き続き推進していく必要があると思います。</p> <p>一方、わが国の総電力量に対する原子力発電は、全国に 13 道、県で運転中の商業発電炉は 52 基を数え、原子力発電量の総発電電力量に対する割合は 31.6% と、産業活動や国民生活に不可欠なエネルギー源になっております。従来から国などが原子力発電についてのフォーラム、シンポジウムの開催、各種のメディア、未来科学技術情報館などの設置等、媒体の活用など、さまざまな活動が行われておりますが、今後、事業者と国民に対して原子力発電の必要性と、併せて省エネ化に対して理解と協力を求めていく必要があると感じています。</p> <p>しかし、「95 年に発生した動燃増型炉「もんじゅ」の 2 次漏えい事故をはじめ、東海再処理工場の火災・爆発事故。最近では動燃東海事業所での放射線管理区域外の地下貯蔵庫でプルトニウムに汚染されたポリエチレン瓶の放射性物質が見つかった問題などの相次ぐ事故について、原子力政策に対する国民の不信感、原子炉設置者の危機管理意識の欠如が社会的な関心を集めています。国民は「安価で必要量の電気は欲しいが、原子力発電所の設置は嫌だ」という原子力発電施設未立地地域住民の無関心、無理解、egoism 意識があるかもしれません。このたびの報告書(案)の作成に当つては、国と専門家の立場から 13 回にわたって検討された内容だと思います。対象廃棄物は、原子炉施設の運転や解体に伴って発生する廃棄物の一部低レベル放射性廃棄物の処分とはいえ、過去の原子炉の事故後の対応や情報公開に対する不信感が、いまだに根強く残っていると思います。過去の事故についての情報公開と、報告書(案)に基づいて、対象廃棄物の処分の方法、管理期間中及び管理期間経過後の安全の確保、記録の保存などについて、広く国民などの理解とコンセンサスと理解が得られるよう、なお一層の努力が必要と思います。</p>					

番号	No. 166	氏名	宮城 衛	年齢	72 才
概要					
技術的な問題解決の論議の前に、先ずクールにもっと市民が身近に語り合える雰囲気作りが必要と思う					
意見					
<p>近年の新しい商品開発では、その商品開発に費やされた費用を遥かに上回る額の P R 費用が投入されて消費者をその製品になじます努力がされている。</p> <p>いくら優れた製品でも、それが消費者の手元で身近に使われ認められて初めて優れた商品となり、発売の企業の発展に貢献する、テレビのコマーシャルなど見ても、驚嘆の発想で消費者の懐に飛び込んで来る。</p> <p>原子力エネルギー開発に携わる人々が真剣に安全でより好ましいエネルギー開発技術への取組姿勢は理解するが、それを市民に身近に理解させ親しませて議論の輪に加える環境を作る P R 努力はまだ粗末と思う。</p> <p>例えば先日の朝日新聞の記事で 1996 年のある、世論調査で最も信頼できる日本人の筆頭に田中真紀子さんが挙がっていた、以前の科学技術庁長官の彼女にも是非一肌脱いで貰い、わが国近未来の「エネルギー問題」を市民と一緒に考える討論の輪に加わって貰うなども一案だ。</p> <p>先般息子の赴任先ドイツに出掛けるとき、嫁から小学 5 年の孫娘のお土産にと依頼された「性の絵本」¥7,500 (大月書店 ISBN427200002) は漫画ふうの普通の絵本で、なぜこんな本がと疑問を抱いて持参したが、小学 2 年の孫娘までも一緒に熱心に読んで居た、子供の教育の場に参入の漫画 Media の効能に己の頭の旧さを痛感した。</p> <p>不幸にしてわが国は世界唯一の原子爆弾の被爆国で、それを無知で愚かな政治屋が安い票集めの道具にして A T O M = 原子爆弾 = 核とご々混ぜにして、マスコミも報道で『核』一文字の略号で市民の核アレルギーを増幅して『核』 = 悪い子と市民が遠ざける結果を作った。</p> <p>だが落ち込んで居る時間は無い、人々の豊かな未来の為にとの自覚で、及び腰しを延ばし、胸を張り堂々と、大胆に色々の Media を取り入れて、市民を正しい「エネルギー問題」解決の討論の輪に引き込むべきだ。</p>					

番号	No. 167	氏名	杵渕 はつい	年齢	48 才
----	---------	----	--------	----	------

### 概要

放射性廃棄物の行先は六ヶ所村だけしかなかったのだろうか。

### 意見

原子力＝放射能＝被ばくと連想してしまうくらいの知識しか持っていないのが、自分の住む地域に原子力発電所が設置され稼動する事になってから多くの事実を知りたいと思う様になった。「原子力バックエンド対策専門部会」の存在は良い勉強の対象だと思って期待しています。原子力発電に伴って発生する放射能には低レベルと高レベルの他に「現行の政令濃度上限値を超える低レベル放射性廃棄物」の存在を知り、ならば中レベルとはいかなかったのか?と疑問に思ったりもした。低レベル放射性廃棄物の一部が六ヶ所村へ搬入され始めているけれど、全て六ヶ所村へというのではなく、発電所に隣接するくらいの場所に再処理を含む処理施設があってもよいと思う。安全性、用地面積等を考えた場合、簡単ではないだろうが「自分で出したゴミは自分で始末をする。」ことは基本的なことだと思う。それらが自分の生活の場から近ければ近い程人は安全性について慎重になるし、真剣になるし、原子力がクリーンなエネルギーとして生きていく上で不可欠なものであるとの認識が高まると思う。被ばく評価シナリオに農作物の根が1m以深として記載されていたが、草花・野菜・稻・果樹においても地上に生育している丈と同じ分、根は地下に伸びていく。コンクリートが地下3mで板になっている状態では根をはる事ができない。生育困難だと思う。だとしたら、~~年後、そこに居住する人々がいたとしたらその人々は家の高さよりも低い縁しかがめる事はできないのだろうか。

番号	No. 168	氏名	中澤 全一	年齢	73 才
----	---------	----	-------	----	------

### 概要

クリアランスレベルの重要性を認識し、処分状況は公開を前提として必要な重要事項の履歴が容易に取出せるようなリストとして資料は永久保存されるべきである。

### 意見

原子力発電が化石燃料の限界説や地球環境の維持改善にとって有利であるといった見地から、エネルギー需給の重要な地位を占めつつある現状に鑑みて、これから次第に増加するであろう原子炉施設や運転終了後の廃止解体に伴って発生する放射性廃棄物の処理問題は最重要課題となってきた。

この問題は人間を中心とした地球上の生物全体への影響を十分慎重に考慮した上で、徹底した安全対策を追求しながら実行可能な関係法令の速急な作成整備に取組んで貰いたい。

日本国内では初期に建設された原子炉施設が、既に廃止措置が決まり施設の解体が始まっているものがあると聞いており、国としてはあくまでも人間生活への安全が十分に保障される確たる基準を明確に決定して、必要な制度を一日も早く整備する義務がある。また原子炉設置者はこれまで運転してきた実績や経験をふまえて、安全性の確保に関する具体的な提言や意見を国側に率直に行うべきである。

原子炉の運転中の危機管理能勢については、今までの各種事故の発生状況をふまえて、更に徹底した対応や情報開示について適切な方策を検討すべきである。

原子炉の運転や解体などにより発生する対象廃棄物については、クリアランスレベルの再確認も含めて慎重な検討をお願いしたい。とくに廃棄物の処分の仕方は将来に渡ってその影響が残るものであるから、処分の実施状況は出来る限り詳細な時系列データ形式の記録として保存し、必要に応じて容易に開示できるようにして永久保存されなければならないと考える。

番号	No. 169	氏名	麻生 光子	年齢	64 才
----	---------	----	-------	----	------

**概要**  
原子力国際協力の枠の中で原子力発電所を多く持つ、フランス、ドイツ、の国策を学のが良いと思う、又、科学者を海外へ留学交流を積極的に国の責任で行う。

**意見**  
送付された貴重な参考資料を読んで科学技術庁や関係機関の熱意が充分理解することができます。しかし、どんなに頑張っても次元の違いを感じざるをえませんが 実際問題低レベル廃棄物の処理法、資料によりますと、何重にもガードして埋設する、危険は数十年で半減して300年の歳月がたたなければ消滅しない、人の世代の 6 代から 7 代の年月を要するとすれば、現在使はれている青森の六ヶ所村、茨城県の東海村も限度があり新らたに造るとすれば北海道の泊、発電所の近くはどうでしょうか、感覚的に北海道が一番土地の余裕があるとは思はれますが、危険な場所を何ヶ所も作る余裕は狭い日本にはないと思はれますが。そして埋設場所周辺に森林を植える、から松、ヒマラヤ杉などで日本松も良い植林で縁地帯にしたらどうでしょうか。話しあり移りますがかつて広島、長崎に原子爆弾が投下された時、子供の耳にもその地には草木は何百年も生えないのだと聞きました、しかし50 年立派に再生したではありませんか、どこの地域の人達よりも人を大切に自然を大事していると見受けますそれとは別問題でしょうが 300 年も経なくとも科学者の英知で放射能を人害から消し去ができるかも知れません、これは安易な考え方でしょうが、優秀な科学者を育てて下さい。それが一番のお願いです。  
話しあり森林のことに戻りますが私がこの参考資料を 2~3 時間読んでいる時、緊張して呼吸が苦しくなる程でした。その時テレビをつけますと丁度イギリス、ドイツの植林で森を守る映像が映りました、良く整備された林。パルプの材料に伐採するのだと云っていましたが、さすがにヨーロッパやることがスマート。日本にもあんな森林があつたら、見てるだけでほっと安らぎを覚えました。一日働いて整えられた林のトンネルを車で通ったならどんなにカストレスから開放されるだらうと思いました。 以上。

番号	No. 170	氏名	齊藤 允	年齢	64 才
----	---------	----	------	----	------

**概要**  
放射性廃棄物処分の基本的考え方は、出来る限り自然界の存在に近い状態にすべきで、不可能な場合の埋設深度は現時点での、地下利用想定深度では危険。責任は国の責任で。

**意見**  
生物は地球が与えた条件の中で、生まれ進化してきた。言い換えば、生物は、人為的に作られたり、その形状変えた殆どの化学物質には適応困難と思われる。フロンガスが今世紀最高の発明と言われながら、今では使用禁止になっている。又多くの化学物質が、環境ホルモンとして問題に成っている。放射性廃棄物も、若し放射能が漏れても、生物に影響を及ぼさない迄細分化出来ないか？以上は希望であるが、現実的な問題として、埋設深度が問題である。現在都心においては、100M以上の深度の土地利用の検討がなされて居るやに聞く。この深さになると地上権の問題も発生しないと言う。有害放射性物質の半減期が 300 年の長期に亘ることを考慮すれば、地下の利用状況がどの様に進展するか、現時点で予測するのは困難であろう。よって現時点で検討されている深度の数倍の深度は必要と思われる。又この 300 年は現在判明している、ウラン原料採掘可能年数の 4 倍強になる。現在生きて居る者が受けた恩恵から発生した残滓によって、その恩恵を受けられない子孫が、どんな小さな被害、不便をも被ってはいけないのである。若し経済的な問題が発生するとすれば、恩恵を受ける者が負担すべきである。  
第二に放射性廃棄物処分の責任体制である。  
対象廃棄物は、その発生者の責任において安全かつ合理的な処分が実施されることを原則としているが、現在の動燃、関西電力の実態をみてみると、事故そのものを闇に葬ったり、法的に科学技術庁へ報告義務のあるものを握りつぶしているケースが非常に多い。原子力発電は国のエネルギー施策に許して実施されるものであり、一旦事故が発生した場合は、国民全体の生命に係わること、処分した廃棄物の放射能半減期が 300 年にも亘ることを考慮に入れれば、処分及び管理期間の安全上の責任は国が持つべきと思う。経済的負担は原子炉設置者である

番号	No.171	氏名	小川 郁子	年齢	62 才
----	--------	----	-------	----	------

**概要**  
人間が生活していく中で、廃棄物（ゴミ）とのかかわりを切り離すことはできない。まして放射性廃棄物となると、安易な気持で見すごすことはできません。

**意見**  
大変興味深く拝読いたしました。常日頃考え、思っている事を率直に述べさせて、いただきます。

「報告書案」の内容、文章については理解出来ましたしかし、専門的なこととなると意見を申し述べる知識もございません。

人類とエネルギーのかかわりを考えますと、私達が、日頃何気なく使っている電気があります。快適な日常生活が送れるのも、すべてエネルギーの恩恵を受けているからです。国民はめぐまれた生活に慣らされてきました。エネルギー使用の需要と供給のアンバランスから、生じたエネルギー不足に、国民の一人として責任を感じています。

地球環境の面からも、原子力発電へと開発されてきました。

この放射性廃棄物処分の「報告書案」の内容に、日々安全確保を基準とした取組みの姿勢がうかがわれ、頭の下がる思いです。

しかし、やはり不安です。原発が運転されれば必ず、廃棄物は出るはずです。当初からこの廃棄物処分の事を頭に入れ、この「報告書案」が作成された事と思います

しかしながら、国民が一番必配なのは、この処置方法です。土の中に入れてしまえば、物体は見えません。

処分方法に使用する、あらゆる資材等（たとえば、セメントなど）の腐蝕で土壤に漏出し、生活環境への影響です。

それにしても、国内で年々生じる使用済みの、放射性廃棄処分の貯蔵能力が心配です。

番号	No. 172	氏名	小川 元	年齢	56 才
----	---------	----	------	----	------

**概要**  
各省庁の枠をこえた取組が必要だと思います。

**意見**  
低レベル放射性廃棄物については、埋設するか完全燃焼として残骸を残さないようにしてほしいと思いますが時間的な事もあり(案)に提起されているように、地下に埋めるしかないと思います。しかし、地下といっても公共性、又、薬害問題等々多種多様があります。できるできないは別として、素人判断ですが炭鉱の廃山跡を再利用する事はできないものでしょうか。海底何km下に埋めるとか、地下何km下にコンクリート詰にして埋めるとかすれば可能かと思います。ただし、簡単に炭鉱に入る訳にはいきません。そこで炭鉱離職の方を再雇用をすれば地域における産業の活性化にもつながると思います。科学技術庁だけの問題だけでなく、通産省、労働省等にもまたがる事にもなりますが、お互いの利点を集結させて、エネルギーを考へる統一したテーマにと思いますが、何等かの方法を考へていく必要があると思います。

番号	No.173	氏名	坂口 美保	年齢	29 才
----	--------	----	-------	----	------

**概要**  
現行の政令濃度上限値を超える低レベル放射性廃棄物処分に関する記録の保存について

**意見**

現行の低レベル放射性廃棄物の処分に関する記録方法を今以上にきびしくする必要があるのではと思います。現在、処分場の所在地、処分された廃棄物の性状及び数量、含まれる放射性核種の濃度などの記録とされているが、ただ単に事務的に記録書を作成し、数字をならべているのではと思うのです。というのも、先日、動燃東海事業所において、廃棄物貯蔵ピットからプルトニウムで汚染されたごみが見つかったと発表されていました。なぜこういった問題がおこるのでしょうか。処理方法がちがうのでしょうかが、管理責任があまいのではないでしょうか。

廃棄処分場に常に管理モニターを設置し、映像の保存を残し、またパソコンを導入し、基本どおり処分しているか確認できるようにしてはどうでしょう。そして、それを私たち国民にぜひ記録書と共に公開すべきだと思います。

番号	No. 174	氏名	山崎 潤子	年齢	36 才
----	---------	----	-------	----	------

**概要**  
低レベル放射性廃棄物は、ほんとに考えどおりに処分できるか、事故による予想外のものれがあった場合の対応、廃棄物搬入用車両の安全について

**意見**

低レベル放射性廃棄物の処分について安全に処分していることが大事だが処分に対する真剣さと、遅滞なくすることを期待する。ただし事故がおこった場合の対応も重要であると思う、処分したものの、管理について、保存についても安全を感じるが、それをそこまで運ぶ廃棄物搬入車両の安全を考えると夜間だし非公開にしているのではないかと思う

番号	No.175	氏名	加賀田 茂男	年齢	69 才
----	--------	----	--------	----	------

### 概要

被ばく国として、被害意識が当然高い。しかし、安全管理がここまで考えられていることを十分に国民に周知することにより、不安感や過剰なる反応は是正される。

### 意見

あくまで庶民感情としての意見感想を申しあげると、資料を全部目を通すと、私達は放射性廃棄物の処分について、新聞等マスコミから、しかも断片的な情報しか得ていないことが分った。

まったくアバウトな理解をして放射性廃棄物処理について不必要過剰なアレルギー反応をもっている。

この原子力バックエンド対策専門部会報告書案「現行の～案」を見て、専門的で私の知識では理解に苦労するが、読み終えて将来的に明るい展望が開かれ理解力も向上した。

そこで、例えば、政令濃度上限値を超える低レベル放射性廃棄物処分する地下施設が、地上構築物に対する影響や、地下構築物が地上レベルから50～100mの深層にあれば、相当長期の管理期間経過後安全を点検すれば、被ばくは考えられない等が初めて分った。

何代も後の子孫が、偶然あり得ないことではあるが、管理地を使用することがあって、ボーリング等をした場合でも安全許容内であり心配はいらないということなど、広く公開徹底をする必要はある。また、各種パンフレットにて周知徹底をされているが、科学技術庁パンフレット「原子力今日そして明日」をさらに平易にビジュアルなものを、広範囲に機会をとらえて配布をすることが必要と思う。この現行の政令濃度上限値を超える低レベル放射性廃棄物処分の基本的考え方については、数百年後の廃棄物処分の安全が真摯に研究討議されておられることを読みとれました。

「記録や処分の実施状況が適切な方法を用い、かつ国民に分かり易い形で公開される」ことは今後の原子力エネルギー利用の円滑と、国民の認識協力が得られることだと思います。

番号	No.176	氏名	米永 健二	年齢	66 才
----	--------	----	-------	----	------

### 概要

私は原子力バックエンド対策専門部会報告書案の基本的考え方(案)に大筋で賛成します。

### 意見

現行の政令濃度上限値を越える低レベル放射性廃棄物の基本的考え方につきましては、大筋で同意します。

しかし上限値を上廻る廃棄物について、処分方法が、確立されていないのは問題だと思います。

この問題は全世界で確立されている国は別として、近隣アジア諸国であっても、現在原子力発電を行っている国、亦今後原子力発電を行いたい国であっても、放射性廃棄物の処分については問題となったり、亦問題が発生すると思う。私は、第一段階として、近隣アジアの発電実施国 未実施国を含めて、国際会議を開催し、研究対処したらと思います。日本は近隣アジアでは原子力技術に関しては、先進国だと思います。技術立国として、処分方法の研究技術を、提供し、共同で対策を考えたらベターかと思います。亦処分場につきましても、会議を重ねる内に方策が見えてくるのではと、思います。

出来ればロシヤも含めて。

番号	No.177	氏名	鈴木 悅子	年齢	62 才
----	--------	----	-------	----	------

### 概要

原子力発電所の安全性は、技術水準の向上が必要。人為的なミスによる事故の発生、廃棄物の処分の方向が確定していない。発想の転換に基づいて新エネルギーの調査を願う。

### 意見

地球上の化石燃料の限界の危惧から原子力の利用が計られるようになり、地球温暖化による環境問題がクローズアップしてきたこともあり、原子力がエネルギーの主力の位置を占めるのはやむを得ないと思う。しかし、この廃棄物の処理方法を一日も早く解決すべきである。

平成10年6月7日の静岡新聞が中電浜岡原発5号機に関しての地元住民の意見を聴く原子力安全委員会の第2次公開ヒアリング終了の報道をしていた。

国内3基目となる改良型原子炉の安全性についての質疑が重ねられたが、高レベル放射性廃棄物の処分問題については依然答えが出されないままだったと報じている。

5月28日の原子力委員会の対策専門部会の基本的考え方について(案)を読ませて頂いた。基本的な考え方の方向は理解するが、実現には依然として大変困難な問題を伴っていると考える。

発想の転換により、核融合に近いエネルギーの様に考えられる「不活性ガス核反応燃料」を研究する方向も視野にいれるべきと提案する。

核融合が将来的にはエネルギーの主力となることが期待されてはいるが、実験炉の開発の問題、平成5年10月9日(日経夕刊)によれば月面に大量に存在するヘリュウム3を利用する予定とあったが、通産省の資料によれば、2020年頃に採取して核融合燃料とする予定とあった。時間的、経費的な問題など解決すべき課題が多い。

米国人で米国で特許を有している「不活性ガス核反応燃料エンジン製造装置」(大気中に無尽蔵に含まれているヘリュウム・キセノン・クリプトン・アルゴン・ネオンを採取し混合して燃料とする)の改良に対して地球環境を守るために、長く資金面で支援している人がいる。このような事業に対して国が支援を行い一日も早く完成させ、放射性廃棄物の処理から解放と、地球環境保護の推進、化石燃料の消費減少の努力をすべきと考える。

番号	No.178	氏名	小竹 光世	年齢	32 才
----	--------	----	-------	----	------

### 概要

放射性廃棄物処理について

### 意見

色々な、研究で国民のために大変な努力をしている事がよくわかりました。生活していくためにどうしても廃棄物などがでてきてしまうという事をもっと皆に理解してもらう上で公表した方が良いと思います。

一般的に処理場が近所にできると思うと住民は必ず反対すると思いますが、+プラス面ももっとあるということをアピールした方が良いと思います。

最初はわからない言葉が沢山あって読みにくかったのですがちゃんと語句の説明があってきちんと理解できました。

放射性廃棄物と聞くだけで身体に悪いものと考えられますが、それを土にうめたりしても本当に大丈夫なの?と思ってしまいます。

やはり、再利用というのは、むずかしいんだなと思いました。  
これからも国民のために研究していって下さい。  
今度、是非、見学に行ってみたいです。

番号	No. 179	氏名	金丸 多美子	年齢	52 才
----	---------	----	--------	----	------

**概要**  
電子力発電で資源の少ない日本が発展するために最底必要なものから廃棄物として処理の必要な物に対して出来るかぎり自然宇宙にかんげん出来る発案が必要。

**意見**

自然を害しない原子力廃棄物扱いが必要正しい扱い方や正しい報告をすることはもっと原子力に日本が目を向けることが大切だと思います

専門の先生たちに 2000 年以降の最底必要な国の安全審査を受け原子炉の再処理を何段階でも回転式にウランなどを使用して最燃料にして安全利要する放射廃棄物が少なくなるように最終はどんな型で処分するか

処分しなくてもよい廃棄物であればよいが

原子力科学技術はこれから世界日本にも必要なことをもっと知らせてほしい。これからの医療や病院でも使用されていること農業にも良いとのこと日本電力会社も日々努力していることこれからの日本に協力をもとめてほしい

番号	No. 180	氏名	原田 純孝	年齢	67 才
----	---------	----	-------	----	------

**概要**  
原子力の廃棄物処理について二つの考え方っている。  
1. 危険、安全性の問題、処理に各種の心配があるなら中止したら（エネルギーの問題でない。2 廃棄物のリサイクルを。

**意見**

1. 核兵器を作ることのない日本にとって、廃棄物の処理について、地下 2 m に埋めるとか、地下水の汚れ、人工バリヤ、自然バリヤ・コンクリートピット、地下、トンネルに、人への被ばく等エネルギーの確保とのリスクを考えれば、他のエネルギー源と比べ大きな問題があり危険度を考えれば高く（コスト）つくと思う、原子力施設終了時の撤去にも心配、特別な配慮が必要、又原料となるウラン鉱石もいつかは不足、無くなるでしょう。

そこで安全性も高い、無尽の水力、風力、地熱に依る発電に変えたらどうか、廃棄物の処理についての心配 方法が 39 頁にわたって書かれている案を読むと、私は多くの人（外国）からも反対されて止めたらと思う。

外国で浄化し（リサイクル化して）て日本に持ってくる際、日本に着く途中の外国からも航行中に反対され それでも電力会社に協力するのが不思議でたまらない。ヨーロッパ特にデンマーク、ドイツで風力発電を多く見た、日本の東北地方の町で風力発電を実施、余った電力を電力会社に売っているのを聞いた。

2. 処理に科学技術庁、会社が心配され 39 頁にわたって廃棄物の処理が心配されている（方法）私は処理でなく、リサイクル（浄化でなく、外の物質に変え、又別な物に使う、（例、燃料として、）人工衛星は水素ガスを使っているが、東大一教授の雑談で、原子力の廃棄物が燃料として使える日が来ると言っていた。ダイオキシンを吸う植物があり今、原子力大気を吸う可能性の研究されている。化学物質を加え、外の物質に変え、使う、（無害にしてリサイクルする）、薄くして使う、ラドンも原子の一種（ラドン温泉）安全を心配する事も大事だがリサイクル、活用も考えるべきではないか